新刻

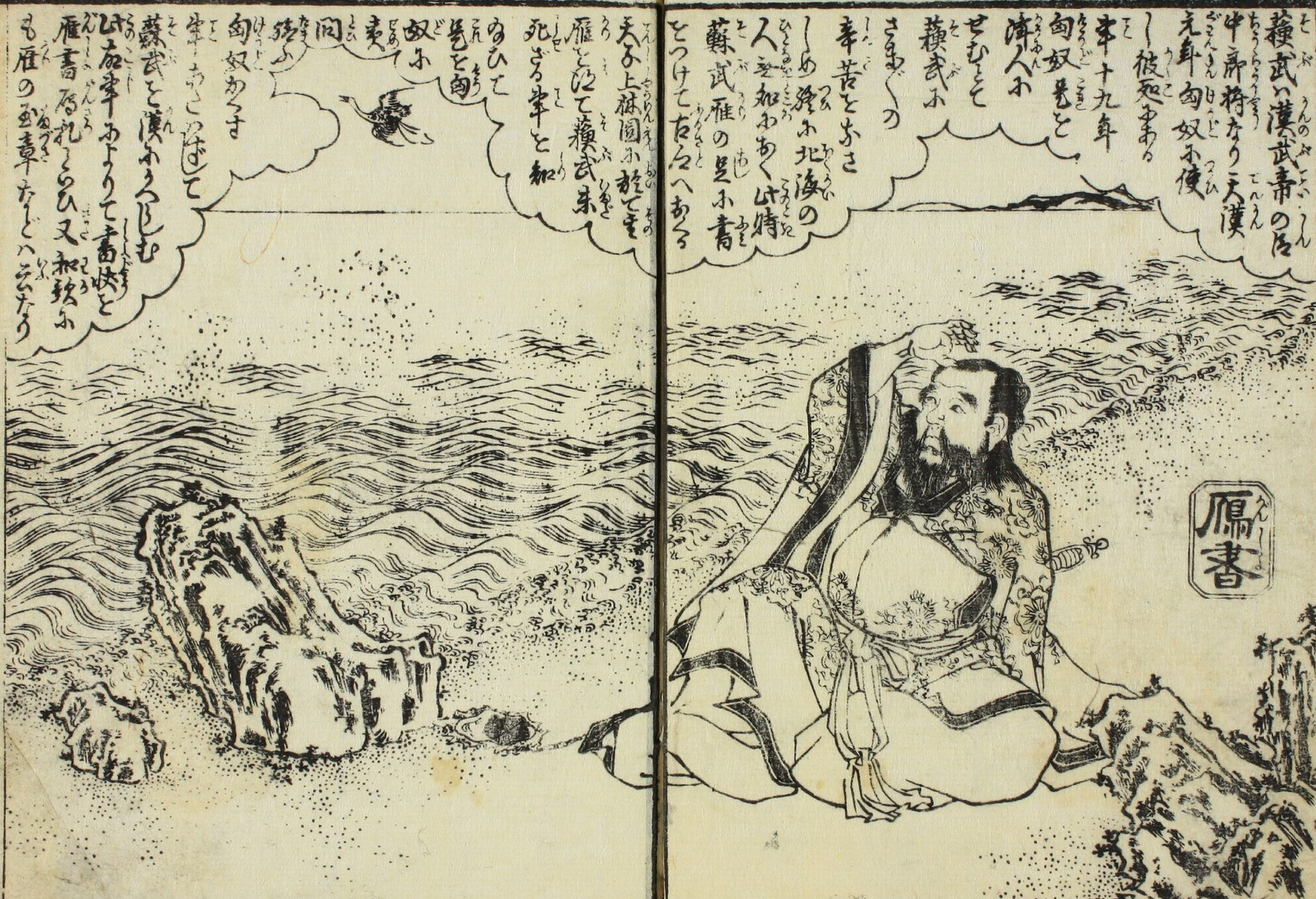
頭書
画入

安(あん)政(せい)用(よう)文(ぶん)章(しやう)　全

叙

余童稚より文筆を好み積年怠らざれども生質愚鈍にして達する事のみ多し然れども倦まず初学の楷梯となるべきを拾ひあつめて一運に成いづや是を編に集め児童に示さむやと思ひ起して今かくなんせきとく贈仲家の人讀及び武家の書札に主とす文法かきつくし且つ余が輩僕ひしとおのづから今こゝに著はす処を中人以下工商等の者の用ゆる趣旨として従来俗書の俗なるものたゞ当用の雑利を挙げ漸くこの道に遊ぶ童蒙に授くるに捷径の多きのみならん淺の識者の訂正を俟つと

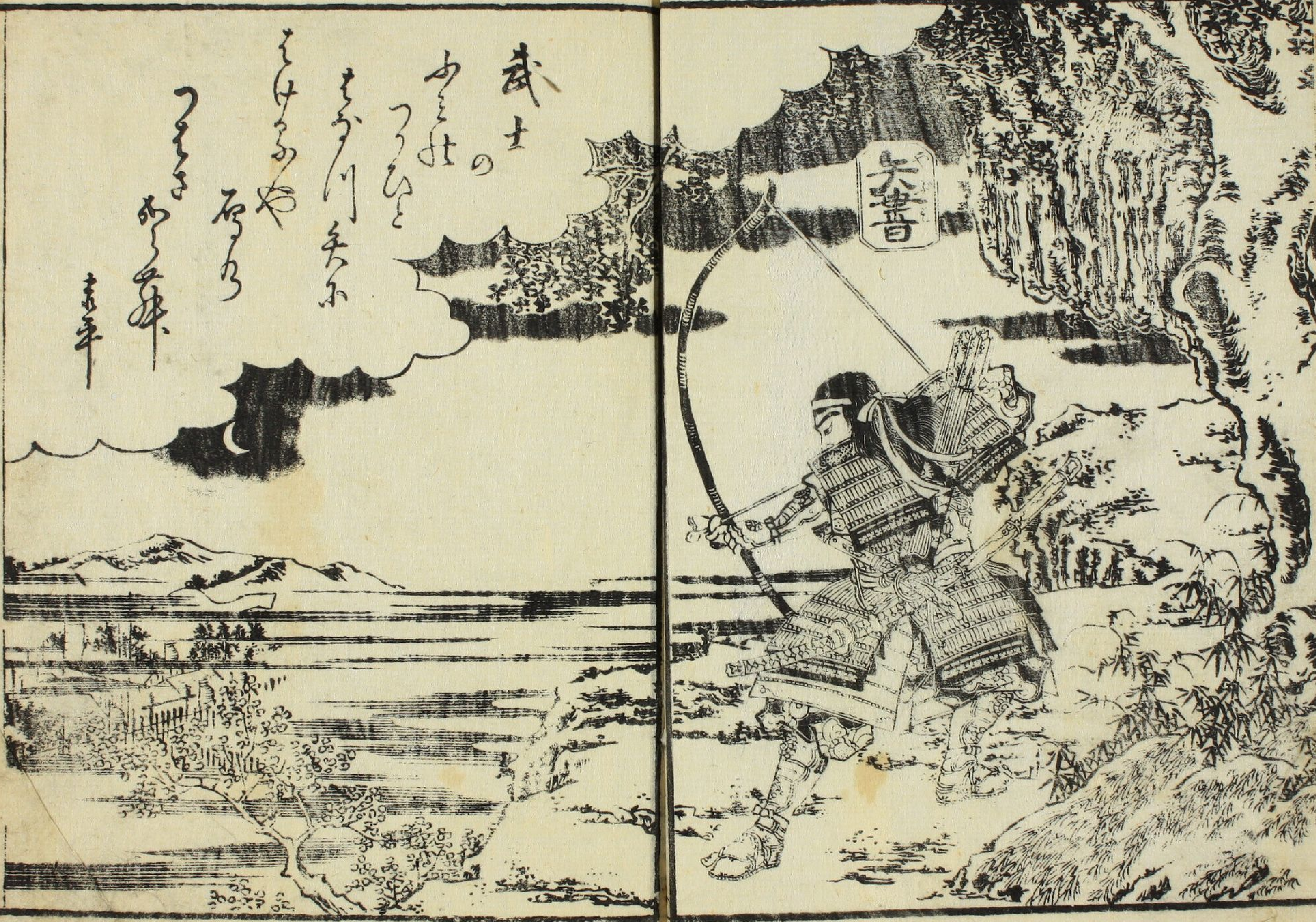
井亀道人誌



雁書

蘇武ハ漢武帝の臣中郎将なり天漢元年匈奴に使し彼地にある事十九年匈奴是を胡人にせむとそ蘇武にさまざまの辛苦をなさしめ終に北海の人無地におく此時蘇武雁の足に書をつけて古郷へおくる天子上林園に於て其雁を得て蘇武未死ざる事を知り給ひて是を匈奴に責て問給ふ匈奴かくす事あらはれて蘇武を漢にかへしむ此故事によりて書状を雁書雁札といひ又和歌にも雁の玉章なとゝ云なり

武士の
ゆみは
つゝひと
まかり手に
まけるかや
石るう
つまさ
ゆゝ女躰
喜平



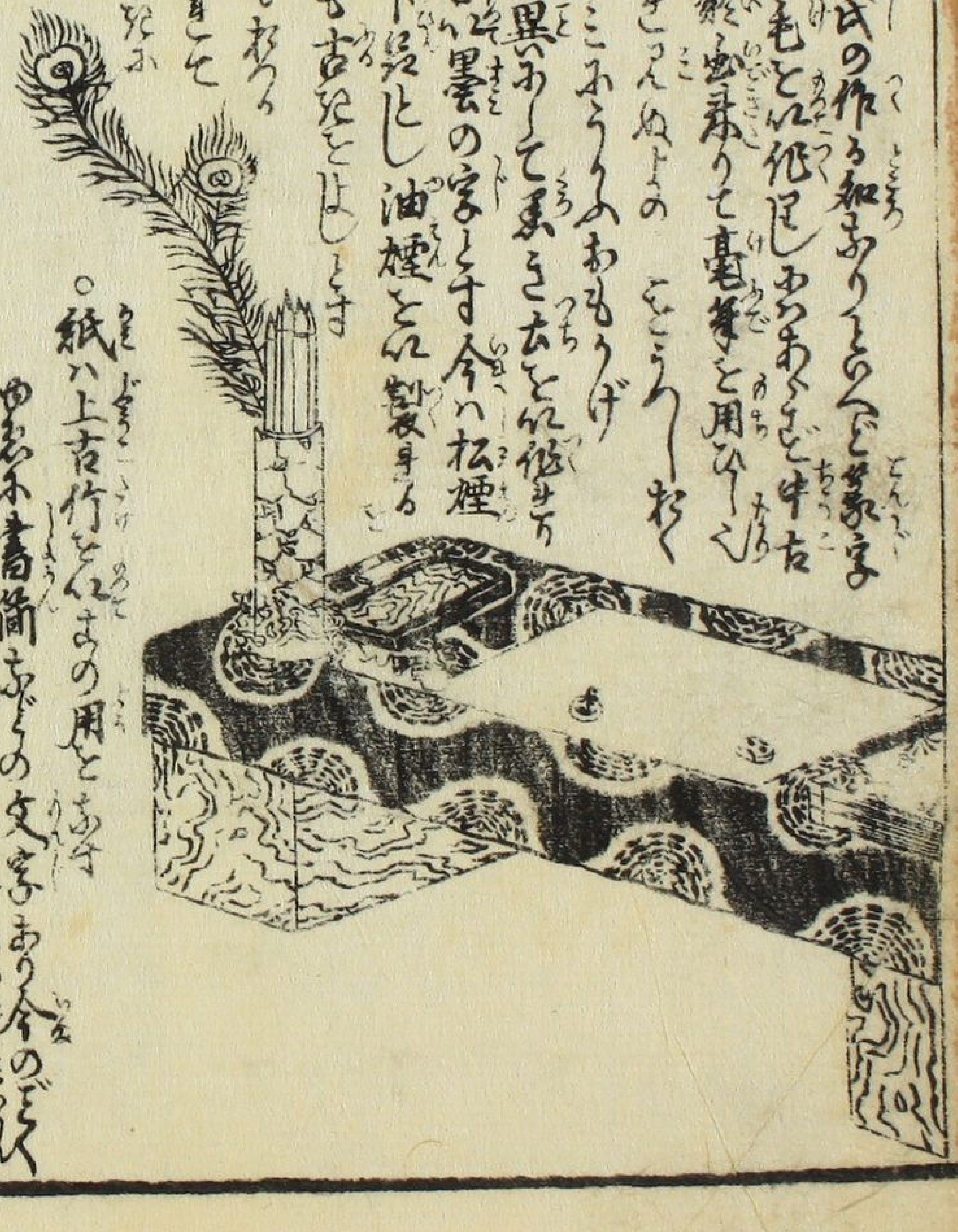
文房之部

○筆ハ上古伏羲氏の作る処なりといへども蒙恬はじめて今のごとく毛を以作りしよりあらため中古八分真艸等の鼬の毛を以て毫筆を用ひしゆゑやうやく近世ハ筆のこころもちよく筆のすがたここにいたりておもむけ

墨も上古製異にして黒き土を以て作り此ゆゑに黒土と墨の字ハ土に從ふ今ハ松煙を以て製するを下品とし油煙を以製するを上品とすいづれも古きをよしとす
すべて墨もふるきハ
あたらしきハ艶こそ
こひしきとえらぶ
えこそ
生字

○硯ハ孔門子路のつくるところといへども委ハ詳ならず端渓石を以上品とす
やうりの名を好きをえらびておほひこあるへ
硯のうへのちりやあぶらをん

○紙ハ上古竹をもつてかの用となす
むかしハ書簡などの文字ありしが今のごとく樹の皮を以紙とすくこと八中華蔡倫
といふ人のはじめてつくりしより
紙を造りて世にひろまりしものの
うつしそめてぞ藝つのりん



新古今集
陸奥乃盤手信夫半衣亭志良努書盡天庸都煩朧石霧美
源頼朝

安政用文章

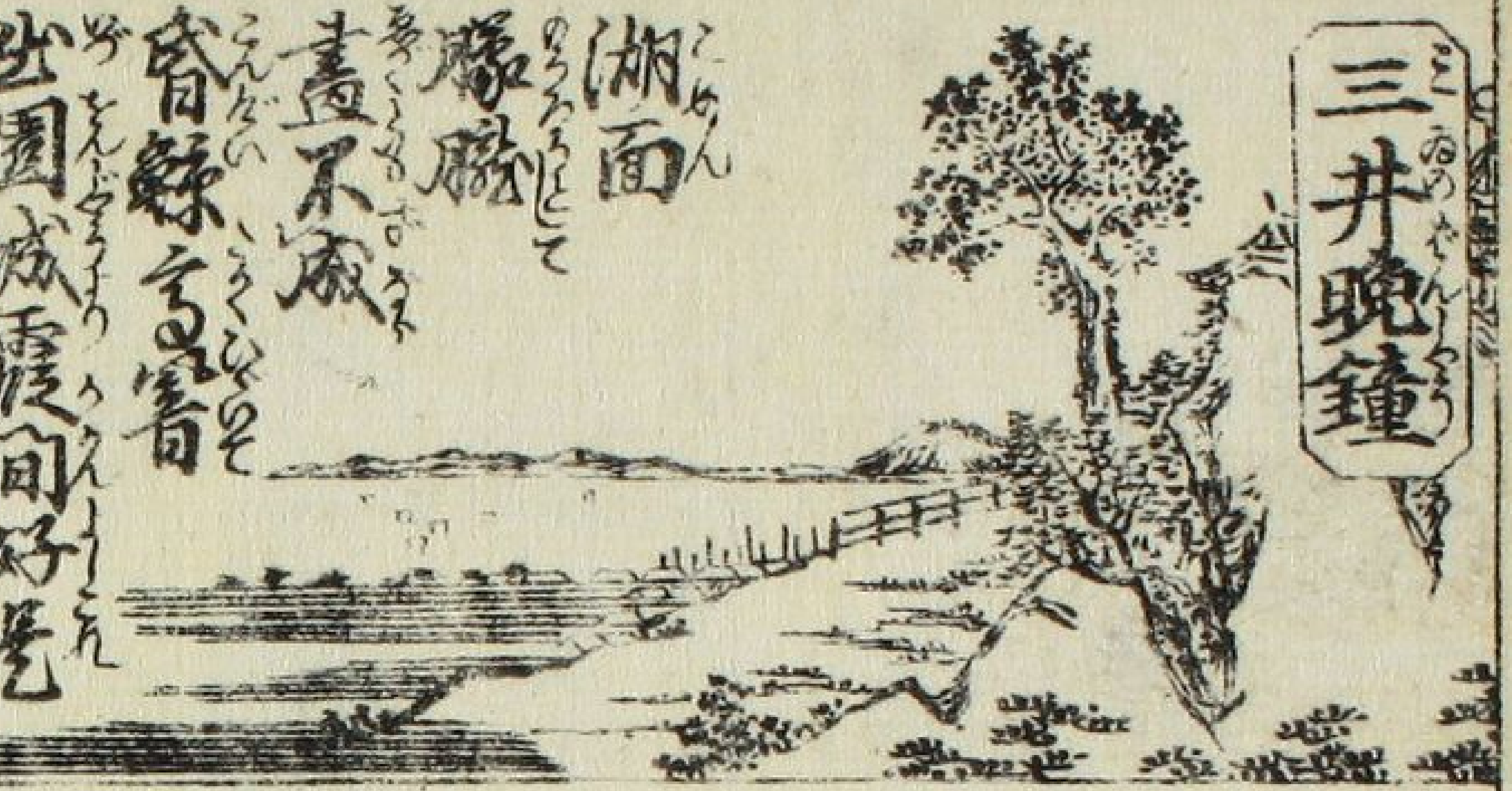
目録

一 年始披露状文 初丁
一 同通例之文 二丁
一 同返書 三丁
一 年始に人を招状 四丁
一 同返事 五丁

九曜文庫

近江八景之圖并詩歌

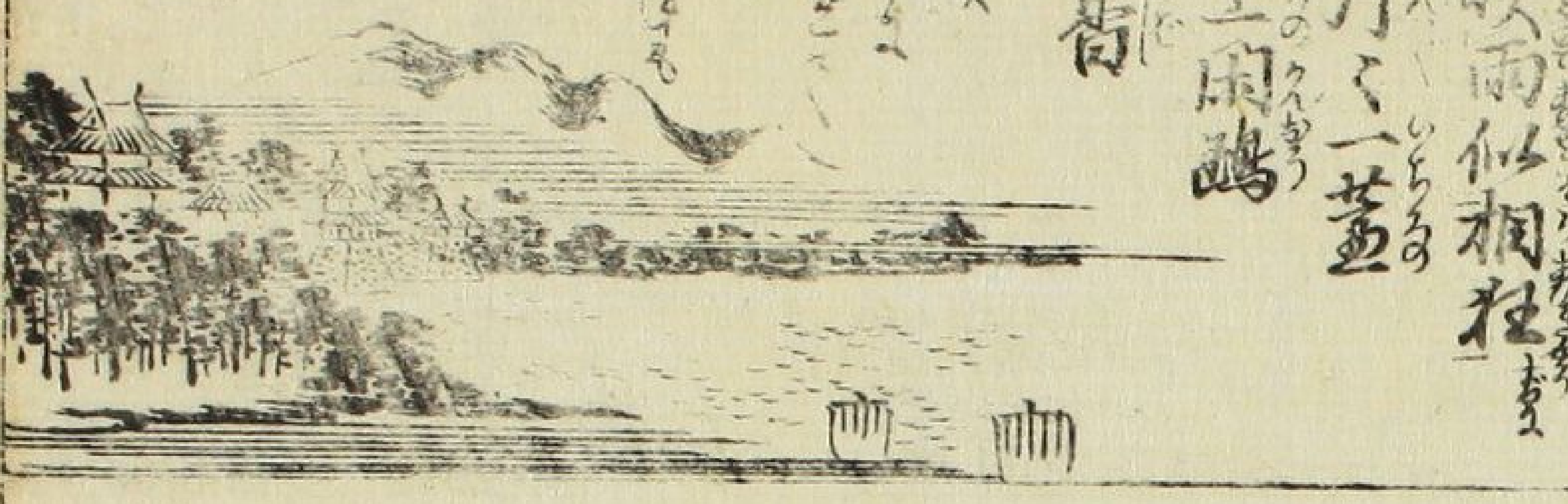
三井晩鐘



湖面
朦朧
畫不成
昏鐘五響
出園城霞間好是
客舩月十倍楓橋
半夜聲

思ふその
あかつきちぎる
はじめぞとまづきく
三井の入あひのこゑ

粟津晴嵐



嵐渡粟津雲去忙
吹霞吹雨似桐狂
山花片々一蓋
浪湖上閑鷗
夢也香

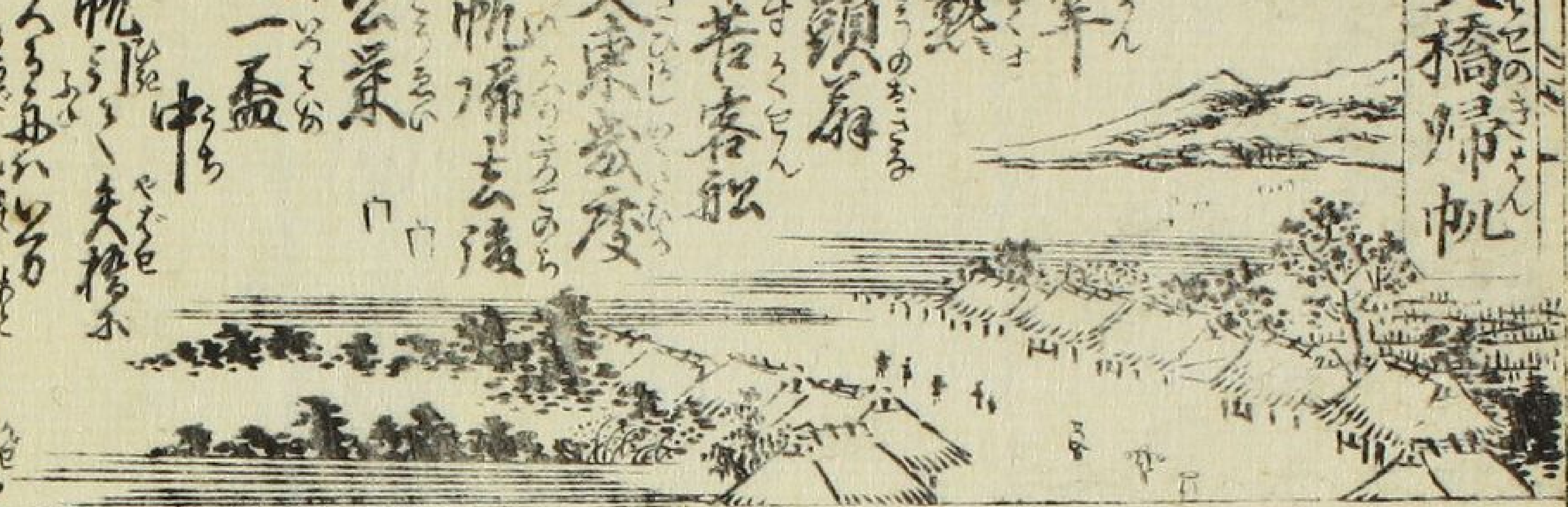
雲はらふ
あらしにつれて
百舩も
ちふねも
なみの
あはづ
によする

一 三月節句祝儀状 七丁
一 同返事 八丁
一 花見誘引之状 九丁
一 同返事 十一丁
一 傳成卿郷飲之事 同
一 五月節句祝儀状 十二丁
一 同返事 十三丁
一 梅雨中送文 十四丁
一 同返事 十五丁
一 暑氣見舞状 十六丁
一 同返翰 十七丁
一 七夕之文 十八丁
一 中元祝儀状 十九丁
一 農夫歡老作書 二十丁
一 八朔祝儀状 廿一丁
一 月見催之文 廿二丁

矢橋帰帆

釣竿手熟白頭翁
幸若客舩西又東岸度
風帆帰去綾呂公業
遠一番中

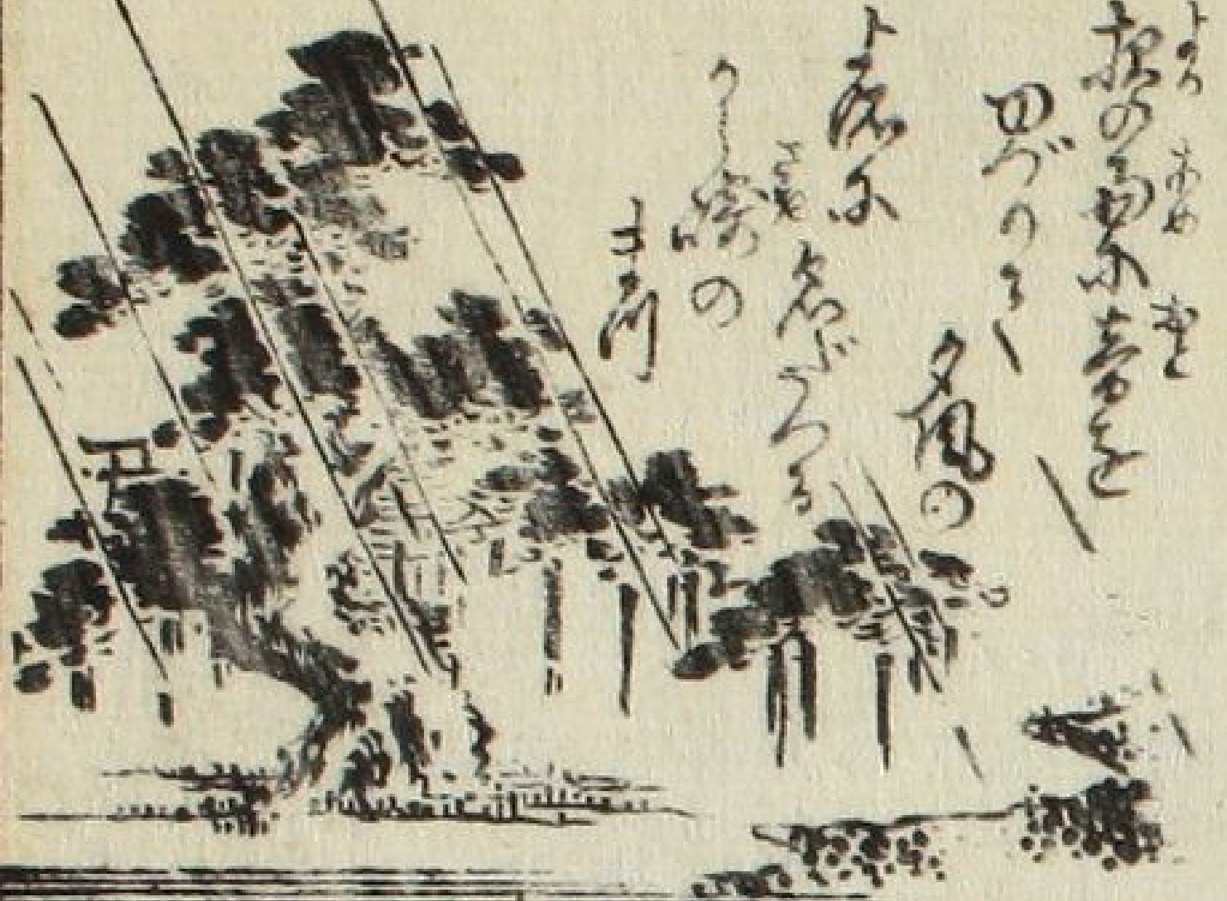
真帆引て矢橋にかへる舟は今
打出の濱の跡のおひ風



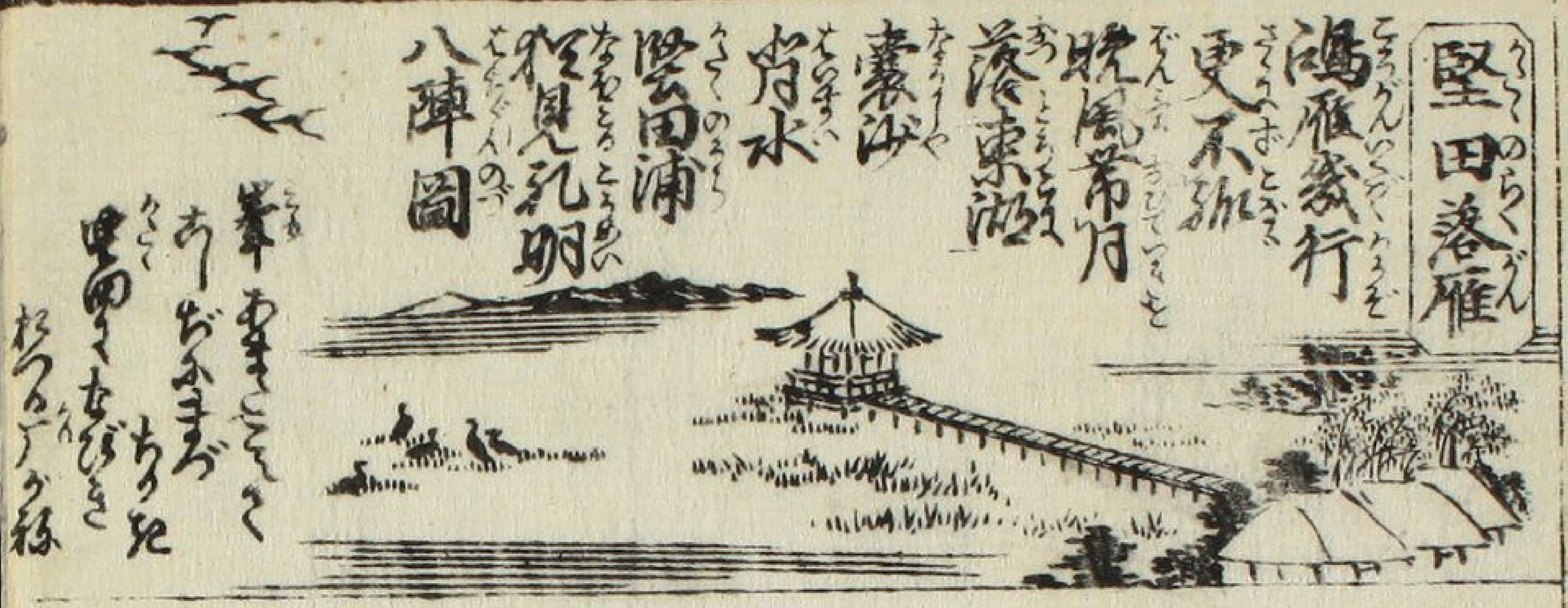
辛崎夜雨

瀲灔湖光朝露晴
玲瓏山色著
雲横唐崎一夜撥積
終宵松風本雨聲

夜の雨に音をゆづりて夕風の
よそに名だゝる
からさきの松



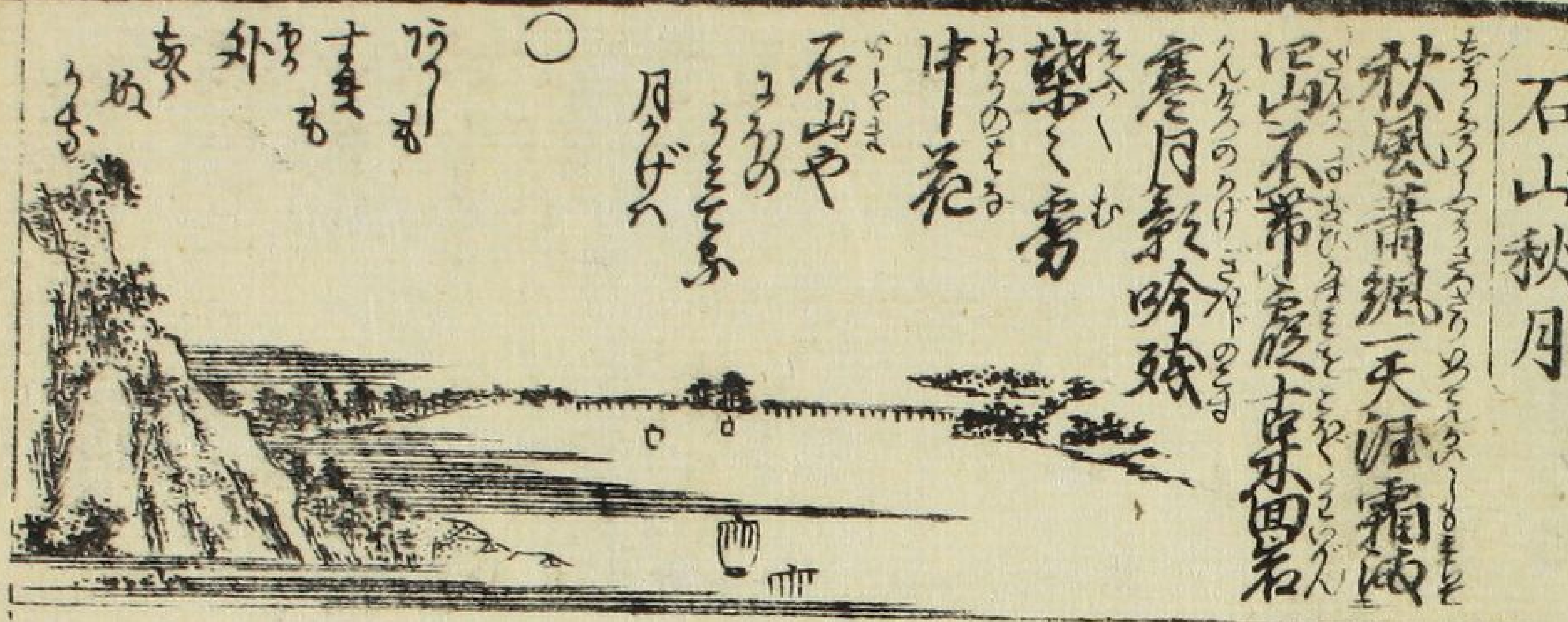
一 同返事　廿三丁
一 九月節句祝儀状　廿四丁
一 同返事　廿五丁
一 矢橋に人招状　廿六丁
一 雲気見舞状　廿七丁
一 同返書　廿八丁
一 雪中之贈文　廿九丁
一 同返辞　三十丁
一 雪中之図　卅一丁
一 歳暮之文　同
一 火事見舞状　卅三丁
一 同返事　卅四丁
一 地震見舞状　卅五丁
一 同返事　卅七丁
一 大坂津波之図　四十丁
一 津波見舞状　四十一丁



堅田落雁

鴻雁叢行更不疏
暁風帯月落東湖
嚢沙背水堅田浦
猶見孔明八陣圖

峯あまたこえてこしぢにまづちかき堅田になびき落るかりかね



石山秋月

秋風蕭颯一天涯霜滴
巌山不帯塵古寺岩
寒月氣吟残
驚く夢中花

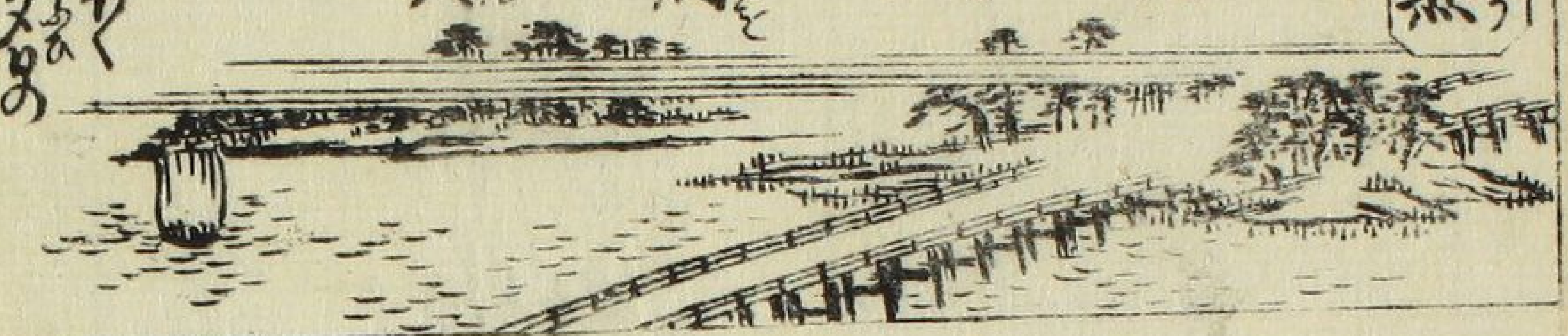
石山やにほのうみてる月かげはあかしもすまも外ならぬかな

一 同返事 四十三丁
一 病氣見舞状 四十五丁
一 同返事 四十六丁
一 留守見舞状 四十八丁
一 紀州和歌山之圖 四十九丁
一 元服歓状 五十一丁
一 別家歓状 五十二丁
一 轉宅歓状 五十三丁
一 婚禮祝儀状 五十四丁
一 同返翰 五十六丁
一 安産歓状 五十七丁
一 年賀祝儀状 五十八丁
一 同返事 五十九丁
一 店開弘状 六十丁
一 賣買交易之圖 同
一 手見世之印遣状 六十二丁

瀬田夕照

沙鳥風帆
帯夕陽
夕陽人家
浜橋長
瀬田曝網
東山月
一色江天
両岸光

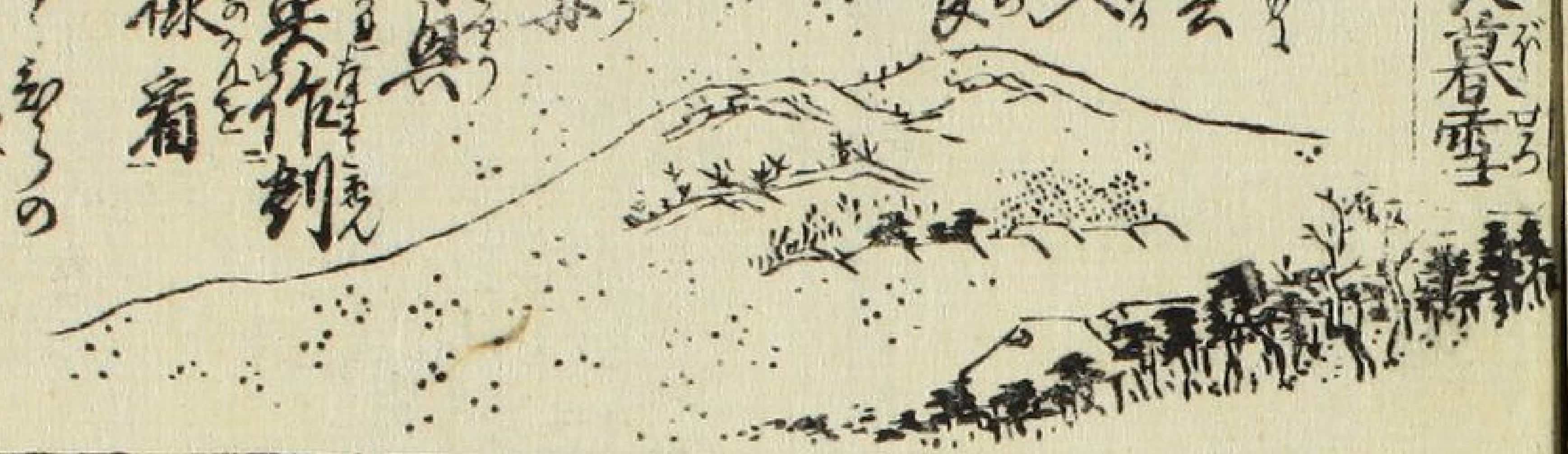
露しぐれもる山とおく過ぎきて夕日のわたるせたの長はし



比良暮雪

風入雲
呉夾天
深比良
巖雪
暮江
蒼煙泉
經轉興
何處英作劍
溪一様看

雪はるゝひらのたか嶺の夕ぐれは花のさかりに過るはるかな



一 注文申遣状　六十三丁
一 利上頼状　六十四丁
一 直下申遣状　六十五丁
一 預物催促状　六十七丁
一 同延引断状　同
一 問屋引付状　六十九丁
一 初而荷主遣状　七十丁
一 商人へ書引付状　七十一丁
一 同礼状　七十二丁
一 間違物吟味状　七十四丁
一 同返事状　七十五丁
一 貨物運送之圖　同
一 算用書差送状　七十七丁
一 代銀催促状　七十八丁
一 同延引断状　八十丁
一 仕切手形遣状　八十一丁

頭書目録

一 近江八景詩歌（八首）
一 文章類語 初丁
一 苗字盡 十三丁
一 小笠原流諸禮之式 二十丁
一 諸書物認之式 三十六丁
一 十二月之異名 四十三丁
一 大日本國盡 四十四丁
一 萬呪術名方鑑 四十七丁
一 百官名盡 東百官 五十六丁
一 破軍星之操方 五十八丁
一 人性有氣无氣之事 五十九丁
一 潮之満干 五十九丁
一 書札認之大旨 六十丁

一 同返事 八十三丁
一 未逢人遣状 八十四丁
一 賓客来臨之図 同
一 人之縁付ニ状 八十六丁
一 道具備之遣状 八十七丁
一 同返事 八十八丁
一 医者之傳手頼状 八十九丁
一 悪物知ニ遣状 九十丁
一 失念之記物務書文 九十一丁
一 郷縁算合状 九十二丁
一 同返事 九十四丁
一 生花席上之図 九十五丁
一 絃事好状 九十六丁
一 人之異見申遣状 九十八丁
一 親子離通断状 百丁
一 同返事 百一丁

一 文章四季時候詞　六十七丁
一 文章高下之九段　七十丁
一 封状之式　七十三丁
一 篇冠構字盡　七十四丁
一 家名盡　七十六丁
一 人性名頭字　八十丁
一 以呂波之事　八十二丁
一 和音五十字片假名　八十三丁
一 日月蝕之字並辨　八十四丁
一 日用字盡
部分充のぶとし
○天文之部　十五丁
○地儀之部　八十六丁
○時令之部　八十九丁
○殿舎之部　九十丁

一 又推而其所状　百二丁
一 同再答　百四丁
一 預り先宿其村状　百五丁
一 預家雑具之盡　百六丁
一 預りニ付暇乞状　百八丁
一 餞別贈状　百九丁
一 縁付入用之品申遣状　百十丁
一 縁付舅之方へ遣状　百十一丁
一 賣物為知状　百十三丁
一 同返事　百
一 約束度違状　百十四丁
一 同返事　百十五丁
一 書會席上之圖　同
一 代筆頼状　百十六丁
一 同返事　百十七丁
一 勧進事之断状　百十八丁

○寶貨之部　百二丁
○器財之部　百二丁
○食物之部　百七丁
○樹木之部　百九丁
○草花之部　百十丁
○禽獣之部　百十二丁
○魚鱗之部　百十四丁

一　同返事　百十九丁
一　神前ニ人招状　百二十丁
一　急病人為レ知状　同
一　死去為レ知状　百二十二丁
一　弔状　又悔状ともいふ　百廿二丁
一　忌明禮状　百廿三丁
一　法事ニ招状　百廿四丁
一　佛事供養之文　百廿五丁

○神佛之部　九十一丁
○人倫之部　九十二丁
○武芸之部　九十五丁
○服飾之部　九十六丁
○絹布之部　九十八丁
○支躰之部　九十九丁
○病痾之部　百丁

一　葬送人眼頼状　百廿六丁
一　同返事　百廿七丁
一　不埒者届状　百廿八丁
一　同返事　百廿九丁
一　出奔人尋状　百三十丁
一　同返事　百卅一丁
一　中遠挨拶状　百卅二丁
一　同返事　百卅五丁

○蟲介之部　百十五丁
一 算学塵劫記
初心必用九餘種　百十七丁ヨリ　百四十二丁マデ
一 十干之圖　巻尾
一 十二支之圖　同
一 不成就日之事　同
頭書目録畢

一 道綸論之圖　百三十五丁
一 留守見舞人状　百卅五丁
一 同返事　百卅七丁
一 不参断状　百卅八丁
一 同返事　百卅九丁
一 饗振舞請状　百四十丁
一 同返事　百四十一丁
一 時候伺披露状　百四十二丁
目録畢

年始披露文

新暦之御慶賀不レ可レ有二尽期一御座候先以上々様益御機嫌能被レ為レ遊二御座一恐悦至極

初丁

○文章類語

鳳暦　改春　新年
新春　新暦　改年
年始　年頭　年甫
御慶　吉慶　吉兆
慶賀　祝詞　祝辞
萬歳　越年　加齢
加年　迎春　迎年
珍重　重畳　目出度
大慶　大悦　恐悦
幸悦　欣喜　欣然
快悦　悦入　満足
安泰　安全　安寧
勇健　勇剛　勇猛
勇勝　堅固　清昌
壮健　繁昌　無事
息災　堅勝　堅剛
尊公　尊君　貴公
貴君　貴様　御前
其許　貴殿　私
拙者　小子　野子
手前　此方　我等
各方　御銘々　銘々

奉存候[illegible]御目出度[illegible]
[illegible]献上仕候御序之砌
御前宜御披露奉[illegible]
此段為年頭之御祝詞
[illegible]申上度如此御座候
猶期永陽之時候恐惶謹言

岩淵藤之丞

正月三日　名乗

松永喜之進様
竹林甚左衛門様

無障　無別条
無御変　無異変
無異儀　不相替
如例年　任先例
例祭　旧例　佳例
右恐　存外
即時　即刻　即座
参上　参和　参向
御様　謝礼　無沙汰
無恙　無難　難儀
都合克　首尾克
結構　難有　辱

同通例之文

改年之御吉慶不可尽有之候目出度御事奉存候先以貴家様弥御堅勝被遊御座

寿命　懇意
懇志　入魂　芳意
深志　懇切　恐入
此度　今度　今般
此節　此頃　此程
此間　此頃　近頃
先頃　先達而　先日
先月　先年　前年
去月　去年　日外
昨日　昨夜　今晩
今朝　今日　今夕
明朝　明晩　明日

奉寿候次当方無異越年仕候乍憚御安意可被成下候御祝詞申上度旁猶期永陽之時候

いかのぼり
きのふの
空の
ありどころ
蕪村

旧交　今交　親交

旦暮　程[illegible]　[illegible]

独知　[illegible]　[illegible]

御覧　随而　[illegible]

別書　決而　別紙

此段　此所　此条

絶交　[illegible]　[illegible]

當地　當和　家許

其表　其地　御地

御揃　打揃　御一同

御一門　[illegible]　一同

安堵　[illegible]　安心

如御　[illegible]　如命

来年　来春　来[illegible]

其後　已来　以来

以後　此後　久々

永々　打続　良久

暫　無程　[illegible]

一寸　[illegible]　早速

時は思懐談候

御返書

貴札辱拝見仕候

如仰新春之御吉兆

千里同風目出度申納候

倍御安康被成御超歳

珍重之至奉存候由

随而拙家無異早く御放念被下

乍恐年始之御礼言上

尚期永陽之時可申述候

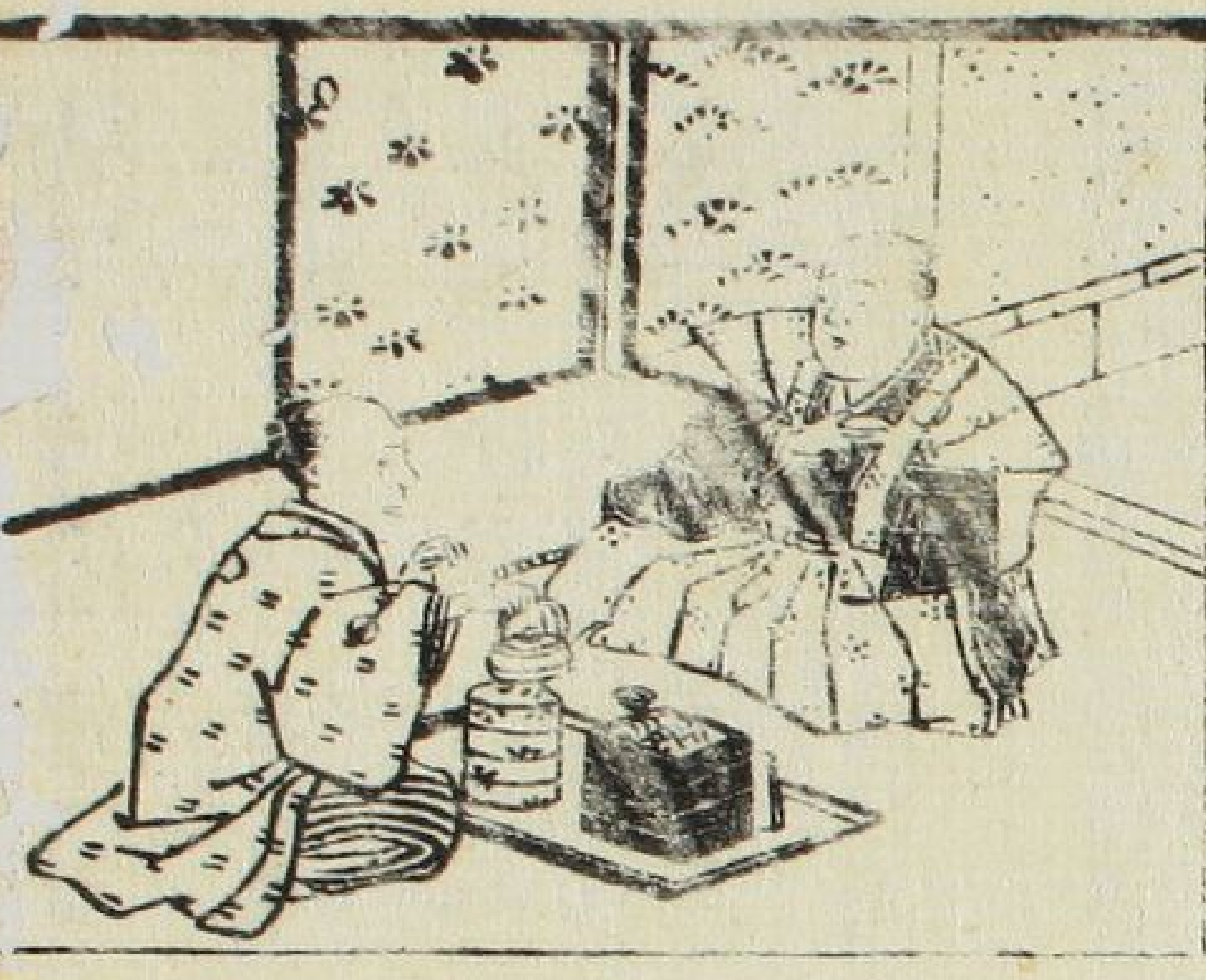
[illegible]急々　急速
[illegible]
無[illegible]
不[illegible]
[illegible]

畢竟出勤之[illegible]御座[illegible]
[illegible]之時ハ[illegible]
年始之人[illegible]
春運之[illegible]御座候処
[illegible]安全[illegible]候

寔ニ当春ハ[illegible]之儀
長閑ニ覚一入満[illegible]ハ
[illegible]心持ハ[illegible]
打寄[illegible]
御[illegible]

斯〻 趣 被為
兼而 委以 中〻
却而 兼業 兼題
兼略 不時 不来
不届 如在 如庭
如何 何様 何分
何卒 相談 和談
直談 内談 密談
対談 挨拶 無躰
叮嚀 相請 請待
無上 無和 無他
猶以 猶又 御免

然者愚作之[illegible]其御[illegible]
此品御用ひ之節ハ差出可申
之間無[illegible]相待可申く
御返事
[illegible]



御酒 御肴 生肴
左右 閑暇 閑日
手透 [illegible] 積り
隠居 退屈 病気
平外 外外 養生
御着物 御送物

来命[illegible]未[illegible]候
所[illegible]御座候[illegible]
[illegible]
預[illegible]申[illegible]
無[illegible]参上可仕候

頂戴（てうだい） [illegible]味 賞味（しやうみ）
賞翫（しやうくわん） [illegible] 満腹（まんぷく）
挨拶（あいさつ） [illegible] 沢山（たくさん）
遊山（ゆさん） 遊楽（ゆらく） 遊興
慰（なぐさみ） [illegible] [illegible]
普請（ふしん） 建立（こんりう） 新宅
隠居（いんきよ） 別家（べつけ） 本家
親類（しんるい） 親族（しんぞく） 一家
家督（かとく） 相続（さうぞく） 名跡
受継（うけつぎ） [illegible] 吉日
良辰（りやうしん） 吉辰（きつしん） 日撰
日柄（ひがら） 日和（ひより） 引移（ひきうつり）

[illegible]

移徙 移住 住居
入組（いりくみ） 入込（いりこみ） 入交（いりまじり）
入乱（いりみだれ） 入智 老人（らうじん）
[illegible] 成人（せいじん） 成長（せいちやう）
器用（きよう） 発明（はつめい） 才智（さいち）
才覚（さいかく） 利口（りこう） 聡明（そうめい）
家業（かぎやう） [illegible] 商売（しやうばい）
農業（のうぎやう） 耕作（かうさく） 稼
骨折（ほねをり） 働（はたらき） 相励（あひはげみ）
休息（きうそく） 休日（きうじつ） 懈怠（けだい）
[illegible] 始末（しまつ） 質素
勤務 勤学 勤勉（きんべん）

[illegible] 上巳（じやうし）之（の）御（ご）祝（しう）儀（ぎ）目（め）出（で）度（たく） [illegible]

勘考　算用　算勘
費　費　無益
無腹蔵　無覚束
無沙汰　無如在
寄懸　貪欲　吟味
損徳　現銀　掛座
貸借　證文　證札
請出　請取　手形
下直　高札　下値
相札　札調　札済
貸利　貸入　金銀
為替　両替　取引
気扱　相渡　正直
正路　律義　無縫
無縫　相改　積送
荷物　預荷　出船
渡海　海上　無難
無難　順風　順路
吟味　並置　並替
出立　門出　出口
心得　用意　用心
心得　済ム　篤与
得与　遂と　有増
大方　巨細　詳

細々敷御披露可申候
有之御息女様御悦
之[illegible]奉[illegible]候[illegible]
其[illegible]屏風[illegible]
一箇進呈之[illegible]
筆[illegible]内訓宜[illegible]
[illegible]候[illegible]
同[illegible]返[illegible]
如来[illegible]
御[illegible]御同前目出度[illegible]申

不審 不許 不存
存外 不慮 案外
不思議 不寄存
内分 内證 内済
内談 内輪 内乱
内検 内外 内実

不都合 不辞
不埒 不人情
不始末 不心得
不覚悟 不得心
分別 了簡 所存
肝要 格別 格段
格外 相応 相當
得手 勝手 我儘
気随 外聞 外見
放埒 我意 備又
且又 将又 又以
行儀 作法 法式

調而御祝言仲人の労
聟娘御恵[illegible]人
夫婦相悦益繁栄
眉作[illegible]白粧[illegible]
帽子[illegible]礼
新婦入ニ舅姑之家ニ
[illegible]見[illegible]快
[illegible]
[illegible]
[illegible]

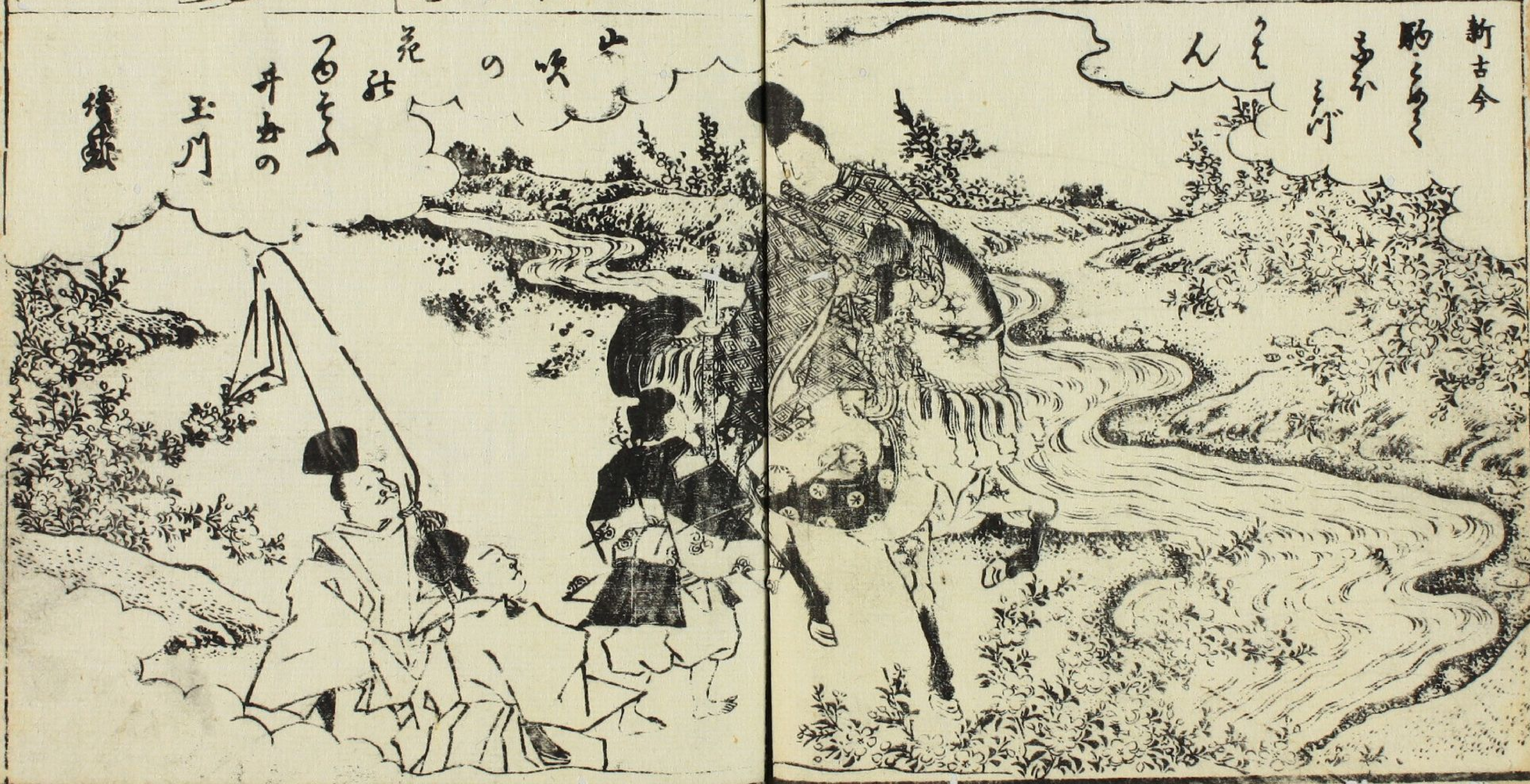
[illegible] 御出 御[illegible]
御入 光來 光駕
枉駕 入來 來臨
來訪 御尋 尋問
見舞 医術 療治
按摩 按腹 針灸
毒忌 快氣 全快
本復 達者 丈夫
振舞 馳走 饗應
料理 庖丁 加減
加味 毒味 隔心
遅[illegible] [illegible] [illegible]

候之由寺社之名所者
年久[illegible]
山野之[illegible]一同[illegible]
[illegible]
[illegible]

亡失 亡却 無音
無沙汰 等閑 疎遠
物遠 物忘 忘失
妄執 妄念 因縁
因果 由緒 意味
意趣 以來 已後
向後 後日 後來
行末 以前 前廉
幾久 幾重 幾度
每度 同前 同意
同心 同氣 治定
變心 [illegible] 覺悟

候者[illegible]
各[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

嬉悲　労　心中
心底　心底　不足
希　願　願
祈　念　思
慕　悪　依怙
贔屓　自慢　我慢
尾籠　比興　恥辱
口惜　無念　後悔
歎敷　残念　残心
残多　中々　余波
云遣　云傳　云送
云合　云含　云違
云開　明白　實正
天晴　弁口　利口
利発　才物　手際
拝見　拝眉　拝顔
面謁　面上　拝披
拝面　披覧　披見



新古今
駒とめて
なほ水かは
ん
山吹の
花の露
そふ
井出の
玉川
俊成

[illegible]目見　申述
献上　言上　進上
進覧　進入　入覧
入御一覧　無御用
受領　[illegible]　拝領
収納　相納　笑留
納受　御受　[illegible]
拝披　[illegible]　落手
返事　返書　[illegible]
返翰　芳翰　[illegible]
[illegible]　めでたし
文章類語終

内々是非御同心可有之
[illegible]
[illegible]返報
御遊覧之儀思召立
有之候付御案内可仕候

苗字盡

今川　板倉　市橋
伊藤　伊東　池田
岩城　村越　伊庭
飯尾　飯田　[illegible]
飯野　飯沼　一色
猪股　庵原　井上
今井　石黒　井伊
稲田　稲毛　稲葉
稲垣　[illegible]　生駒
[illegible]　今村

御細書之趣珍重之至
一入賞翫之事ニ奉存
風雨之障明日之儀
[illegible]
[illegible]

五十嵐　伊集院
六角　六郷　畠山
長谷川　長谷部
蜂須賀　波多野
[illegible]　[illegible]　服部
[illegible]　馬場　花房
初鹿　初田　速水
早川　羽田　羽柴
橋　伴　原
畑　萩　林
榛原　榛沢　濱名
[illegible]　萩原　[illegible]
西尾　仁科　丹羽
丹生　蜷川　錦織
仁田　仁木　新田
保科　北条　細川
堀川　堀田　星野
本田　本庄　本間
本多　本堂　穂積
戸次　日置　別所
逸見　別府　戸田
土肥　土岐　土井
徳山　[illegible]　富田
[illegible]　[illegible]　大寺

[illegible]
右[illegible]
[illegible]
端午之御[illegible]
[illegible]
息様初而之御祝[illegible]
定而[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] [illegible] 登田
外山 外村 百々
鳥居 中條 千村
千葉 千種 千原
沼田 沼澤 額田
岡村 岡田 岡部
長田 長船 奥平
織田 小田 緒方
小栗 小野 小槻
小山 小塩 小原
大原 大内 大伴
大庭 大江 大谷

小笠原 大和田
脇坂 脇屋 亘理
鷲田 鷲尾 渡辺
分部 和知 和田
和氣 [illegible] 加納
[illegible] [illegible] 加藤

可被仰付候恐々謹言
御返事
御貴命重畳忝
存奉候拝眉ニ[illegible]
御[illegible]様之御[illegible]
御恵投被成下忝存
奉候[illegible]
御座候[illegible]
[illegible]
[illegible]

九谷　神戸　神崎
風早　高山　高力
川端　河合　河野
上坂　上月　上林
葛西　葛城　金沢
金田　金子　片桐
糟谷　梶原　蒲生
蒲原　蔭山　鎌倉
鎌田　喜田　[illegible]
[illegible]　梶井　竹内
玉田　玉置　伊達
更科　寺尾　大乃寺
武田　多田　立花
高階　高桑　高橋
田中　田原　田村
戸田　吉田　横山
吉野　芳沢　米倉
曽我　曽根　十河
鶴沢　塚田　塚本
津田　津村　筒井
辻門　柘植　土屋
都筑　津島　津山
根津　根来　根岸
能勢　野村　中井

梅雨中遣文

五月雨打續徒然
無[illegible]
御[illegible]一向
但[illegible]
雨中御苦労存候
久々御差支も無之候ハヽ
御入来[illegible]
知音の[illegible]
[illegible]
不宣

中西 中江 成瀬
那波 名和 内藤
南條 南部 那須
長坂 長尾 長束
鍋島 並河 名張
名越 中根 楢林
永野 永井 永田
長沢 梅村 梅園
梅渓 村田 村井
宗像 村上 宗積
向井 海野 植村
宇都宮 宇佐美
卜部 内海 臼井
臼杵 上田 上杉
裏松 植松 上野
宇賀 能見 野呂
能勢 野村 野木
倉橋 倉谷 桑田
工藤 朽木 鞍谷
九鬼 久世 久下
久我 楠留 日下部
山田 山科 山名
山川 山本 山村
山下 山崎 山中

御返事

極暑之[illegible]連日之[illegible]
引籠居候処[illegible]
折柄[illegible]御馳走之品[illegible]
[illegible]

御[illegible]難有奉存候
[illegible]可仕
[illegible]
暑氣見舞状
一筆啓上仕候甚暑

山路　山本　山口
八代　八木　矢部
矢田　簗田　安田
安村　安井　柳生
柳沢　山崎　柳田
間部　真壁　増田
増山　前田　前川
松浦　牧野　松下
松永　馬渕　益渕
福井　福田　福本
福嶋　福原　船越
藤谷　藤江　藤枝

〆節御座候御覧
御揃御清福被成御座
[illegible]
[illegible]
御安意可被下候

古田　古川　古林
小西　小泉　小出
小牧　近藤　巨勢
後藤　誉田　惟住
惟任　五嶋　児嶋
児玉　駒井　小石
小早川　駒木根
手嶋　手塚　寺尾
寺田　寺井　寺本
寺沢　寺西　芥川
朝比奈　浅倉
飛鳥井　飯沼

[illegible]
御座候恐惶謹言
同　返翰
貴書辱拝見仕候
如来諭[illegible]大目出

若田 有賀 有馬
麻田 浅野 浅井
浅山 浅利 秋庭
秋田 尼子 甘利
青山 青木 青柳
荒木 荒尾 朝倉
足立 安達 足利
安藤 安宅 安部
赤松 阿部 赤井
赤星 赤坂 酒井
相良 相馬 真田
榊原 佐々木 佐竹
佐藤 里村 雑賀
西條 三枝 里見
坂田 佐治 佐倉
菊池 小川 小村
吉川 吉良 京極
木下 木曾 木村

御座候処其御表御一同
御安静之由[illegible]
不斜存候時節御内
[illegible]
仕合[illegible]
上[illegible]御見舞為
[illegible]入[illegible]御座候
七夕之文
星[illegible]之御[illegible]
[illegible]

宇都宮　宇多川
清原　[illegible]　湯浅
結城　[illegible]　由良
弓削　由利　毛受
三木　三浦　三好
三谷　三宅　三村
三輪　[illegible]　宮本
宮崎　[illegible]　水嶋
水口　壬生　溝口
三橋　[illegible]　箕輪
[illegible]　[illegible]　[illegible]
志村　白門　白井
篠塚　篠原　篠田
島津　信太　信夫
宍戸　神保　[illegible]
渋谷　斯波　新居
新庄　[illegible]　進藤
柴田　柴村　代田
清水　滋賀　滋村
下妻　下河辺
滋野井　清水谷
信楽　江馬　江良
遠藤　江田　塩谷
平井　疋田　樋口

[illegible]

菱川（ひしかは）　廣田（ひろた）　廣澤（ひろさは）
廣瀬（ひろせ）　廣橋（ひろはし）　平田（ひらた）
一柳（ひとつやなぎ）　平門（ひらかど）　平野（ひらの）
平山（ひらやま）　平方（ひらかた）　日野（ひの）
桃井（もものゐ）　桃田（ももた）　森田（もりた）
森川（もりかは）　森本（もりもと）　毛利（もうり）
望月（もちづき）　最上（もがみ）　守口（もりぐち）
守部（もりべ）　守屋（もりや）　物部（ものべ）
本橋（もとはし）　瀬山（せやま）　関（せき）
瀬川（せがは）　洗馬（せば）　関口（せきぐち）
関戸（せきど）　瀬尾（せのを）　仙石（せんごく）
鈴木（すずき）　杉本（すぎもと）　杉原（すぎはら）
陶（すゑ）　杉浦（すぎうら）　杉山（すぎやま）
鷲見（すみ）　須[illegible]（す）　村主（すぐり）
須藤（すどう）　首藤（すどう）　須田（すだ）
須原（すはら）　菅生（すがふ）　菅原（すがはら）
菅沼（すがぬま）　隅田（すみだ）
萬字盡畢（よろづ　とをり）

文月や
[illegible]
[illegible]
むすめの子　其角

御一覧（ごいちらん）可有之候（あるべくこれ）

中元祝儀状（ちうげんしうぎ）

中元之御祝儀目（ちうげんのごしうぎめ）

出度（でたく）[illegible]存候（ぞんじ）残暑（ざんしよ）[illegible]

[illegible]御座候（ござ）[illegible]弥（いよ〱）御清康（ごせいかう）[illegible]

奉賀寿候（たてまつりがじゆ）[illegible]此節（このせつ）[illegible]

[illegible]之（の）御祝儀迄（ごしうぎまで）

入貴覧候（きらん）御笑納（ごせうなう）[illegible]

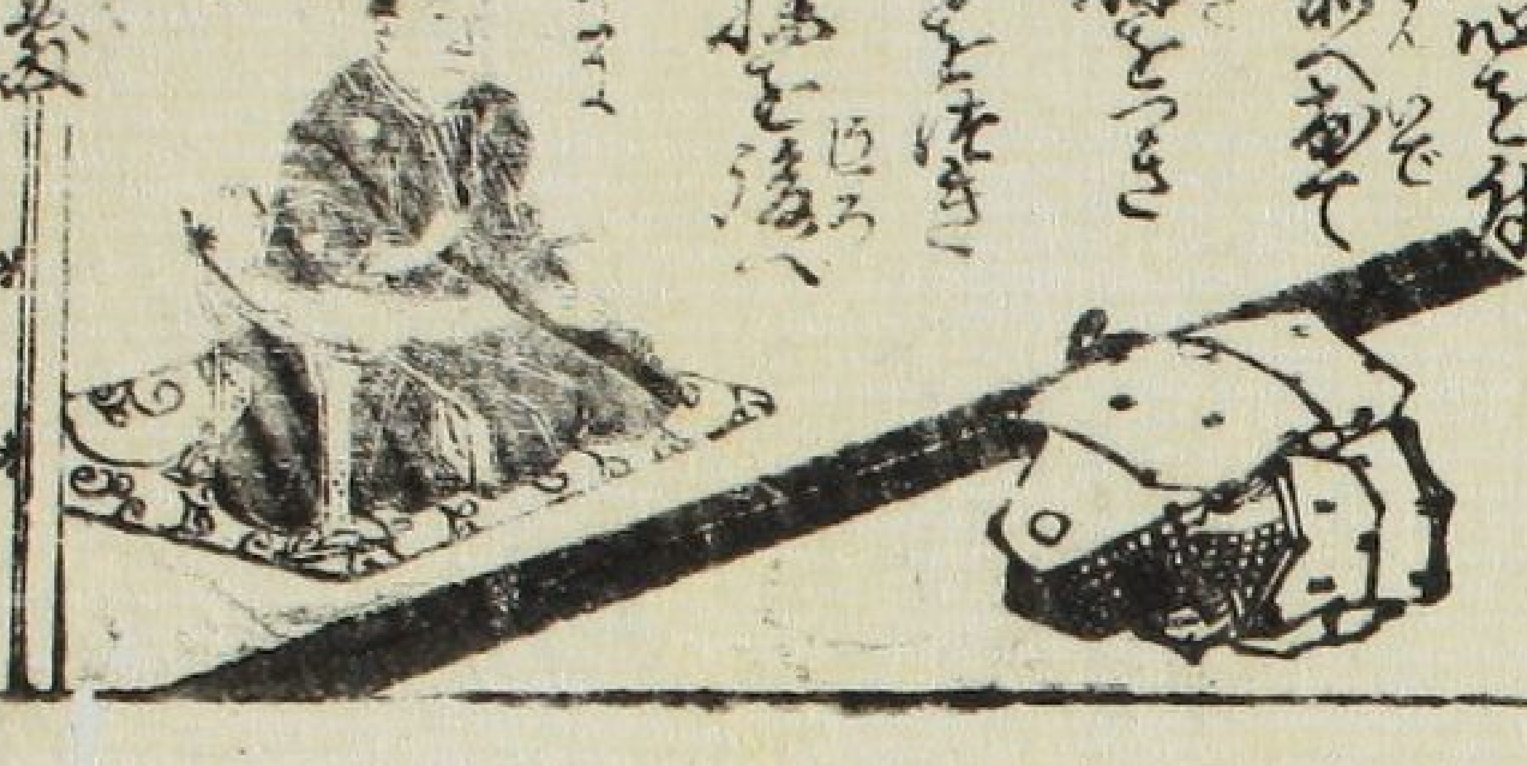
下（くださ）[illegible]

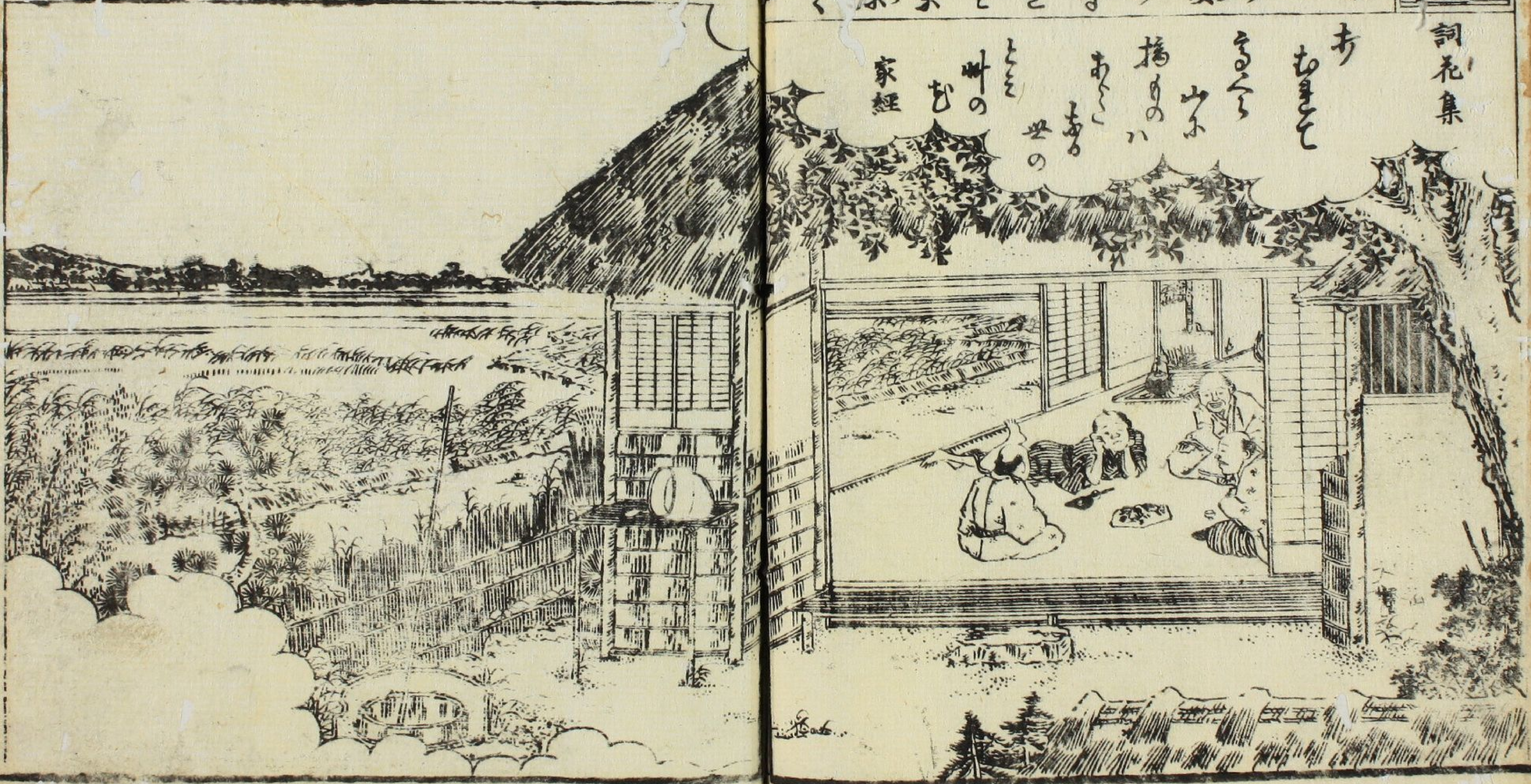
八朔祝儀状（はつさくしうぎ）

小笠原流諸禮畫式

人に交るの禮ハ辭讓を要とす辭讓とハ退て謙をもとす人にへりくだり己を慎むるもたとへハ友深き親族といへ人を侮らし先我ハ着座をいとふ事卑下して其ハいくハ敬を甚をとつて始を本と人に讓りあらそふの難き事足利義滿公の時小笠原伊勢今川の三家ヲ定て其式を定め給ふ

○貴人ハ御目見するにハ御次の間まて取て扇子などをぬきとり又懐中物提物などおちざる様心を附扨御前へ進て左の膝をつき左の手を突き右の膝を後へ引禮見苦敷のよそ容ちを能たの事を



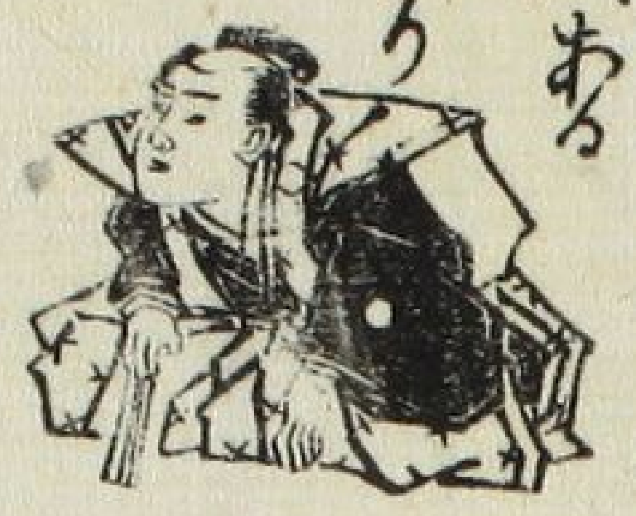


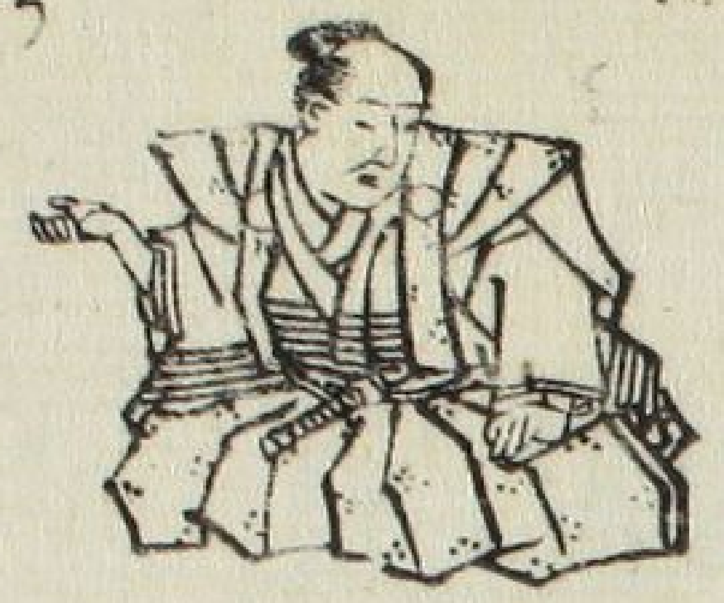
詞花集

す
むまても
なるゝ
山ふ
橋ものハ
あくしき
世の
ことゝ
艸のむ

家經

引合に左右の手を入て仕舞
の紐を解すこと一合
肩腰なとも不揃ふ有
こころ[illegible]両の臂を伏て
先間を広くして[illegible]参人
之時膝の辺[illegible]同様
さて[illegible]一拝礼するなり
むかしの作法に相違
以[illegible]年[illegible]着下
[illegible]各[illegible]次第に[illegible]
[illegible]両手を左右へ
と[illegible]
其[illegible]別[illegible]
○人[illegible]
[illegible]時ハ[illegible]
あり[illegible]家
一礼し我ある
べき座より
ありて
礼へし
客座[illegible]
人を
様か
ざるハ
一人上らうそ
かたハらにさし控え
又時宜に及ばず
礼ありてもよろし





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

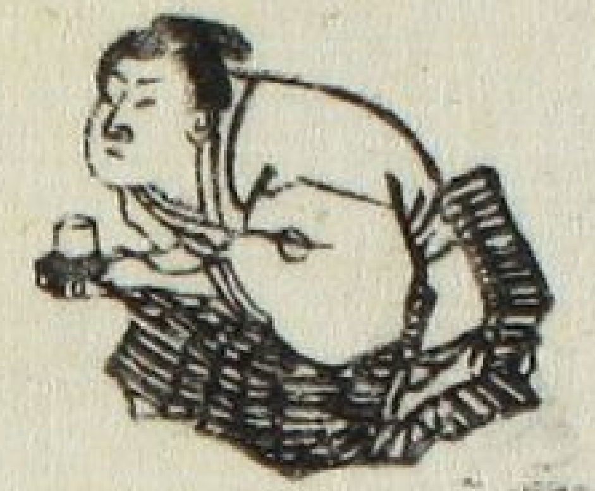
[illegible]

[illegible]

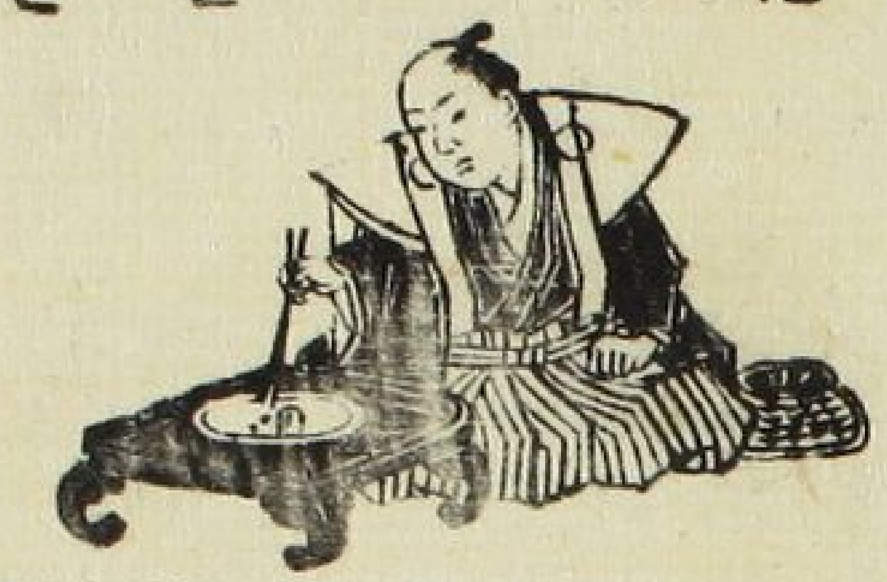
[illegible]

[illegible]

○尋常(つね)の茶(ちや)を持出(もちいだ)す事
天目(ひざつき)の台(だい)にて盆(ぼん)を用(もち)ゆる
持(もち)出(で)る時手とそこに指(ゆび)をかけて
客(きやく)の前(まへ)にすゑ一寸(ちよつと)手をつき
滑(すべ)り出(いだ)すやう
心持(こゝろもち)にて
さし出(いだ)す
客人(きやくじん)より
自分(じぶん)より
其茶碗(そのちやわん)を
其侭(そのまゝ)仕舞(しまふ)べし
○火鉢(ひばち)を出(いだ)すハ客(きやく)二ッ
の前と人(ひと)の前(まへ)にて両脇(りやうわき)
を取て持(もち)出(いだ)すやう
して客(きやく)の手(て)のとゞくやうに



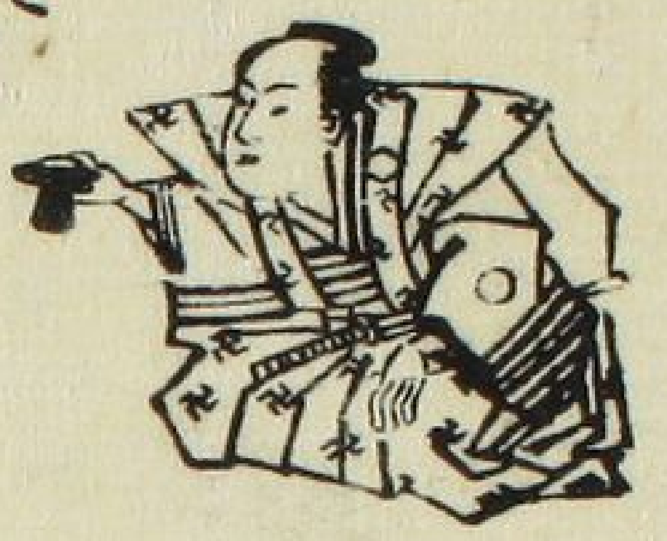
据(すゑ)べし火箸(ひばし)ハ付(つけ)ぬを
法(はふ)とすれども草(さう)[illegible]
とるべし
くず炭(すみ)
つぐ時ハ
炭斗(すみとり)に
火箸(ひばし)を
そへ出(いだ)て
火鉢(ひばち)を引(ひき)よせ火箸(ひばし)にて
炭灰(すみはひ)をとゞへと平(たひら)げ
扨(さて)炭(すみ)入(いれ)にてつぐ炭(すみ)の
数(かず)三ッか五ッか鉢(ばち)に
○盃(さかづき)をまはすの事
呑(のま)ずに置(おい)てまはすハ不
礼(れい)なりまづ受(うけ)て一口(ひとくち)申(まうし)て

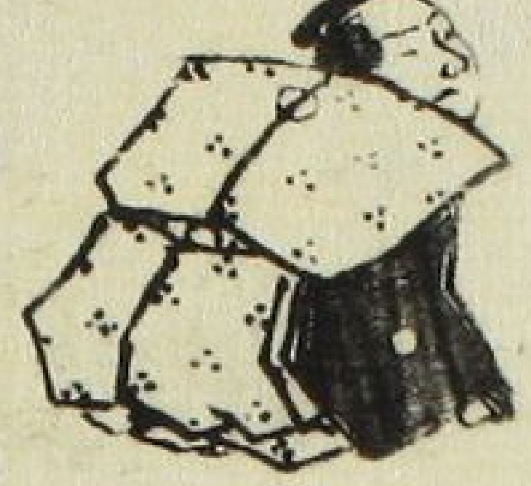


金蘭(きらん)之(の)交(まじはり)ハ心(こゝろ)[illegible]懇(こん)
[illegible]御座(ござ)候
月見(つきみ)之(の)文(ぶん)
秋(あき)之(の)一夜(ひとよ)之(の)月(つき)抔(など)面(おも)白(しろ)
成(なる)当年(とうねん)ハ弥(いよいよ)珍重(ちんちやう)[illegible]
[illegible]人(ひと)[illegible]眺(なが)め飽(あく)し
積(つもり)[illegible]御座(ござ)[illegible]
是非(ぜひ)[illegible]早速(さうそく)[illegible]
此(この)段(だん)御来臨(ごらいりん)可被下(くださる)べく[illegible]此後(このご)
案内(あんない)待入(まちいれ)置(おき)
書中(しよちう)[illegible]

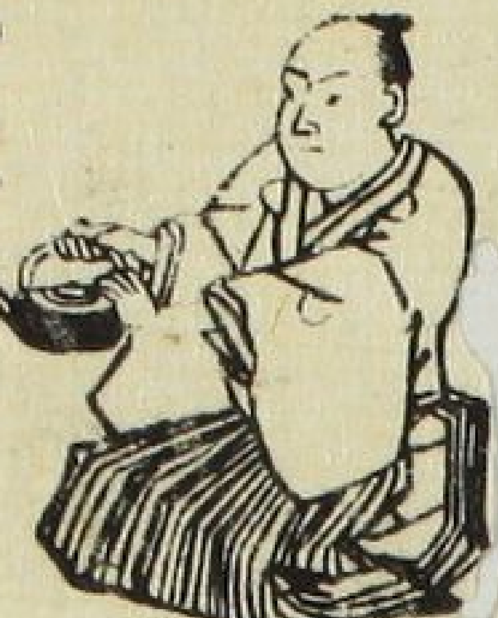
盃をさすに我口のあたりし所を拭ひてのごひ台にすへてさし出すなり

○盃頂戴　人は盃の台と共に両手にてひざをつき盃は右の手にて中程をとらへてうくべし

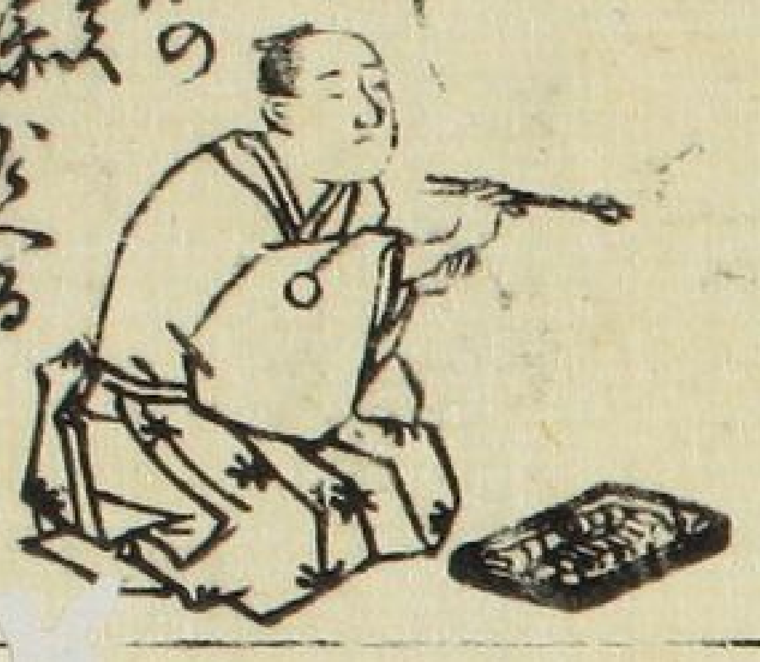




○銚子の仕様は右の手に銚子を持ち左の手を盃のうへにそへ口の上目をつけてあやまたぬ程に心得てつぐべし



○肴をはさむ　左の手を右の手首に添へ箸の先を



目録文

家中自今月付に付

御催之品々御馳走覚に

何連様御席を可申合

下書御免を長く仕置

当座御披露に候

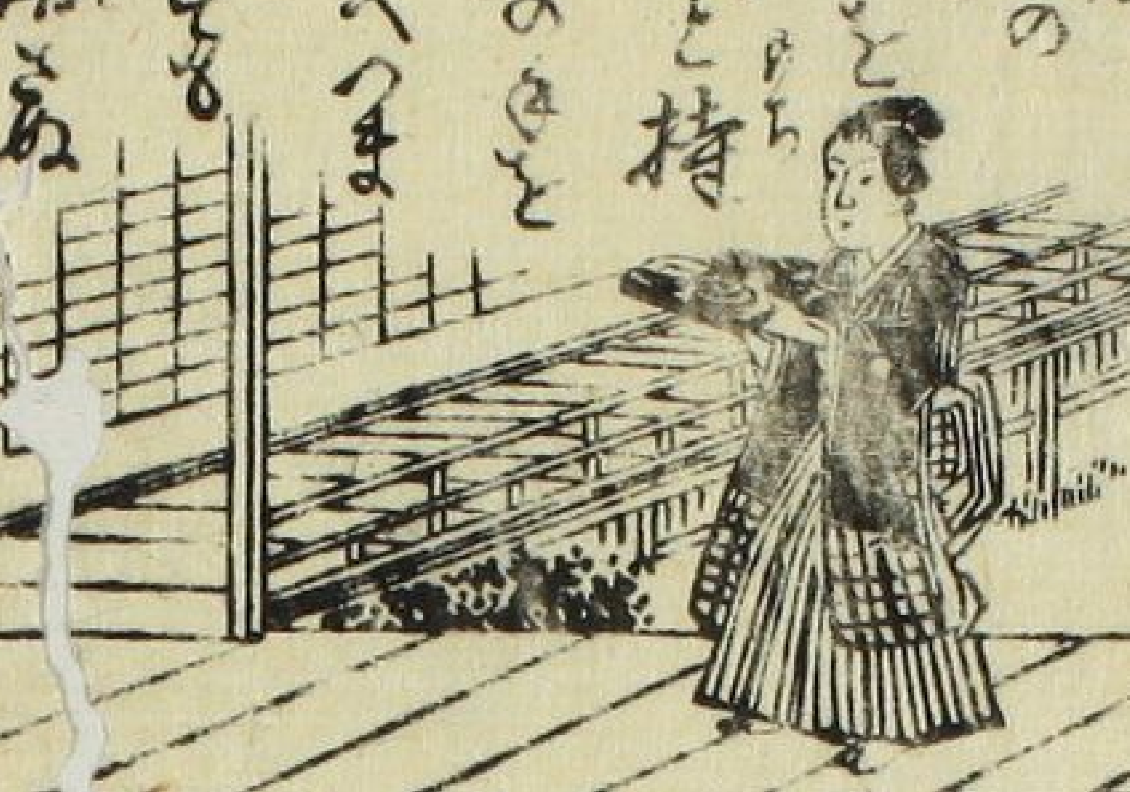
有之開候上面之

段々約束に付子之刻

御馳走 [illegible] 合席

[illegible] 御 [illegible] 申上候に

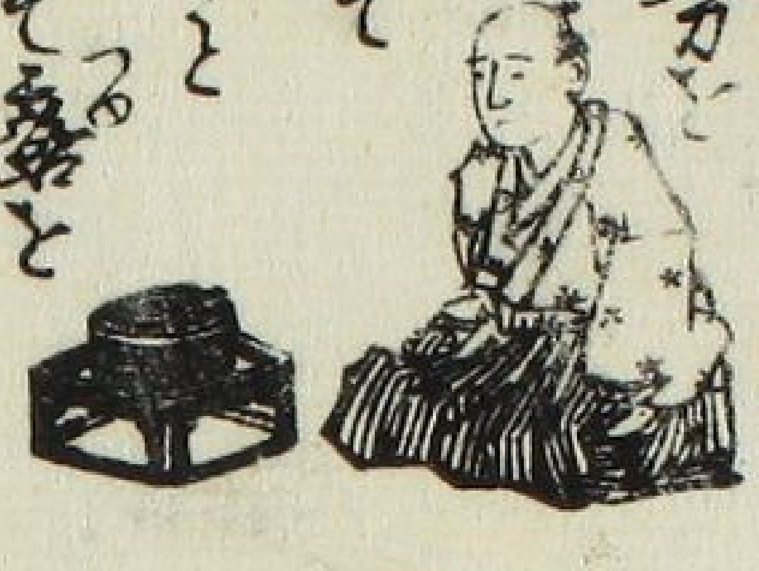
上る程と致ひなり
〇肴と云ふハ右の手を
上へ一寸程とりまはし
両手にて交るとする
程と致ひなり
〇膳の出し様ハ直ひの
先ハ左の手にて
膳の
縁を
後を持
右の手を
そへつま
づき
据る也
〇膳を持て出るには目八分



〇膳を持て出るに向ふ三尺
計を見て行べし
又女ハお手ずから膳を
客の左の方へ少し上げて
すゑ両手にて差置き
一礼して退く又客人ハ
亭主へ向ひならバすゑる
時宜にしたがひて挨拶を
すべし通ひならバ
子細なし
〇飯を注ぐ時ハ飯鉢を左に置
右の手に杓子を
取て一文字に盛
のくり飯に其口をとりまはし
大概を心得べし

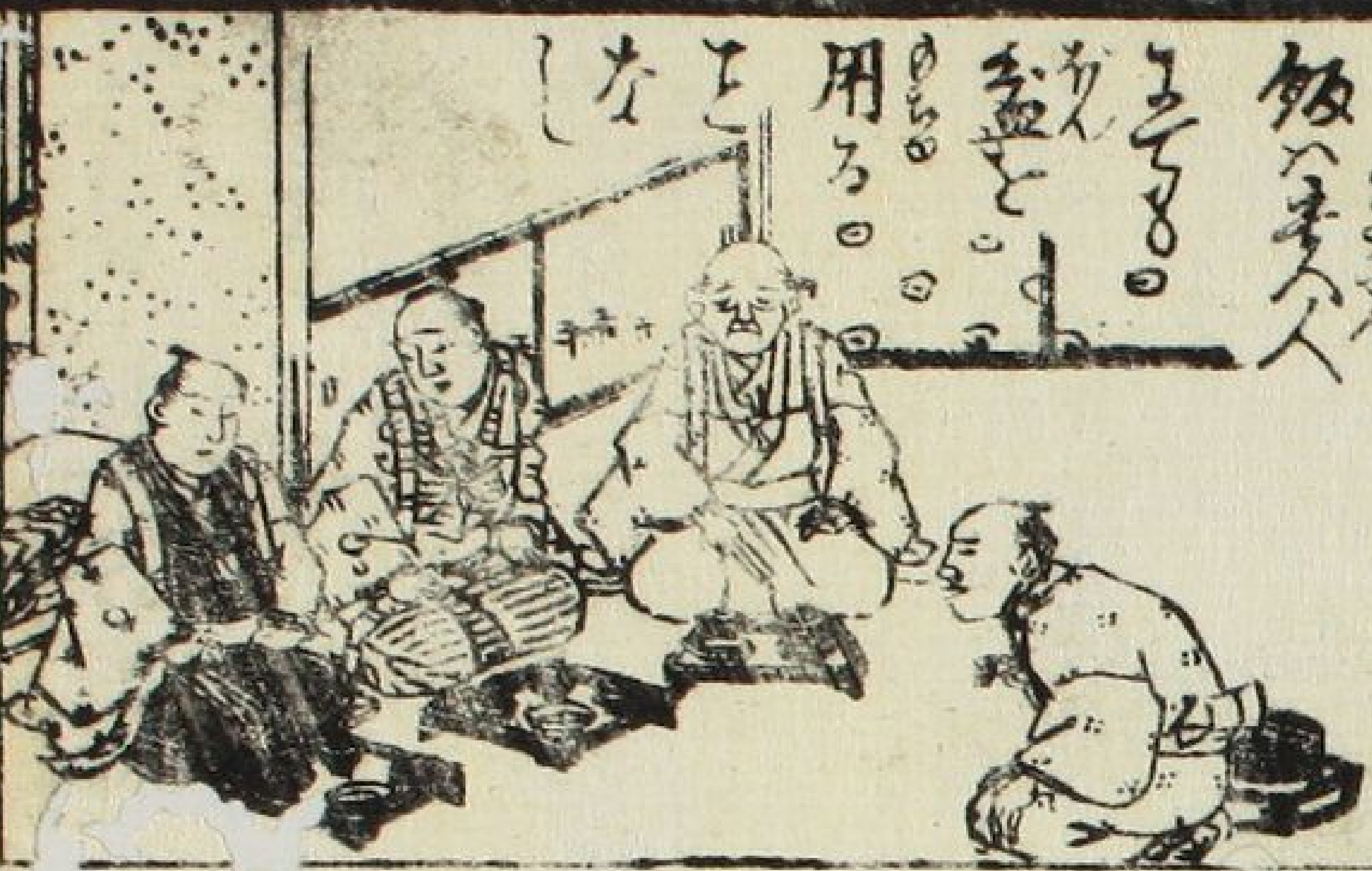
公卿殿上祝儀候
重陽之御宴興行
御前目出度御悦存候
然当日之御祝儀進候
名酒一樽栗一籠
進上之仕候御興受
可被下候且又郷庵之
菊花打紅顔及酒
併御禄等御相伴
可被下候偏相待申上候

法事斎に相伴挨拶
人の亡跡を弔ふ時ハ不残
飯菜の蓋を取て持来
し冬ならハ其儘持的
杓子を右の手に持ながら
蓋ハ両方を
人指と
大指にて
取ころと



何もむけて盃を
切て右の組中盃椀子を
飯の上ニ備け柄を縁ニ
うけ盃椀右の手を当す
時ハ飯ハ
其具いくぞと復ち寺

中にて左へうつし杓子と
知元二上まで飯に
盛又右の手へ移し左
の手とつきそ接申し
手入ハ左にて挽き盃を
あくる左にて持すべし
飯へ来人
又でる
盃を
用る
となし

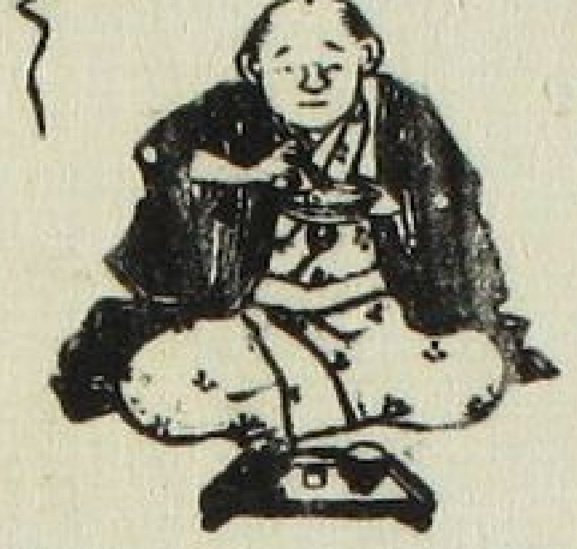


御返事
拝見仕候御状
殊於数年之中合
掛日頃御出仕之菊花
謹之儀見事
可被入御念候
就此地之仕合覚悟可存候
早々可来候也
大概人相伴
重而御返事

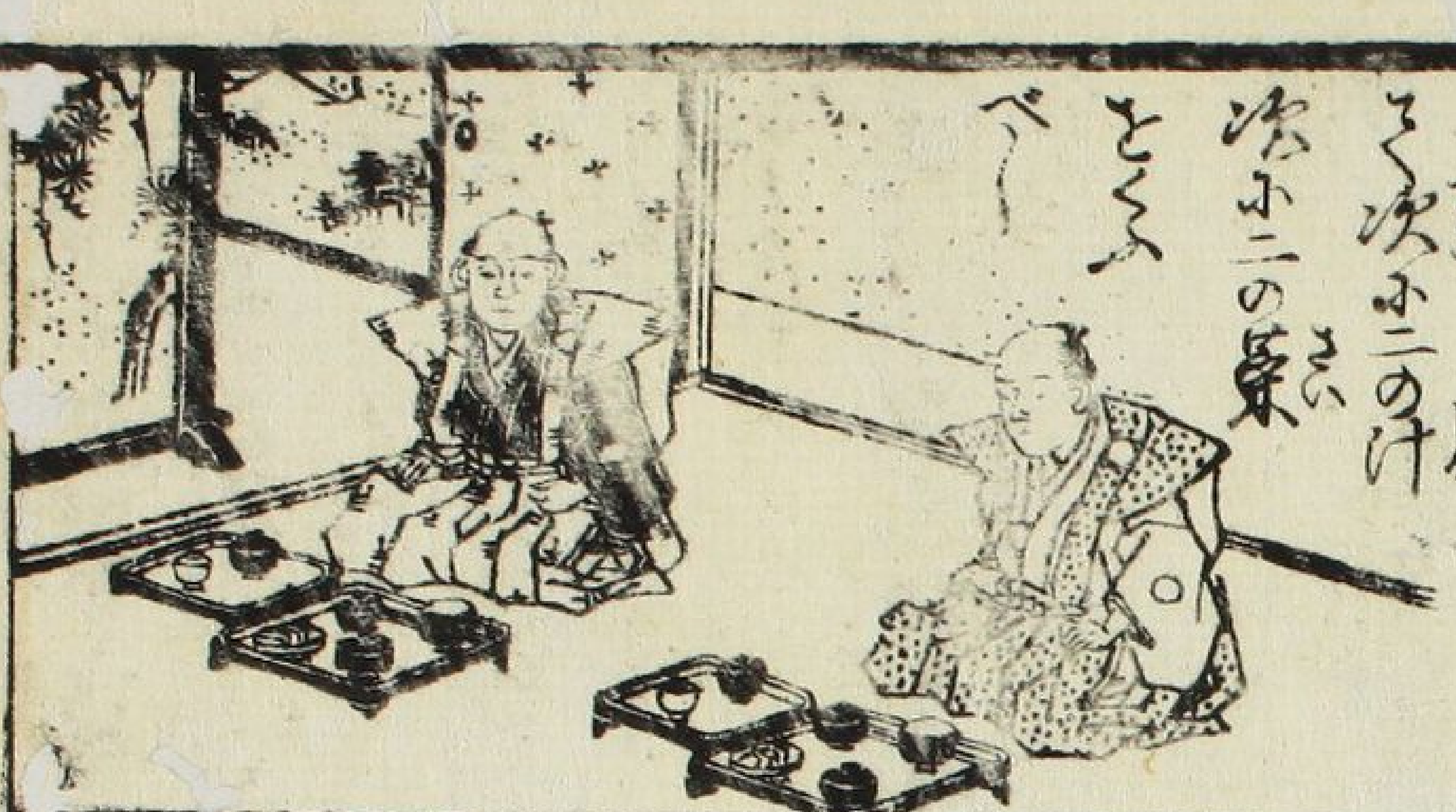
〇御膳の食様まづ飯
椀の蓋を取左へ置し
又汁わんの蓋を取左に
持ち飯椀の蓋の上に重て
右の膳に置右手で飯椀
を取上左へ持せ少づゝ
二箸くひ飯椀を下に置
而して下に置右手で汁椀
を取上左へ移し汁を吸
一口吸ひ下に置て又膳
又其手にて飯をくひ汁
を吸ひ飯をくひ又大小の
菜を喰ひ飯汁をくひ次に右箸に
付る菜をくふ三度
なり但食の内飯汁も
左手にて取あげくひ左にて
下に置べし本膳にある
菜ハ取上べからず汁のたる
べし焼物ハ汁椀の上の所
手にてくふべし膳の菜
右にたる右手にて取左へ
うつし又右手にてくひて置
左に有る左手にてくふべし
箸ハ客人のおもて近く
持べし亭主の居所の
かたより膝を上ておく
左の飯汁に箸置べき汁
とるべき間ハ箸と飯椀を
汁わんのあとに置遠く置
の縁へかけて置べし食

目出度[illegible]
明後[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]

終りて初のごとく下に置べし
○焼物切肴などハ手塩へとりて
くひよし尾頭付たる
魚ならバ上片身をくひ
て裏を打かへすべからず
但中骨などとるべからず
鮒その外の小骨を
頭骨とも皿のはしにおくふ
べし但し
尾頭の
身のこ
すべし
又焼物なども
さわならバ
箸を持ながら食



○二ノ膳三ノ膳又向詰ものの
時ハ本膳の汁菜を右
に置したるごとく四ツ又同じ
用ひて本膳の飯とくひ
て次に二の汁
次に二の菜
とくふ
べし



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]恐惶謹言

同返書

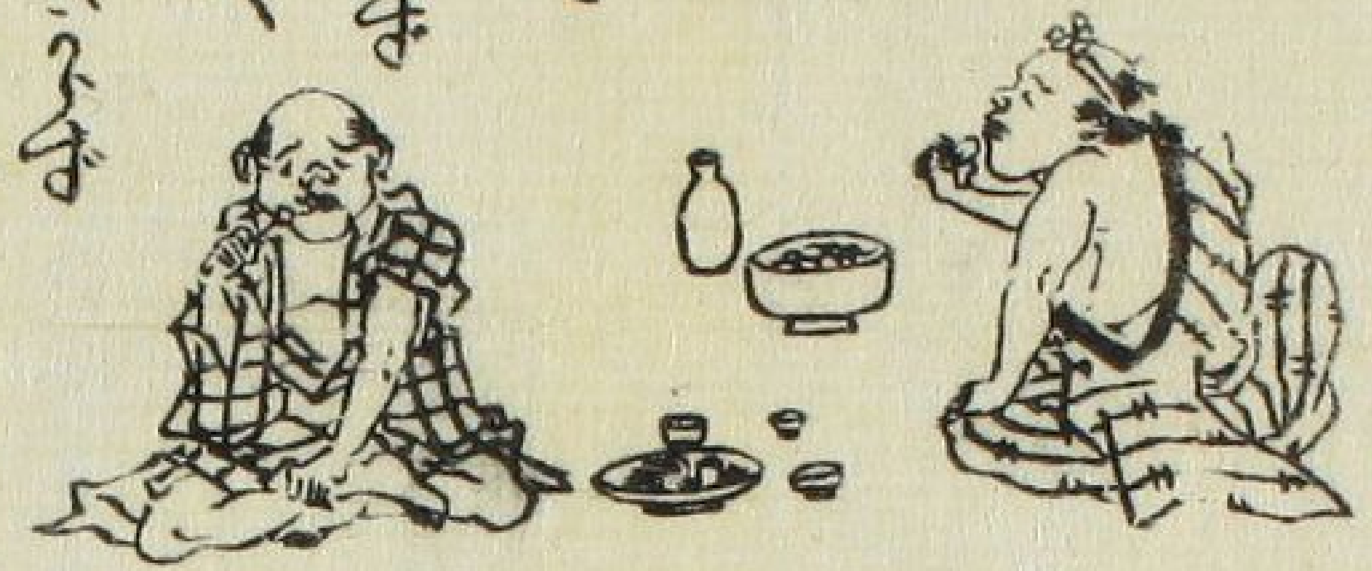
[illegible]
[illegible]
[illegible]珍重[illegible]

客同又本膳の汁菜を
用ひ終亭客同の飯をとる
時三の膳へうつるべし向詰
もまた是と同じかるべし但
本膳并出る時ハ其
食終るときハ初くひたる
菜ハ用ひて食をとむ
るに及ばず
○麺類を
食ふ
客人の
前
にて
椀の

中にてくもさせず切るべし
長く引上べからず客亭
切ずて不食とおもふ時ハ皿の
中へ汁とうちあけるべし
○食事に持たべき事
の有増ハ口音高く舌
打などすべからず。又客より
先に箸をとるべからず又
食終るべからず始終見合
て同じ程に終るやうに為べし。
飯を椀の内にて押つけ
へ付て食ふべからず。又口に
いろいろの菜を一時に含ふ
べからず飯一口に菜ハ一種と
定めて食ふべし飯の後汁

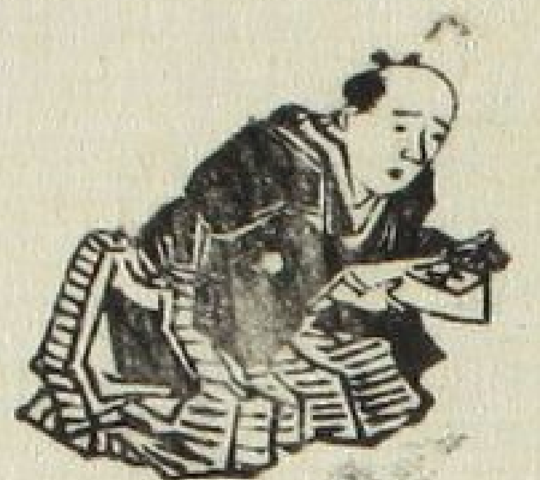
附候而御尋問御苦労
就中不及御披露心念
面談様之是より久々
候御無音申訳無之
其内参上萬々
可申陳候
尤并縮文
不宜長々敷之筆通
面晤之節者細書六
珍敷承候趣閑

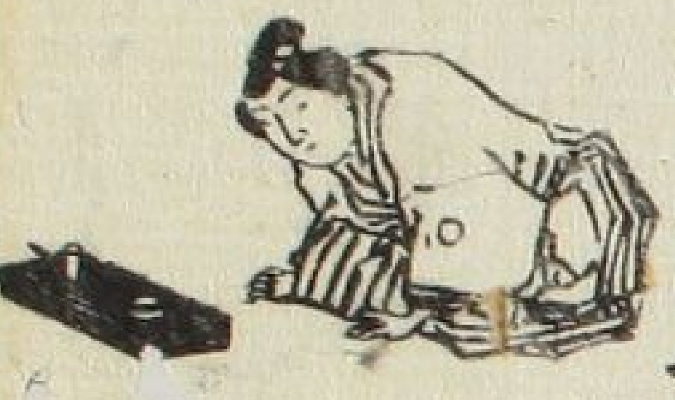
其もかへし時分見て其
儘くふべし其一膳の上を
盃など取て上をくふべし
香の物ハ
湯ハ
菜と
[illegible]
さく湯を
さし飲へを
くふべからず
[illegible]
などもすべからず
すべて人の行儀ハ食事
の仕やうにてよく知るゝ
物なれバ慎むべし



御座定而宴中ハ
御即膳も不可有之
銚子[illegible]集之相
[illegible]引続
[illegible]

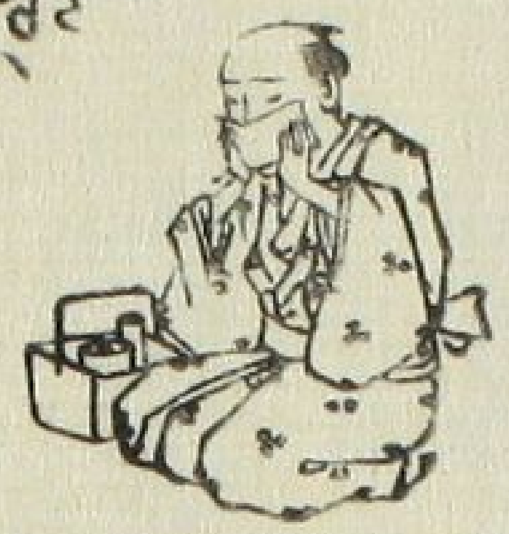
○扇ハ常に持て帯する
其要の方を先へ人の
右に置べし
のせてる
取の折
目に
先ハ
次第に気と附べし
○田舎に盃出する時
の作法の縁と
[illegible]
ずして前
膝を
つきて
[illegible]





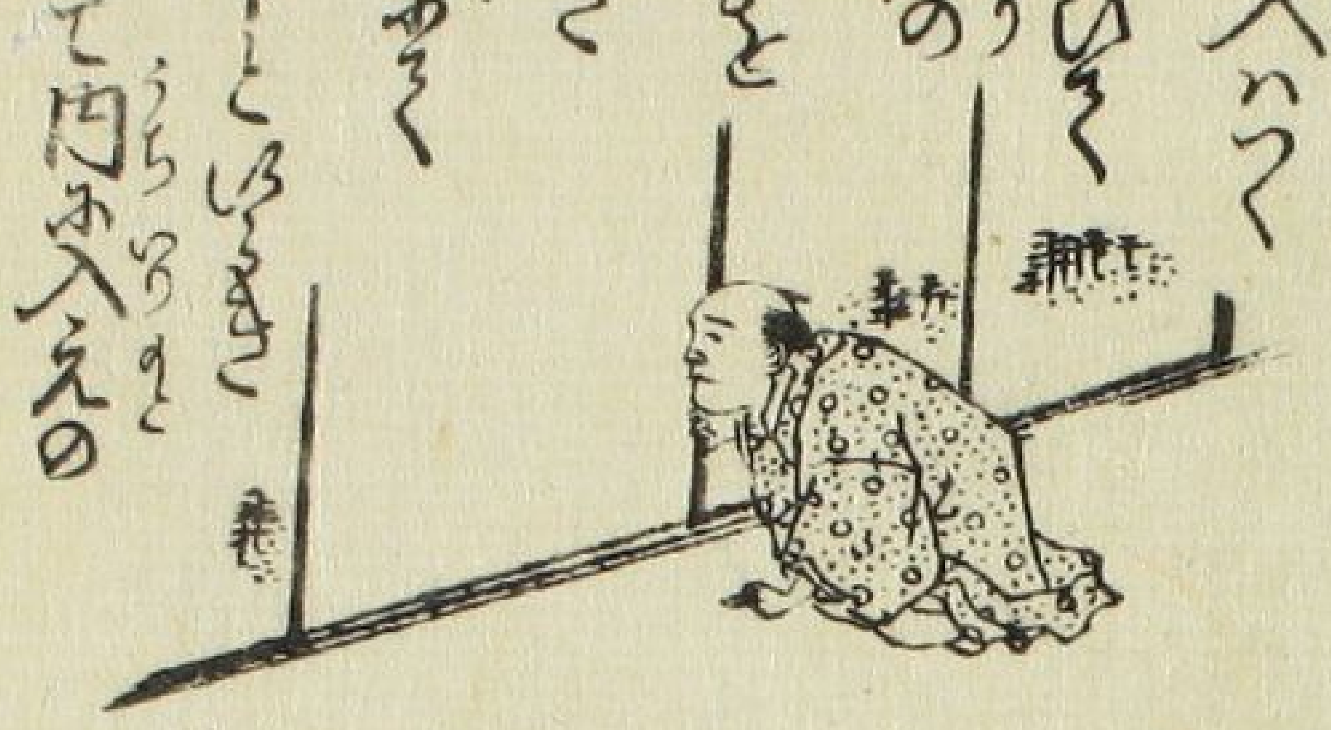
先[illegible]
同返辞
[illegible]
[illegible]
[illegible]

左右のまへんを添てみせ
さし入て立べし 右初より
客の前へ向ふやうに持出
べし 九き田楽なと盃八前
に遣しく頼べし
○鼻をかむ時ハ紙入ハある
席ニてハかむべからず 目上
の人あらバ次の間へ立て
かむべし
同輩
こなたより人おほく
咽をかむ時ハ
下座へむかひ初着後く
袂不ずして青なく次之文
俗く袖く二つと申し

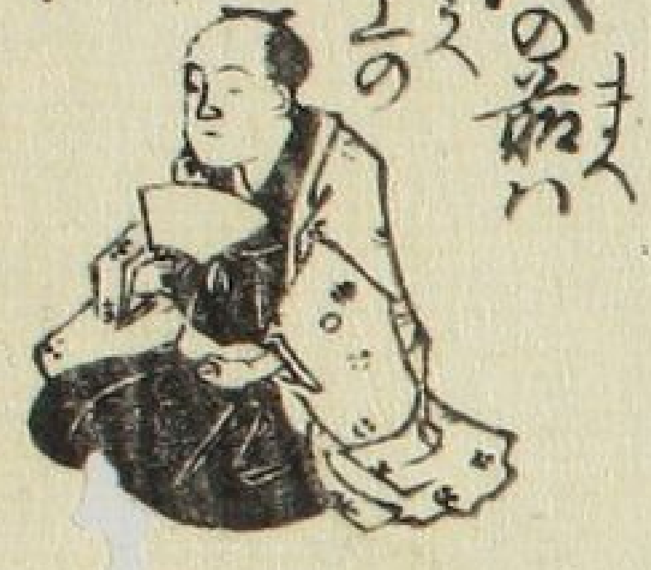


有様ハ病後之事ニ而
心持ニ運氣弱き氣色也
殊ニ重疊ニ罷成候而不
相變愚意長ニ静安ニ致
未練之中御一致候

○戸障子襖の
出入ハ
ひざをつき
左の
手を
そへ
左右へ
静に引あけ
立て内へ入其
跡をもしめきるべし



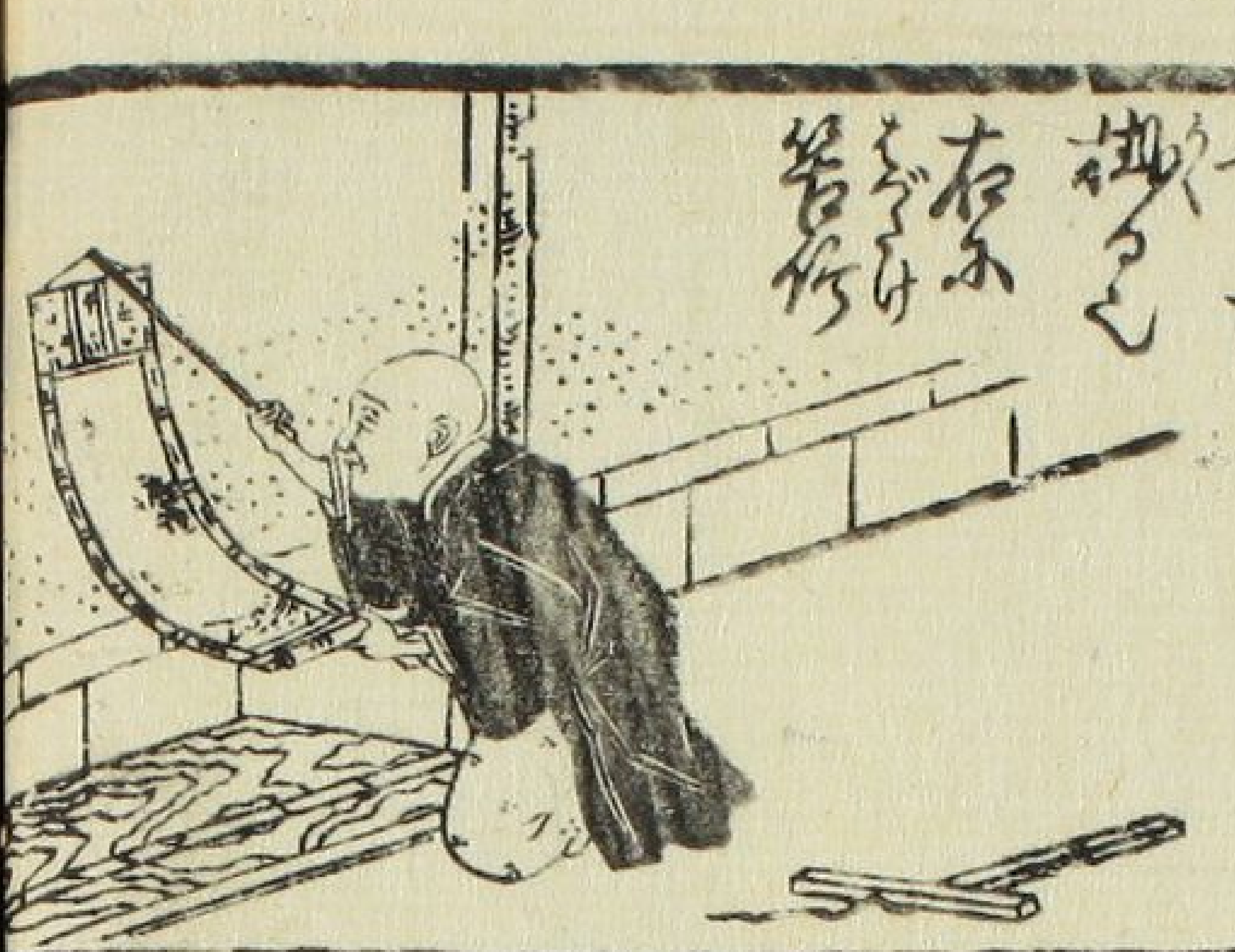
○貴人の前へ
目上の
人ある
席ニてハ



相極則案て申是相
成行候得者御老体待候
萬端之文
追而及ぶらぶら御用存
萬一奉存候申候

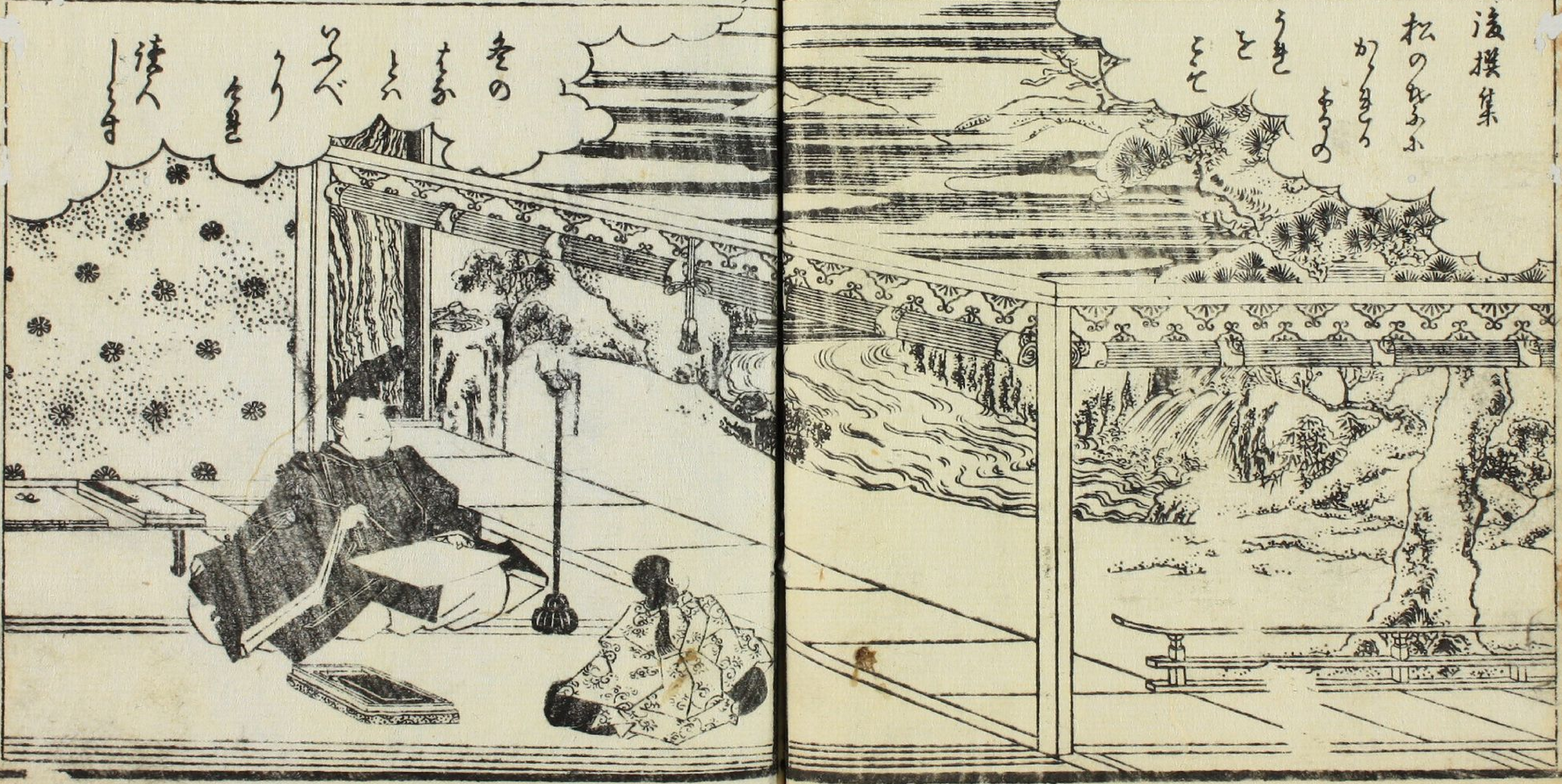
扇でのひすべからず但し暑気強き時ハ少しひらき向の方より手をあふぐべし

○掛物のかけやう一幅ハ子細なし二幅對ハ中段上下と揃ふべし右に
まづけ
背行



左に掛物を持行にハ両手にてさゝぐるとまきおろすべし

○床の軸物花などの飾付事ハ先寺人亭主へ種を問ふべく次に見るべきこと其画もし神仏聖賢の像か又高貴人の御筆などならバ床際より三尺隔て扇を抜膝組の右手を置両手共其手指て畳へ付さてより見上拝見する斗をすべし山水の画ハ山より水と目を及べし竹木の画ハ中程より上へ



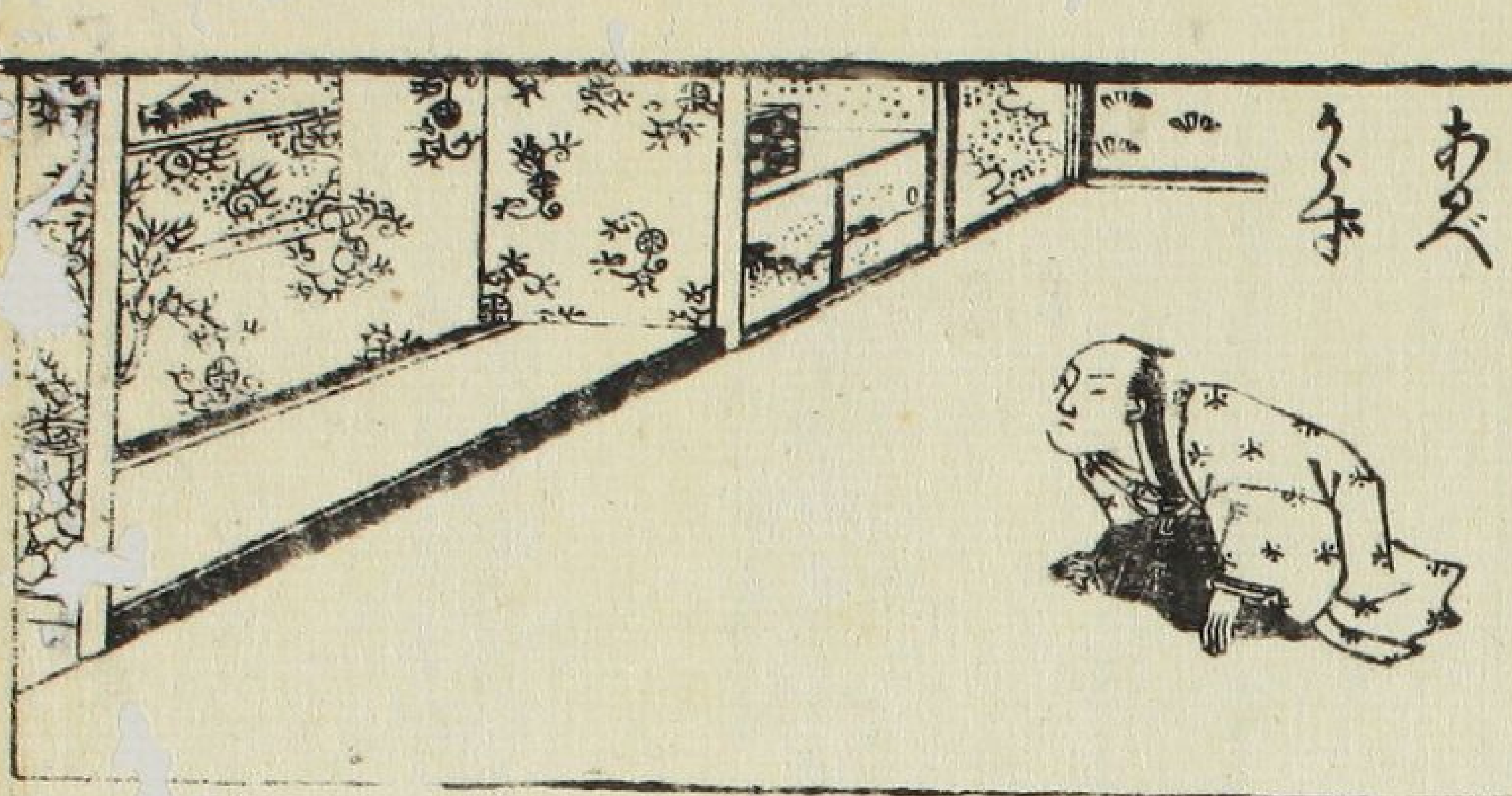
後撰集

松のはに
かゝれる
雪の
それを
こそ
冬の
花とは
いふべ
かり
けれ

読人
しらず

見上させ下をこの鰤し
同事に候者なれバ其手を
つかさ又ハ手を添の上に至
ちもとより之鰤を三尾贈候ハ
生鮮なるはまづ如を
見るく珍物とりんろしく
三幅対ハ床の客座に至
仕と見るべし三瓶の亀
是而同じ者人の立た
まひし花を僅に活をき又
次第と上へ見るべし又
花瓶の如く面をて是
見る前の式ハ老人なるの
目そら紀人ハ身をて全
よりしきかり床おさ

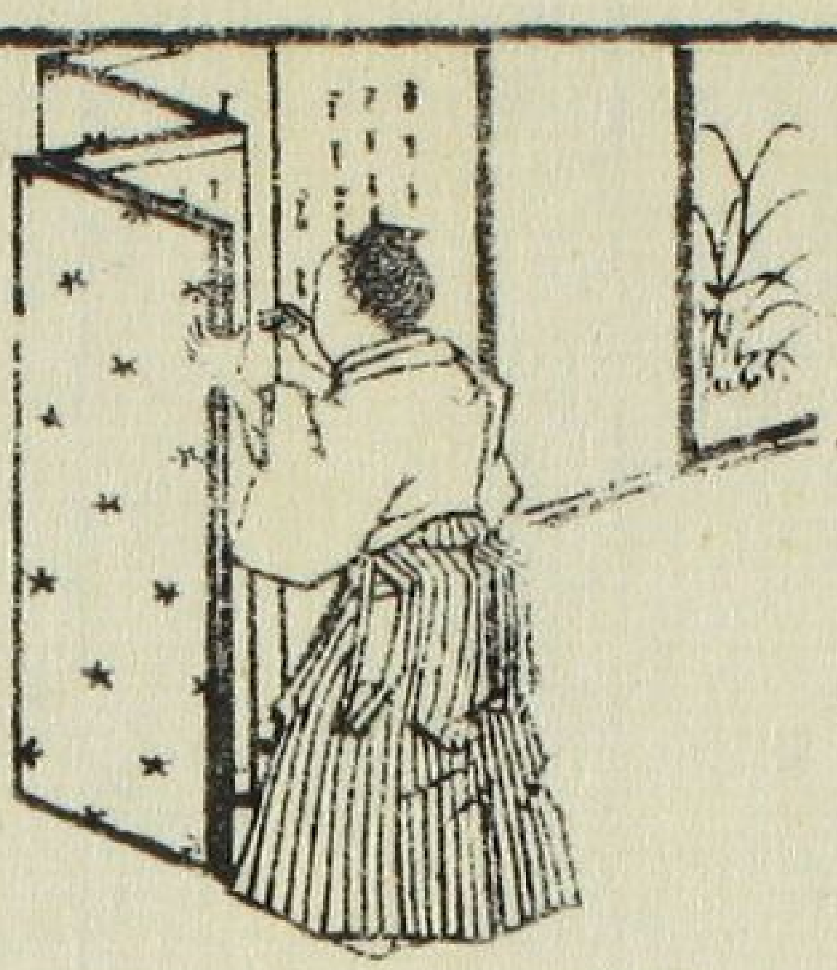
祝鰤一尾歳末之
印御馳走と一目珍重是を
[illegible]年内御苦労
無之相座来陽緩く
其以言残可申上



人の体をかゞめ入くる
とちて
べし但し床縁まらとか
とる手
おべ

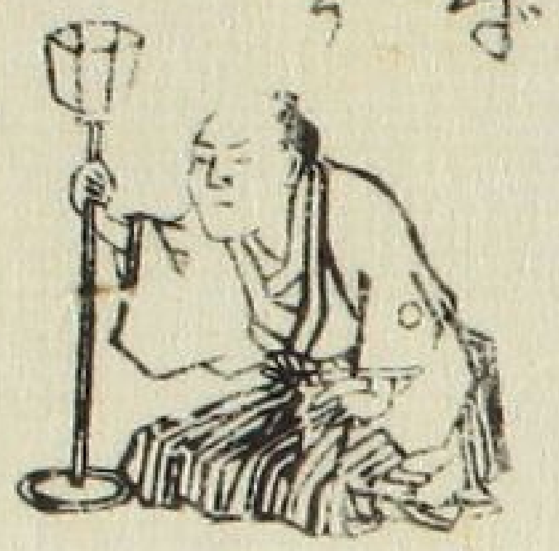
寒中見舞候
目出度便と申上参る
御地大雪御満[illegible]
[illegible]一通の由恐
御宅[illegible]其外[illegible]

○屏風たゝむ事ハ
二つ折かけ立寄て左右
畳むべし一双ならバ書
出しを能見定て置
立べし墨絵ハ上彩色ハ
下墨跡ハ上絵ハ下古
筆ハ上新筆ハ下



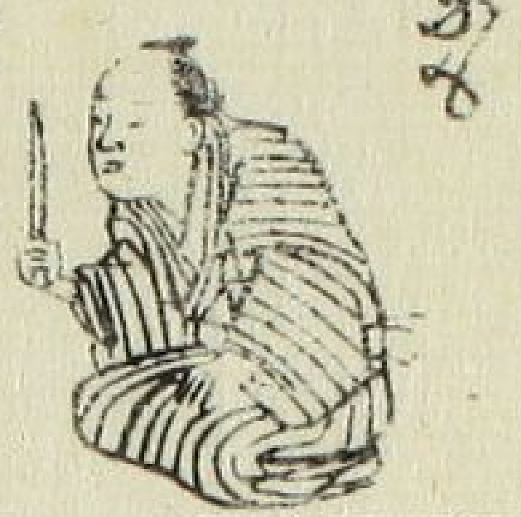
又山ハ上水ハ下樹木ハ上
草花ハ下にすべし此
心得あるべきこと

○燭台へ燭を燈持出る時ハ
心得て燭の下を左手にて持ち
右の手をそへ心得つけを
下に置足元の方を上
座に向て色を能見て上
客の方へ寄せて燭元を
こちらぬやうに一寸へ[illegible]
まへのうち
心の切やう
燭を扱ふ
数多く
有時ハ我が方より始るべく
よき程に縦覧し[illegible]
ちたるを抜取燭の[illegible]
[illegible]べし

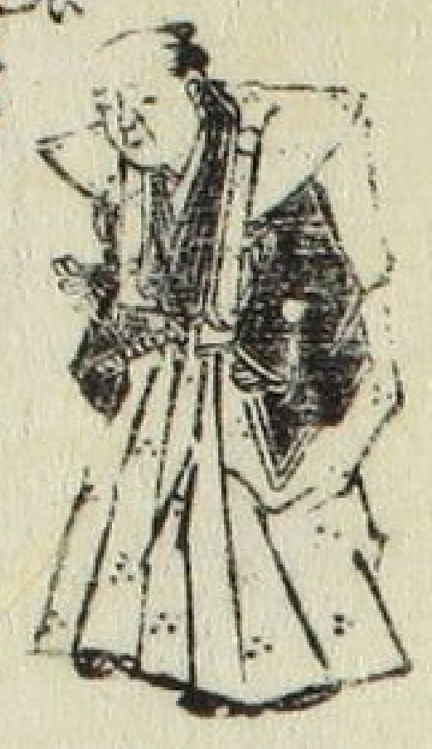


混雑之上及驚入候
其節御無音[illegible]
難し児輩共見聞
言語道断[illegible]
右之趣[illegible]
数々御心[illegible]
目出度御返事
尚期後音[illegible]
[illegible]
[illegible]

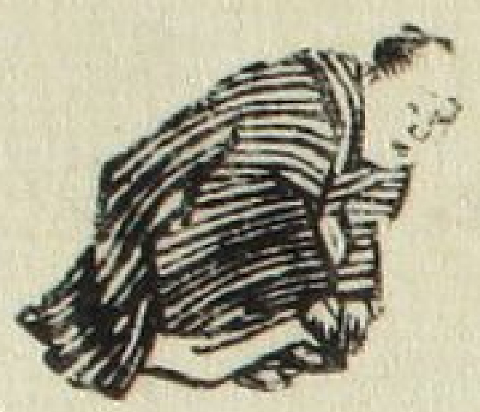
二字の時ハ左のまゝ
如くよし 一字の時ハ必
外の字隔よりうつして
ちらちらとつゞくまじきこと
○人の寸法をはかるに
小刀又ハ鋏にてはかるへからず
綱のうちを持てはかるべし
かるべし 文字銘を
まつりかみかみあめ
要の所を
持つべく
まいらするに
必地紙を持べし手
○刀脇差をまゐらするには
其刃ハ我方へ向けて[illegible]



○途中にて貴人に出
逢ひ申す時ハ足の甲へ両
手を付て礼をなすべし
乗物貴人ハ右
騎馬の同輩ハ左に
して



礼を
べし



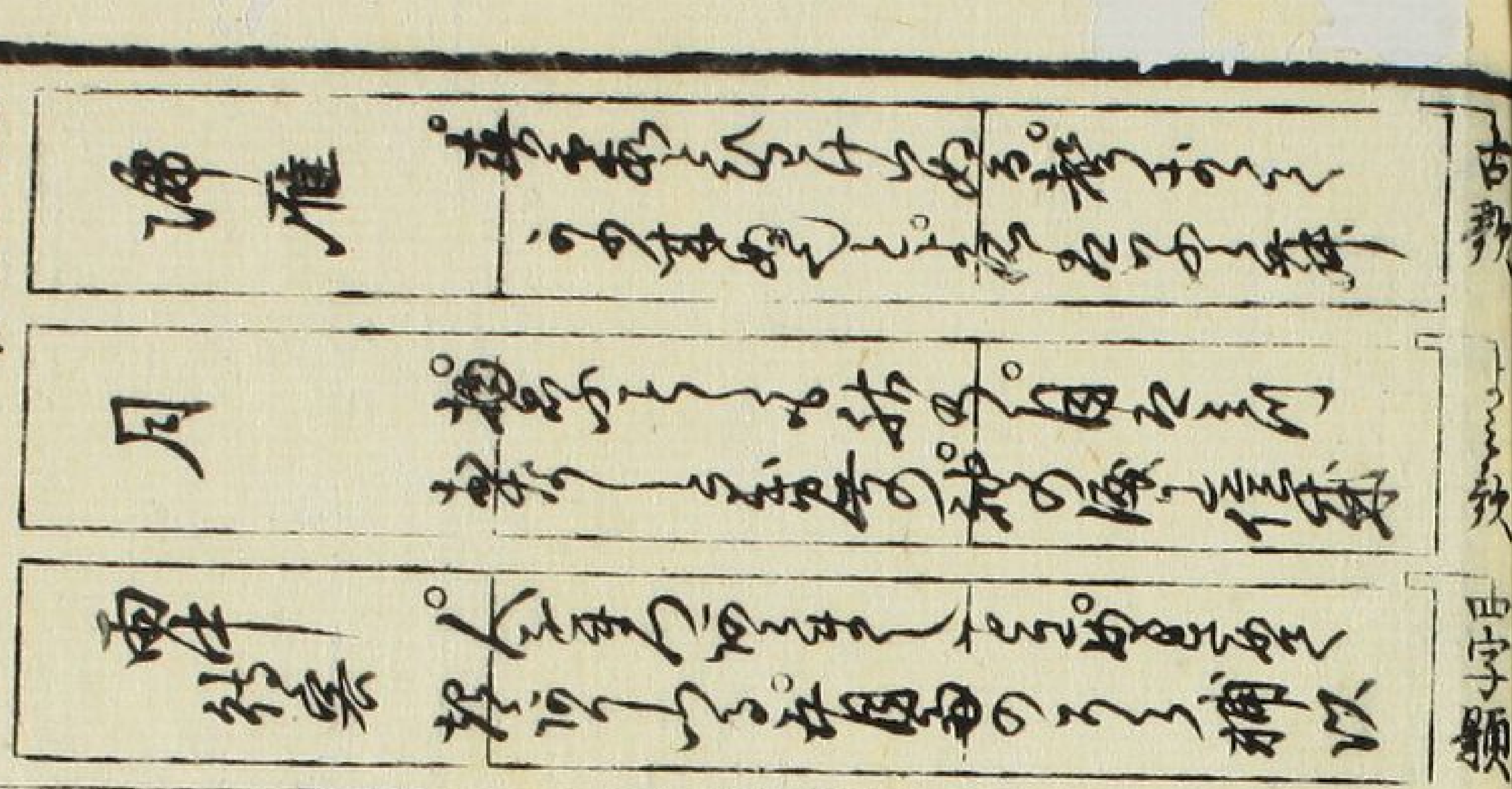
供人の
召使ふ人
僕なとの
供ハ右足を先にして
供人たるものゝ礼手

書状は粗筆を及ぶべくの
有これ是の[illegible]
既に[illegible]は[illegible]風
上書は猶[illegible]に候て
必ず[illegible]書[illegible]

此外ハ記し難く筆の
尽し[illegible]地の表伝に
[illegible]は九牛一毛に[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

諸書認之式

一短冊乃書様ハ三ツ割にして上の折目ニ半字かゝるやう書べし墨つぎハ哥ニ○印なるごとく三度ニつぐべし古哥ハ下の句一字下てかくよミ人ハ名を書ときハ上の句ハ末の句を上とをおなじくかくべし女ハ名計りをかくべし紙ハ二重迄ハ一行ニかき四季ハ上より二行ニかくべし文字ハ二字ニおつと心得べし餘ハ左の図ニよつて知べし



上の書出し一字ハ真字と書字假字ところ〳〵大文字の格ニ心得べし

御無音申上候[illegible]

混雜中ニ可レ有レ之候[illegible]

[illegible]御左右承[illegible]

[illegible]

宜敷御傳聲可レ被レ下候先ハ

随分御厭ひ申上候

以二幸便一如レ此御座候

同返度

[illegible]

[illegible]

短冊体　ちらし書

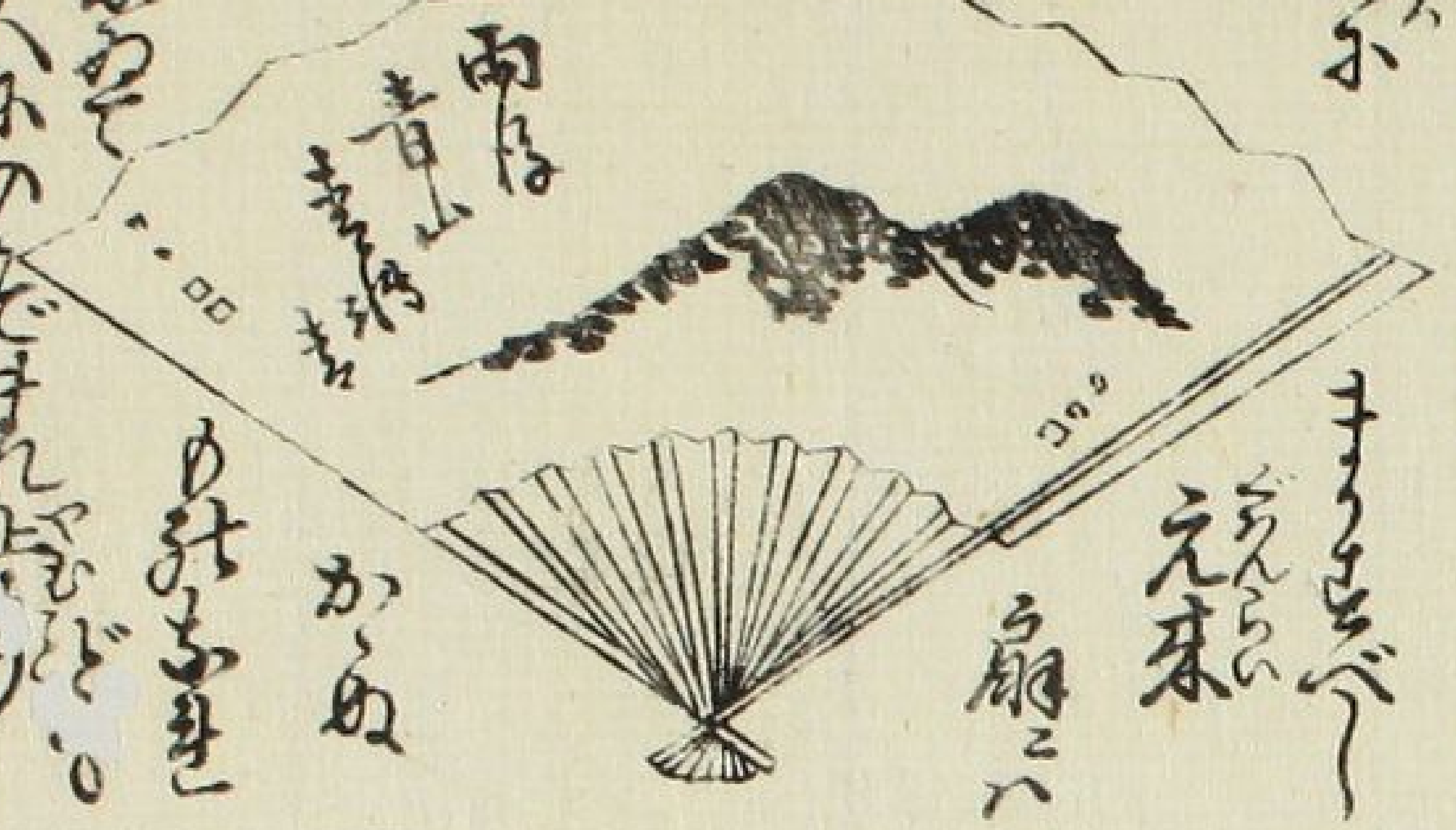
一 [illegible]者抔書付候時ハ
たる紙なりとも随分風流な
よくかんがへ[illegible]と手引覚
も短冊とひろく[illegible]
扇子かきさ[illegible]を色
かくし[illegible]を短冊に図

初春祝　大平
武州のまつりに
そのとそのなかも
こゝろをかへ代々と
のどかの神まさ

[illegible]史　[illegible]
かけて[illegible]
色香の[illegible]
日本の[illegible]
こゝろ[illegible]有

十方之大[illegible]其恩
地[illegible]之[illegible]逢
及安心住尽処[illegible]
[illegible]遍[illegible]
[illegible]人[illegible]

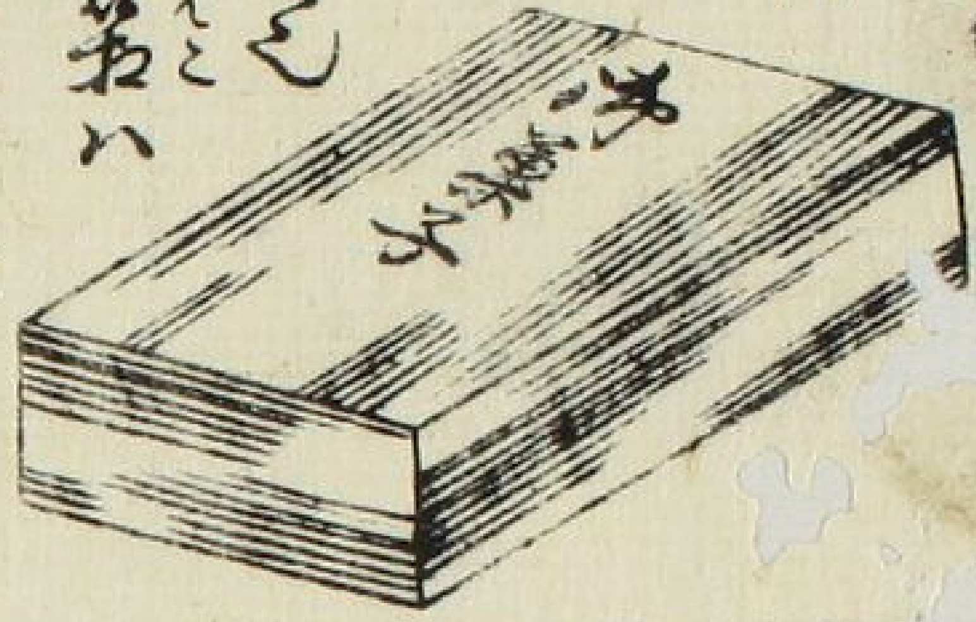
一 扇に物をかく事ハ書始ハ
骨にかゝらぬ様によけてかく
かべし画ある扇ハ画に
かゝらぬ様気をつけてかくべし
書体ハ右左ちらしがき
に
まうさべし
元来扇ニハ

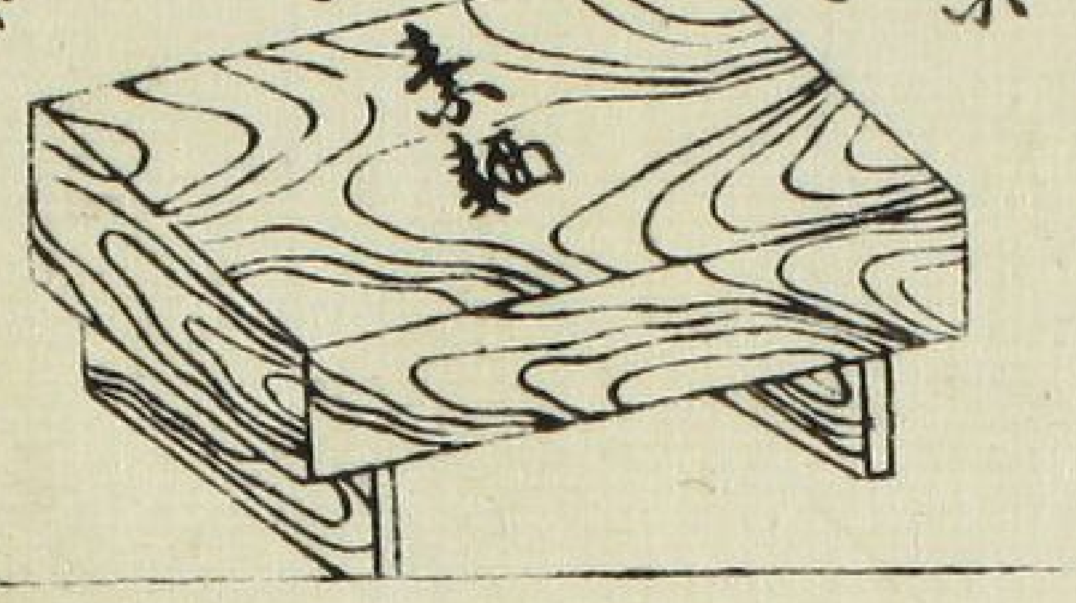


かゝぬ
め[illegible]
忘れても
人ハのぞまれやむごとなき
時のこと[illegible]

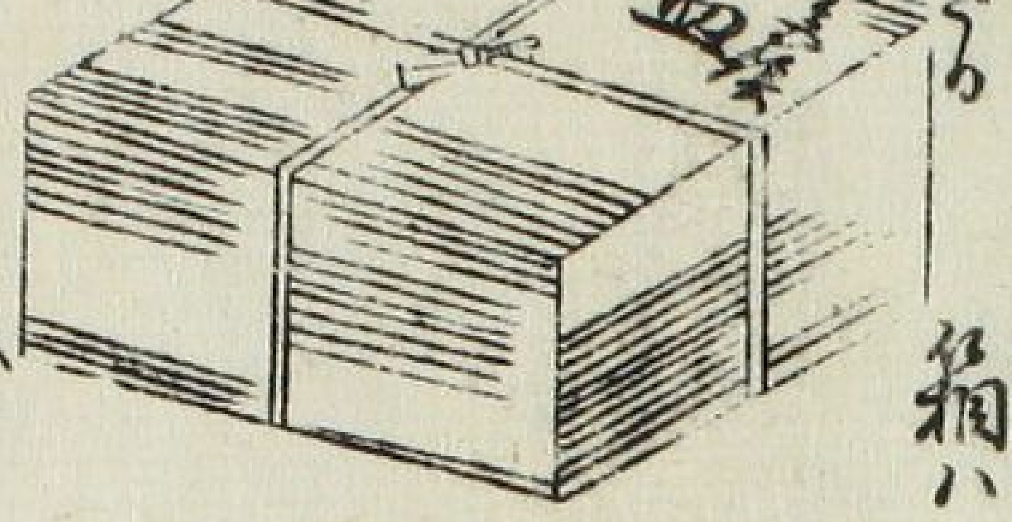
[illegible]更[illegible]中[illegible]
及騒動以[illegible]去[illegible]其
[illegible]存じの[illegible]
老人[illegible]
壱人[illegible]

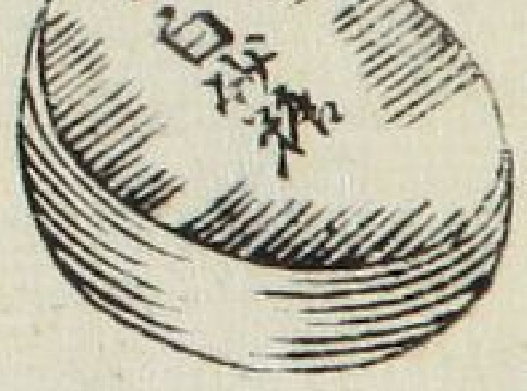
一 箱ものの書物ハすべて竪板目にかくべし足ある箱ハ横板目にかくべし こまものにても志たゞめも但し足ある箱にても細長き箱なれバ竪板目にかく法也





紙かけたる箱ハ表書に文字のからぬやう横板目の右の上にかくべし 一文字紙の箱ハ竪板目の真中にかくべし 曲物ハとぢ目を字頭となしてかくべし 其上へ心得べし白紙は横 板目とハ木の目の事なり





此節之祭礼[illegible]

其内[illegible]

[illegible]

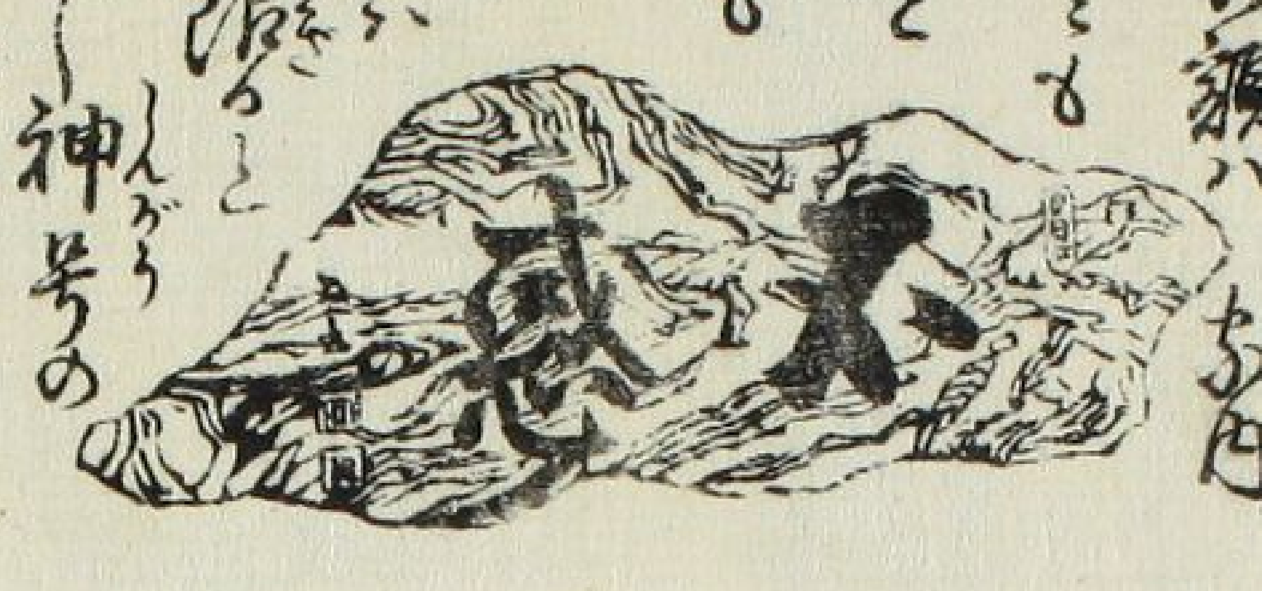
有之[illegible]

[illegible]

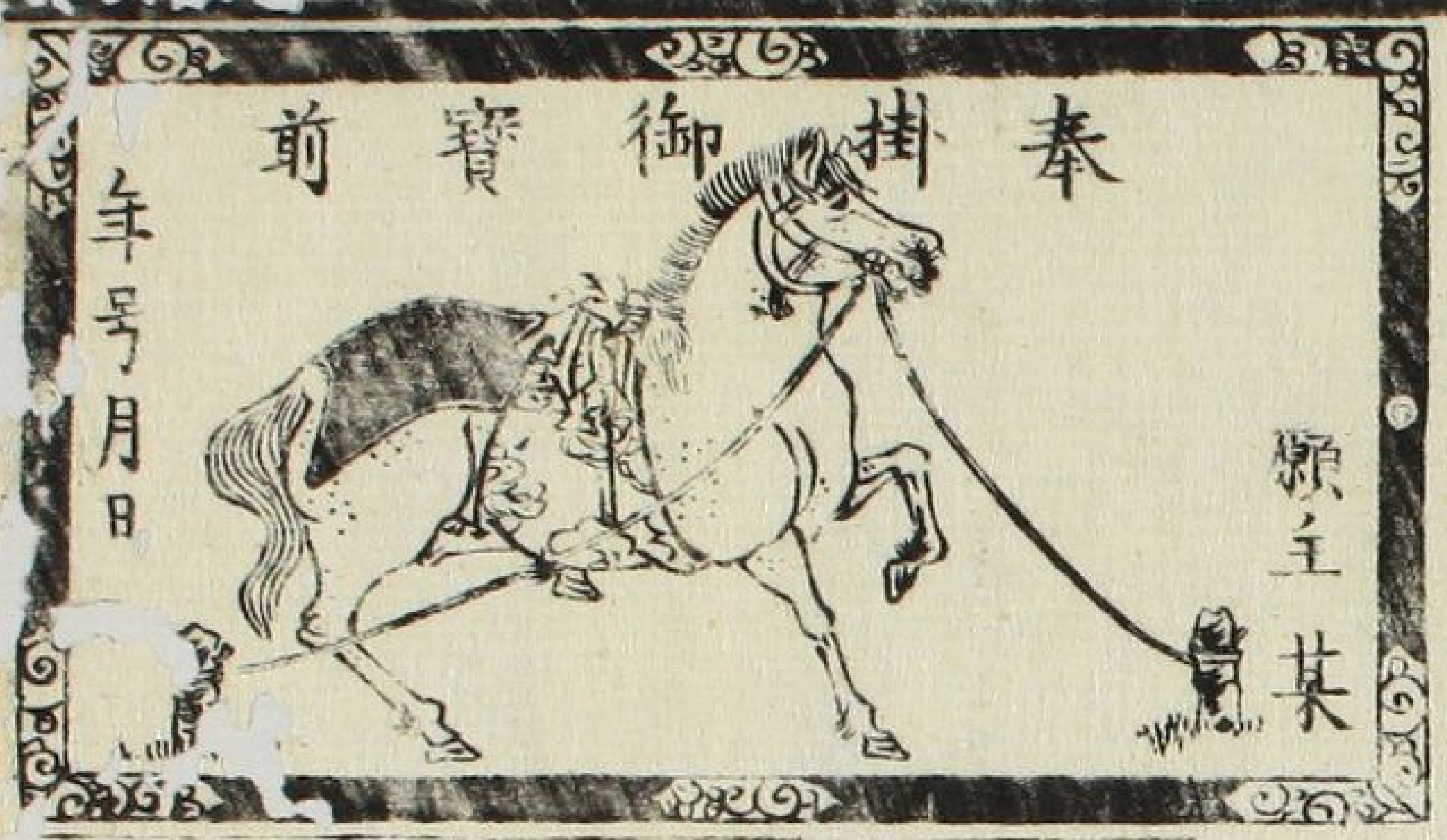
打捨廣ミ又ハ藪中へ

[illegible]

一額とかく字ハ社の八
堂仏殿の正横板目り
又竪額横額の時こ
よろしく人々の家酒木
なるも大概其形に従ふ
閣寺の額ハ方円
いづれとも
掛るも
よろしも
木地
彫字ハ
檐に隠すとし
刻むべし神号の
額ハ筆者の名を
書ゑずまじと紀之



一絵馬ハ本来祈願の者
神馬を牽し古例にて
平人又ハ小祝の者ハ成す
障ありひハ力及ハざるふを
早く馬を絵ニ書て奉納


奉掛御寶前
年号月日
願主某

大ニ悦参り御安心
可被成候此度ハ[illegible]
家中様蔵の事中悪
依之宿人々其問[illegible]
御待而満足存候[illegible]
先々寒中候へ共先々
右御礼且荒増之様子
申上度如此御座候
取込居乱筆御免可被下
津波見舞状

せし之伽ハ馬をたて式と
すれども天満宮に掛
絵ざさて其外八幡宮に
掲或ハ観音堂不動の
画ならバ其神仏の由緒
ある物を納めしより後ハ
武将英雄の姿或ハ歌
舞妓役者に似顔遊女
傾城の形を奉納する也
ありたる世俗の流行一
笑に堪たるものも之
一太刀折紙の掲額目録
之書あり手本とすべくあり
左にいろ〳〵混和の書式を
見せしむるべし

太刀折紙

進上
御太刀　一腰
御馬　一疋
以上
苗字官名

常之折紙

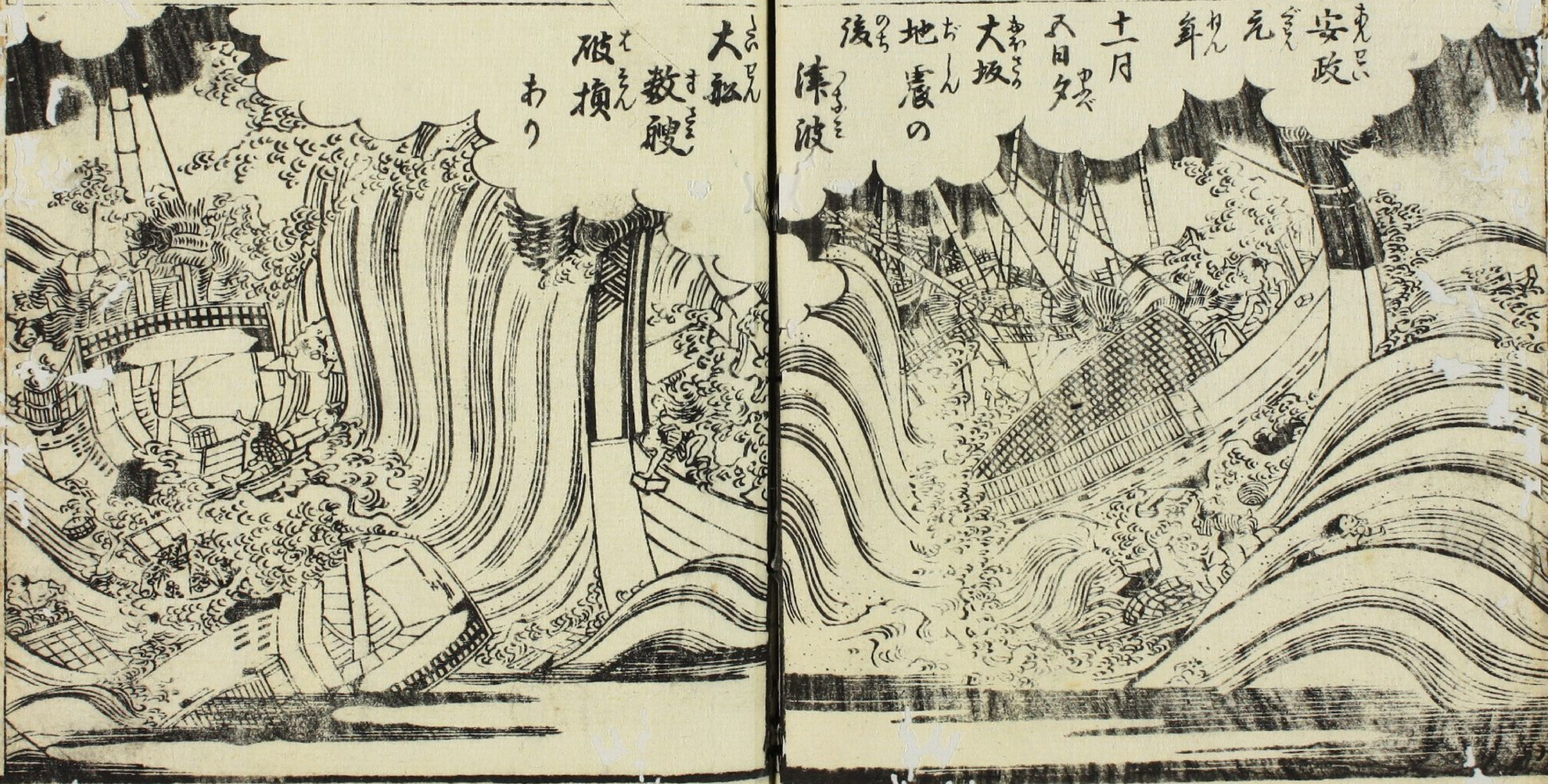
進上
金　弐疋
名

別紙之式

進上
御太刀　一腰
御鞍　一具
御鐙　一足
御馬　一疋
以上
名字官名のり

結納之折紙

進上
一　銀子　壱枚
一　帯地　壱本
一　縮緬　壱疋
一　紗綾　弐巻
一　鯣　三把
一　鯛　弐尾
一　御樽　壱荷
以上
月日　名
何某様


安政元年
十一月五日夕
大坂地震の後津波
大船数艘破損あり

目録

進上
金子　千疋
御扇子　壱箱
麻上下　壱具
御肴　壱折
御酒　壱樽
以上
何某

目録をかくに口上目録とかくべからず目録ハ目ろくのつゝむべき様なし紙を二枚重ねを本式とす進上と書は高くかくなどうやまひの心より上ハひかへなど認ひと知るべし

一廻状の継紙ハ椙原紙を二ツ折にてかくべし宛名多きハ何枚もつぎたして連名とかくべし承知有ハ我名へ点かくべし不承知者ハつぎへ時宜を其人の名の下へ訳書すべしと半も何日でも大体[illegible]

口演
来ル五日於[illegible]一周忌[illegible]読経千巻回向相勤候間乍御苦労八時ゟ御出来可被下候様奉希候以上

三月上旬　亭主方
何之誰
何屋様

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

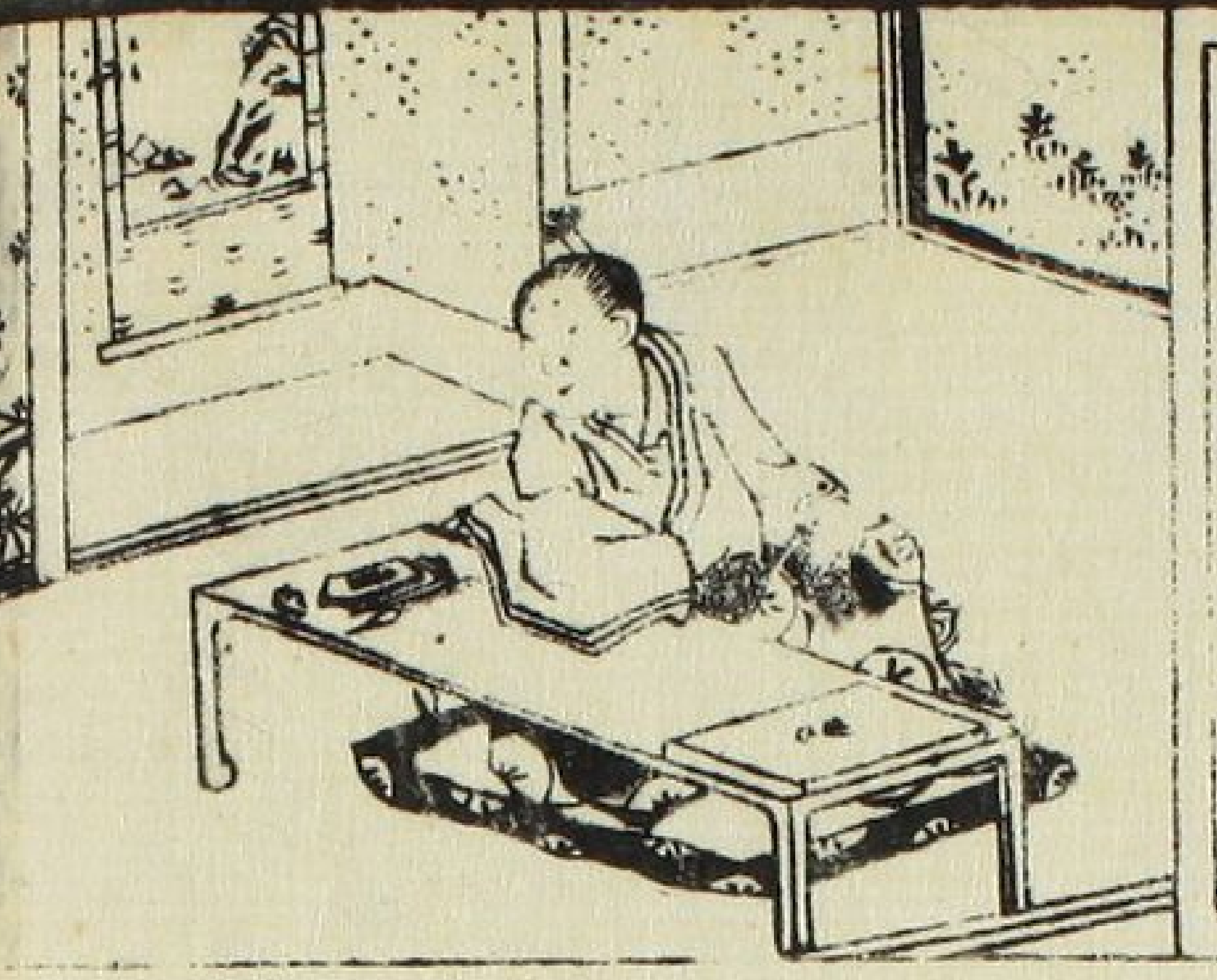
[illegible]驚入

[illegible]

地震[illegible]

津浪[illegible]

[illegible]



当方不同
山本勘右衛門様
松屋又右衛門様
大和屋李助様

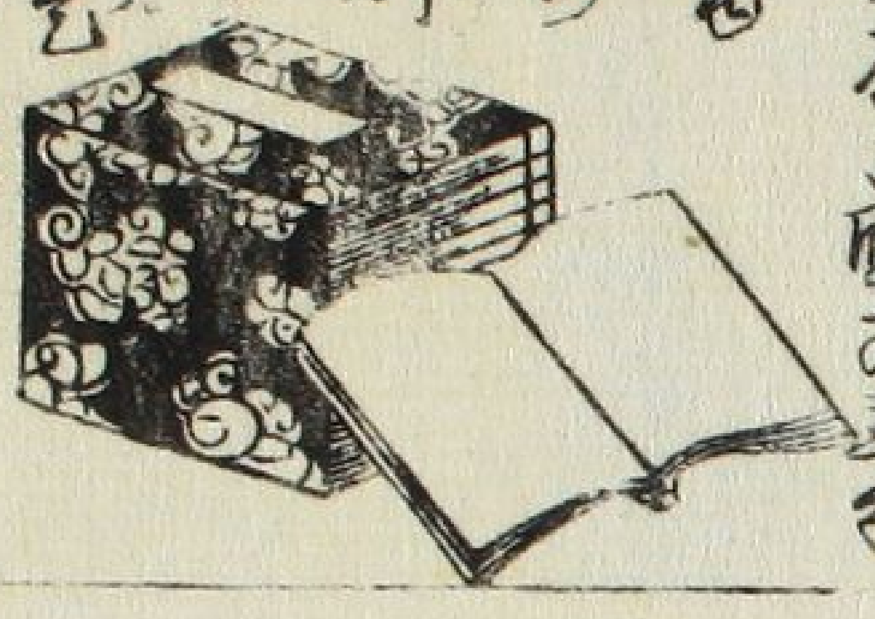
何屋組

廻章　何某

上包

表向ニ付御遠慮有之
候御混雑[illegible]ニ付
右御覧之上御印形
[illegible]
[illegible]

一 頭書ハ口の紙一枚を除て二枚目の書出しを本とし外題と中ふだを目録[illegible]家の流儀又二枚目の書始外題を端とする八二條家の流儀外題の寸法竪六寸の壁の三分の二と用ゆ幅八寸の中の六割[illegible]一と記してかくべし是頭書冊子の例也といへども諸本の纏大きて[illegible]所かくべし

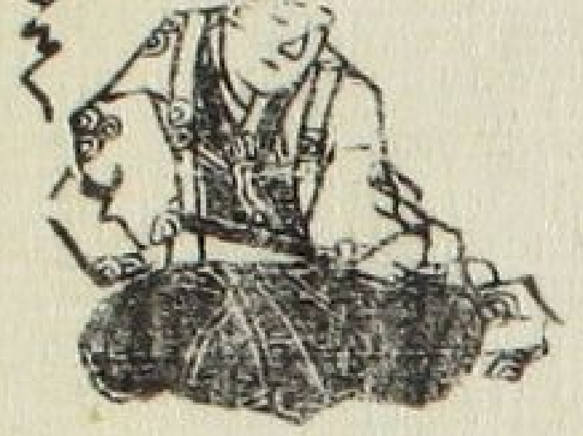


[illegible]
[illegible]
可被仰合候[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月之異名

正月	二月	三月	四月	五月	六月
陬月	如月	弥生	卯月	皐月	水無月
歳首	夾鐘	禊月	朱明	蒲月	庚伏
孟春	仲春	季春	孟夏	仲夏	晩夏
初陽	踏青	竹秋	清和	盛夏	徂暑
端月	中和	姑洗	中呂	蕤賓	林鐘
開春	令月	春稍	槐夏	梅天	陽氷

當地大變ニ付御懇書殊為以御手傳人被下千萬忝存候之處[illegible]ハ相納り候得共寒家ハ其外共[illegible]



とりて我鍔もとちかく右の鞘におさむべき鍔の柄を左へなして縁頭または鐔などをよくと見うすべし刃をむかふへとわたすべし人前をとおし向け右の手にて鞘左の手にて其柄を紅縁の上ゆきくにぎりてくろげ鞘をよ柄とも小刀をも持刀鞘むかふを手にて左の手をそへ角ら鞘を挿めかくれて治るこれ

右御禮迄申述度早々
御家族御無事

地震見舞之状

以飛札致啓達候
扨其御表地震

まづ[illegible]上へつく
持くむ様を手にて持[illegible]
跡を落しうけて[illegible]むべし

○菓物の皮を剝くには
右の方をさきとしてむくべし
うりは皮の方を六つ葉に剝
輪切にすべし古用意
梨は二つ割になして
横にむくとも
柿八まる丸
平柿ハ
たての丸ハ
六角割に申よりむき
甲に少刀目を入るべし

参詣人[illegible]及[illegible]
[illegible]怪我人等有之は
趣風聞承驚入候
[illegible]
有之[illegible]

七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
文月 夷則 孟秋 桐秋 素商 星月	葉月 仲秋 桂月 南呂 竹春 燕去	長月 菊月 霜降 無射 菊天 暮秋	神無月 小春 [illegible] 玄冬 初冬 大章	霜月 仲冬 黄鐘 暢月 [illegible] 陽復	師走 季冬 [illegible] 臘月 春待 [illegible]月

閏月ハたとへバ三月のつぎならバ後の弥生九月なれバ後の長月と云べし

其上[illegible]相[illegible]言語
道断之仕合ニ御座候
始末[illegible]即刻引受
[illegible]
[illegible]及[illegible]候

○大日本國盡（だいにつぽんくにづくし）

五畿内（ごきない）　五ヶ國

山城（やましろ）　城州（じやうしう）

大和（やまと）　和州（わしう）

河内（かはち）　河州（かしう）

和泉（いづみ）　泉州（せんしう）

攝津（せつゝ）　摂州

東海道（とうかいだう）　十五ヶ國

伊賀（いが）　伊州（いしう）

伊勢（いせ）　勢州（せいしう）

志摩（しま）　志州（ししう）

尾張（をはり）　尾州（びしう）

参河（みかは）　参州（さんしう）

遠江（とほたふみ）　遠州（ゑんしう）

駿河（するが）　駿州（すんしう）

甲斐（かひ）　甲州（かうしう）

伊豆（いづ）　豆州（づしう）

相模（さがみ）　相州（さうしう）

武藏（むさし）　武州（ぶしう）

安房（あは）　房州（ばうしう）

上總（かづさ）　總州（そうしう）

下總（しもふさ）　同

常陸（ひたち）　常州（じやうしう）

東山道（とうさんだう）　八ヶ國

第弐集
[illegible]
まさ
經をし
東路の
たの
もそふ
名も
くら
[illegible]

折柄（をりから）無（ぶ）人（にん）ニ而困入（こまりいり）候處（ところ）へ御（ご）懇志（こんし）之（の）御力添（おんちからぞへ）不（ず）斜（なゝめなら）忝（かたじけなく）奉（たてまつり）存（ぞんじ）候（さふらふ）近々（ちかぢか）[illegible]可（べく）申（まうす）[illegible]追々（おひおひ）可（べく）申上（まうしあぐ）不（ず）取敢（とりあへ）

御禮（おんれい）[illegible]可申上（まうしあげ）候[illegible]

病氣（びやうき）見舞（みまひ）状

其許（そのもと）様（さま）[illegible]を[illegible]御病氣（ごびやうき）追（おひ）つのり御平臥（ごへいぐわ）之由（のよし）嘸々（さぞかし）御困（おんこまり）可被成候

近江 江州 美濃 濃州
飛騨 飛州 信濃 信州
上野 上州 下野 野州
陸奥 奥州 出羽 羽州
北陸道 七ヶ國
若狭 若州 越前 越州
加賀 加州 能登 能州
越中 越州 越後 同
佐渡 佐州 山陰道 八ヶ國
丹波 丹州 丹後 同
但馬 但州 因幡 因州
伯耆 伯州 出雲 雲州
石見 石州 隠岐 隠州
山陽道 八ヶ國
播磨 播州 美作 作州
備前 備州 備中 同
備後 同 安藝 藝州
周防 防州 長門 長州
南海道 六ヶ國

久々御無音ニ打過
何茂[illegible]
[illegible]西村氏ゟ傳承
驚入候[illegible]
[illegible]
書中ニ[illegible]
[illegible]女人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紀伊（紀州）　淡路（淡州）
阿波（阿州）　讃岐（讃州）
伊豫（豫州）　土佐（土州）
西海道　九ヶ國
筑前（筑州）　筑後　同
豊前（豊州）　豊後　同
肥前（肥州）　肥後　同
日向（日州）　大隅（隅州）
薩摩（薩州）
二嶋
壹岐（壹州）　對馬（對州）
國盡　畢

○萬兒術妙方鑑

○ねぶとを落す法
△はれ所なるを地に書きて両わし足をさしつけ足跡の上へ灸を三火すへてよし奇妙なり
すみやかに落る事妙なり
△又方　年の田の字を書て其の人の病と思ふ所を書を
[illegible]
[illegible]
[illegible]落ずばへ[illegible]

先以其許中無異之
同返度[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

持病之積氣時々相障
其上暑氣差募兎角
[illegible]
存候先者[illegible]
[illegible]

よく〳〵むし食違ひ重ねて
板壁にはかへ置るに四升の稼
よりあけ候まゝ別に置入る
なり兼る間はかへのえ居る
毒へ銭あり入るべし

○癪ふ腹たつを治す法

△ふ腹たつる人のふとんの下へ紙を志きて敷ぞりこぬ身でろと乗やを布して
の手合べ治る事妙なり

○疝痛を治す法

△こらにとヱがたの毒さぶい非ふことと三ツ書てある紙を書て焼て粉にし其上へ小便する

此の符童をさつえん病いえる
すこやかに治る事妙也

○頭痛病をとめる法

△申年申月申日申刻申の方にむかひて新しきすり鉢を頭にかぶり置ば灸をすゑる頭痛治りて其後一生の内ふたゝびおこらず

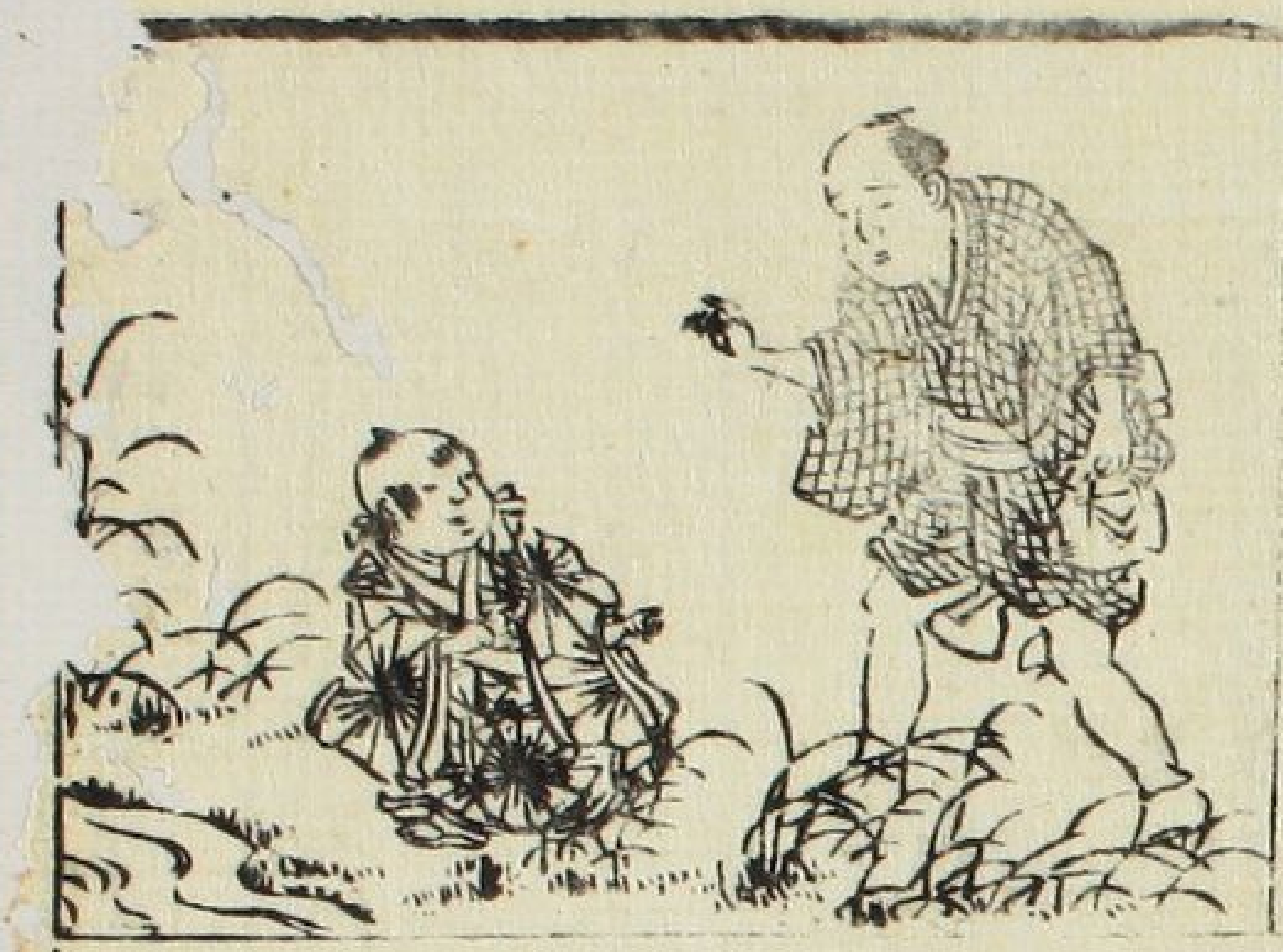
○歯のいたみを治す法

△むせ歯を引切もの炎をわきてに白豆三つぶ針にさし焼て灰にし其のうちのまへに埋こみ置歯の痛みまで痛を止歯へ豆粒すりて治る

不相替御懇意入候處
御座候全快仕候て早
速参上可申上候處
付一条取紛申候
其節乱筆可申上候

御無沙汰之段奉申上候
何卒御勘弁被下候様
宜敷御取成奉希候
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○小便通の妙法
△亥の月中丑の日夜
この中へ手をつけぬまする
其人の手を絹につゝみ一時
ばかりして後に日をかうふべし
其身のまゝにげの薬治し
○瘧おとしをとる法
△黒卵の夜おき黒全帯と
ちりとりとを持帯にて
前後の所をちり取へ入れ
本寺の近く町の四辻へ
暮方に其取を捨て
後をふりかへらぬ也
△落葉をしげけ
○痔の病を治す法
痔を治し一生無病の
こと常とひのまゝ治さし
○田むしを治す法
△生たる青蛙を取とる
其頭を取て其血の沁し
蛙の背中を練てつく
なしかるべ田むしのうへ



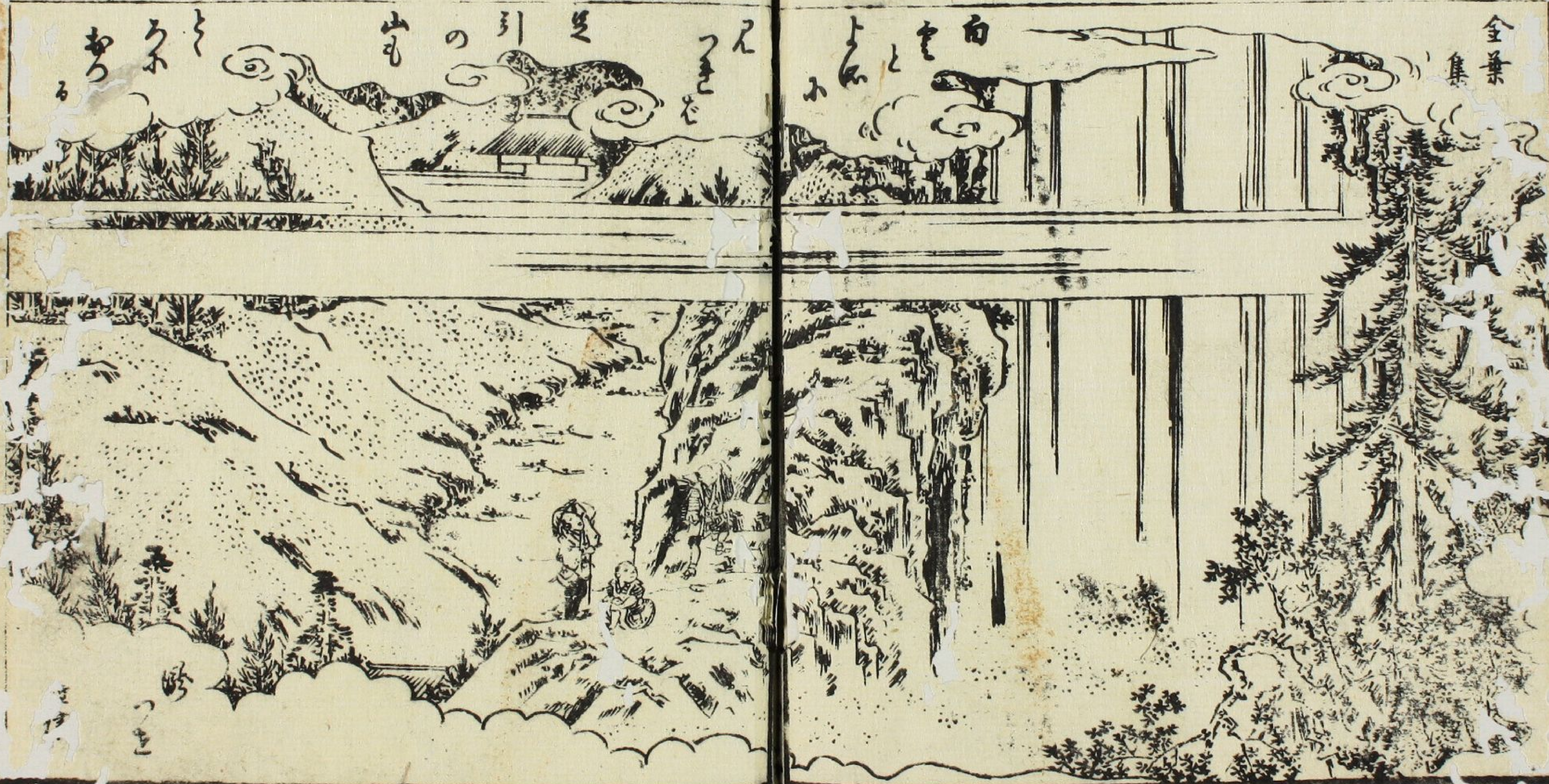
留守見舞状
此間者御両親様御揃御機嫌
早速霊場巡拝ニ御出立一
御出立之節御暇乞ニも不参
且又御留守中御旅行
御留守中之儀被仰付
早速参上可致候処
申上候処其頃中国辺
来候折是其外長々御無音
御疎遠罷過候御世人

すりくだき疵へ敷べし
此法いんきん田むしに通
△又方田むし出来る処を
日びにてはふ田虫と云
長く鼻紙をとりて尖なる
指をぬぐひ其紙をとりて
ねぢて川へながし捨る也
○消渇を治す法
△女簾の皮をふとんの下
に敷て寐るなり
○火傷のまじなひ
△烟風の赤く痛るを
よくく器物に入置者
日を経て泥と成る其を
紙にくるみ付る事妙也
△又方 鍋のへの鍋つぶを
そくひにねりて付るもよし
△又方灰汁のたまりを
付るも奇妙なり
一説云火傷に水なとか
けるは大にあしく火毒
すみく内攻になり変發
ハ命にかゝはるもの也万一
消ざる事有時ハ童便を
かゝるよし飲べし
○血どめ弘法
△紙を四角に切て如

三ツ折

又三ツ折

巻てくれゝ口にあてるも


金葉集

白雲とよそに見えつる足引の山もとゞろにおつる瀧つせ

又方地の上ニて十文字の
うへニて右扇子又ハゆびにて
も左の文字をかき

鬼之

此字を書て鍼とおさへてゆるむべからず

志づくおさへ居るくるてを
もなす時心をとゞめく
円へ筆先を納るなり
く此のごとく引控まへ
又血の留るなり

○鼻血をとむる法

△右の鼻血右の方より出る
時ハ左の手のこ指たの
方ならば左右の方をも
なおハ両手のこゆびを[illegible]成

[illegible]くみてしらぶ
志とくくる足にあるへ付る

○蜂にさゝれたるを治す法

△治し人の足ゑに
付る石尾或ハ瀬戸物の
かけ又ハ草履きぶつを
も有あふ物をとらべ
く志づくこ右手へ居置べ
すみやかに治すべし

○蜈蚣にさゝれたるを治法

△鶏のふんと水にてとき
付るなり速に治す

○歯ぎりを止る法

△神馬の居にするうたる
足ニ[illegible]ふせつて[illegible]

仲冬之節淋敷[illegible]
旅舎[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元服祝状

一翰呈上[illegible]
御子息様[illegible]
十[illegible]
御元服目出度御事[illegible]

拾ひ來りて寄するにて食物にまぜてくらはせばしるしある事妙なり

○咳をとむる法

△手もにぎるに指にて柿といふ字をかきて呑事をなめさすればすなはちやむ

△又法柿のへたに其州かしくらべてせんじ服すればおかくてよろし

○目に物の入たるを治す法

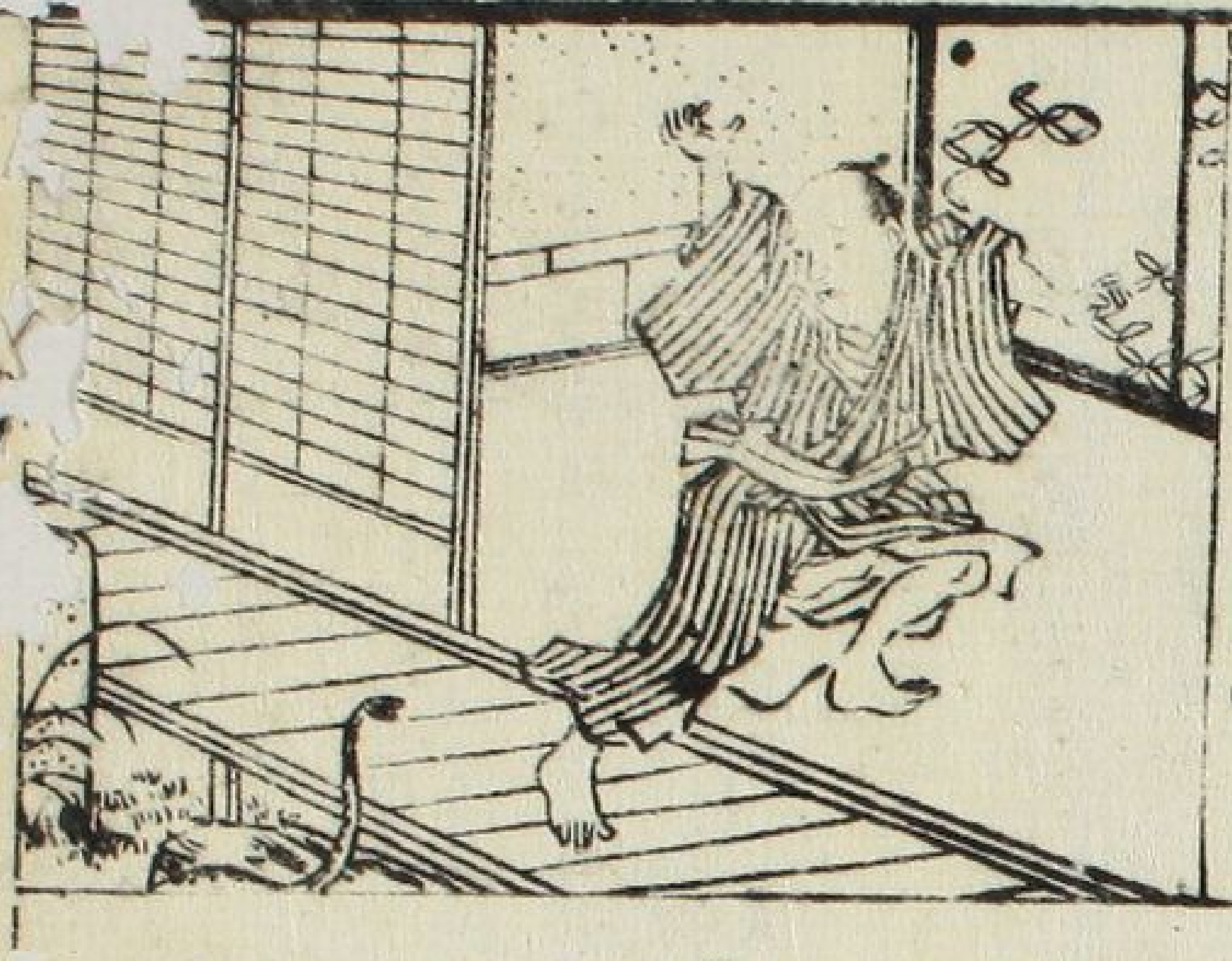
△垢をすりてちやわんに落これを見れバ入たる物おのづから出る

○墨ひ子をとる呪法

△卯月八日の濃をと先達まよひ子尋る時彼花を竿にくゝり付立ねけば白猿とぞをよりゆうべし

○まむし蛇図へ入らぬ法

△三日さんどに蠅のとりなる竹を串にけづり入口にさく



幾久敷目出度奉存候

承候御地御当人様益も

御機嫌能御座候と

先達而御揃被成候と

御座候御申上候

御苦労地進之任候

御縁至中御座候

別家御悦

左殿御申上候

幸便御申上候

△火家の留酒の地にはしく
松をたえんく入置べし
○床の子孫の毒消の法
△松茸其外くさびらの毒にあたりたるには土を煎じ湯にてそくのむべし又塩水をなすべしそらびての母もよし
△さらを水にまめしきれをすひくもよし
○喉に骨のたちたるを抜法
△さかなたる骨の法とりを歯ぐく鍋にいてきのせて居ぬねるなり
○指の骨のする法
△銭むしに鬼といふ字を三字指にてかくべし
寺々物にあをを連し
○思ふ時節を覚す法
△夜寝る時に左の手のひらに大の字三字をかき舌にてなめ桃に左の足に文字とかくなり
△間えんに子どもあんさしのうち咳に左の手三べん唱ふ引ちとけておくるも売子孫の世がいきき聲ろ色我まくる事
△床風虫ありとあつ
○ちぶらぶくるを治す法

就朝御分家誠実
目出度心得年来
御自愛謹案御座候
申入御同慶存候
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]如く手に[illegible]べし
[illegible]時は[illegible]
と三返となへてさすべし
〇足の[illegible]を治する法
△[illegible]此文字を
三返となへて[illegible]
[illegible]べし
〇蛸を和らかにする法
△[illegible]ふのりを
と手のうち鍋のうへより
三べんまはせばやはらかに
なるもの也ふのりを[illegible]
[illegible]蛸をうけるも
〇魚を焼に網に付ぬ法
△魚をおく[illegible]
の[illegible]のうへをと三べん廻し
其後火にて[illegible]すこしも
こげ付事なし
〇植木に虫付ぬ法
△[illegible]の根鰯を磨き
竹の筒を洗ひて[illegible]
穴をあけ其[illegible]
[illegible]其後より
虫[illegible]
[illegible]
[illegible]翌年より虫も付ず
〇小児の夜啼を止る法
△[illegible]を紙袋に入て
腰にさげさせおくべし
△又方[illegible]

御[illegible]に任し[illegible]候處
向後幾分之[illegible]
入念文字是迄[illegible]
御[illegible]も[illegible]
猶又不相替御[illegible]友
[illegible]
[illegible]
[illegible]入御[illegible]
可[illegible]
[illegible]

小児の病ありてまぜり
又石菖の手葉を合せへし
へ蓼いらくなあらさそ
わきの教のなさされ
めひそのもふともまされる
○痘瘡かるくする法
△古き笠をべ小児
おひさく色雪隠をきれば
きせ竹の先へ雪隠の壷
をこえんをきらし事を
笠のよへをまき雪後等よ
竹す川へ流すべし痘瘡
することあらしなとへ出す
実ふかるくする事
△又方菖蒲の根の皮

無沙汰打過候處

先者在所數年入魂

早々御出被成

婚禮祝儀状

一筆啓上仕候今般

豆殻を雪隠の病人の
手を頭よりつきは火ふ
兒の痘瘡かるくて疵し
△又方蚕生の子を蒔の
鷄合の教へ為去神の香
屈布の枝の根へいり足
二ぶ埋ミ痘瘡かろく
いそすゑうと念じ表
ミらせんかく軽くするも
○痢病除の法
△夏の土用中小豆之粥
の中へ葉を三ツ入て
煮てくなへし毎年
痢病せむ事なし
○安産の法

御良縁被相整御婚禮

首尾能相濟之條

千秋萬歳目出度

御家督繁昌存悦候

贈ハ御緞子壹巻

△門の[illegible]より入[illegible]に袋に入[illegible]付置[illegible]みのあべ安産するの妙也

△子うまれかぬる時は良君子を手に握るべしすみやかに平産する也

○ひゞの切れぬる法

△夏の土用中の丑の日蟷螂をせんじてつけ[illegible]手足の甲にぬるべし[illegible]ぬりてもよくきく也

○船中の難を免るゝ法

△船の[illegible]人[illegible]を[illegible]してゐるべし[illegible]難あることなかるべし

△又船に[illegible]人船の[illegible]て殺を[illegible]一艘の人ゝ何れも[illegible]を見て[illegible]まづ[illegible]

御揃肴進呈之仕候

参上御悦可申上候

先以御筆閣不取敢如

此御座候恐惶謹言

同返報

今般婚事相整之

奇縁有之婚姻取結

目出度候而親類之人々

御両家之各様郎等之

御祝儀被受御心頭

○百官名盡

左京　右京　内膳
主水　左近　右近
大膳　修理　内記
監物　藏人　主膳
掃部　外記　主馬
将監　中務　弾正
式部　民部　兵部
宮内　刑部　治部
大藏　内匠　圖書
内藏　大学　主計
左馬　右馬　典厩
靱負　帯刀　縫殿
雅楽　伊織　市正
主殿　権守　主税
采女　大炊　内舎人
頼母　勘解由　玄蕃
掃部　兵庫　隼人
金吾　左兵衛　右兵衛
左衛門　右衛門　造酒
杢　采女　囚獄
織部　正親　瀧口
大弐　少弐　大進
少進　数馬　志摩

○東百官名盡

左門　右門　左中
右中　中紀　左内
右内　中　酒江

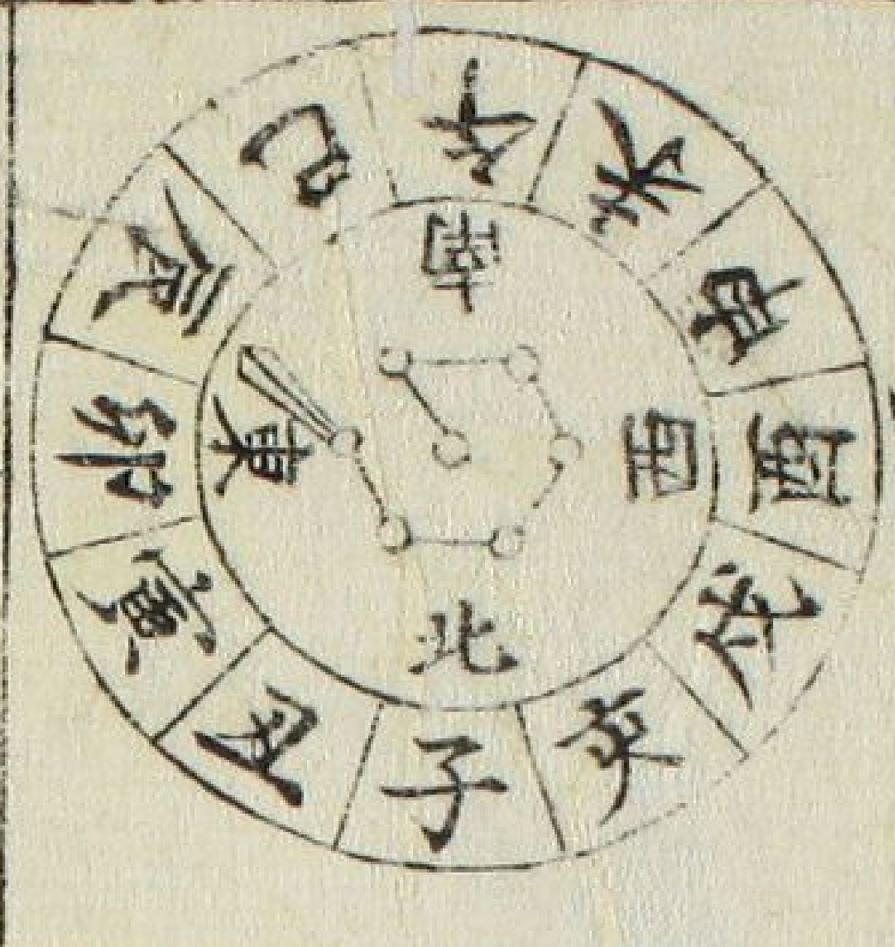
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]申上候[illegible]御座候
安産欣[illegible]
御内室様[illegible]
[illegible]御平産[illegible]
[illegible]
[illegible]

清守 斎毛 波門
平馬 岳馬 岩尾
左平 斎華 織江
要人 司馬 男也
自然 多門 大炊
求化 半外 平角
官門 鶴殿 男依
丹宮 藏主 斎門
一學 丹弥 門弥
矢柄 左門 清兆
將監 武極 主尾
数右 軍兆 司書
諸殿 男吏 前合
一角 喜内 斎摩
丹下 求馬 久米
左膳 右膳 小膳
典礼 典女 遠炊
主税 宗衣 求衣
正遠 古仙 梅千
藤馬 織居 文内
亘 恰 縛

重一入目出度御座
幸存依し御産土
一重拝觴形追には
右御喜し愈當家中
四御拝し

年賀祝儀状
御賀文様御事
古歌し御年號之時
出祝着有之候間
御度目儀雅千歳を

○破軍星之繰方（はぐんせいのくりかた）



正月	五ツ目	十一目
二月	六ツ目	十二目
三月	七ツ目	一ツ目
四月	八ツ目	二ツ目
五月	九ツ目	三ツ目
六月	十ツ目	四ツ目
七月		
八月		
九月		
十月		
十一月		
十二月		

たとへバ正月ハ五ツ目と云ハ其の
酉の時[illegible]五ツ目の戌亥
子丑と順ぐりて五ツ目丑寅の方
[illegible]

其年[illegible]ニ付[illegible]迄
恩[illegible]
仕合早速[illegible]一同
[illegible]
頭巾并[illegible]

[illegible]之事

木性	火性	土水性	金性
寅の年八月初の寅の日 酉の刻より入十七年が吉 辰の年三月初の辰の日 辰の刻より入六十年が間凶	子の年十一月初の子の日子 刻より入十一年の間よし 未の年六月初の未の日 未の刻より入十六年が間凶	午の年六月初の午の日 午刻より入十二年の間よし 丑の年十二月初の丑の日 丑刻より入十五年の間凶	卯の年二月初の卯の日卯 刻より入十一年の間よし 戌の年九月初の戌の日 戌刻より入十三年の間凶

上ニ付[illegible]
萬々可申述以上

同返事

年賀ニ付[illegible]
[illegible]仕候

○潮汐の満干

毎月	満しほ	引しほ
朔日 十六日	大 六ツ四ぶ	九ツ四ぶ
二日 十七日	六ツ八ぶ	九ツ八ぶ
三日 十八日	中 五ツ二ぶ	八ツ二ぶ
四日 十九日	五ツ六ぶ	八ツ六ぶ
五日 廿日	四ツどき	七ツどき
六日 廿一日	四ツ四ぶ	七ツ四ぶ
七日 廿二日	小 四ツ八ぶ	七ツ八ぶ
八日 廿三日	九ツ二ぶ	六ツ二ぶ
九日 廿四日	九ツ六ぶ	六ツ六ぶ
十日 廿五日	長 八ツどき	五ツどき
十一日 廿六日	八ツ四ぶ	五ツ四ぶ
十二日 廿七日	八ツ八ぶ	五ツ八ぶ
十三日 廿八日	七ツ二ぶ	四ツ二ぶ
十四日 廿九日	大 七ツ六ぶ	四ツ六ぶ
十五日 晦日	大 六ツどき	九ツどき

右なるは六ツ時より六ツ四ぶなれば又六ツ時より六ツ四ぶ迄干潟有に随月の出入人の生死まで此しほどき

書札認之大旨

一夫書札は其志を述る物なれば言葉丁寧に文言の安く穏なるをよしとす無用の文を書つゞくれば義はいかにと見んぢかし又文字に書損并筆跡に心を用ひ角だゝぬやうにすべしよく心得ざれば思はざるふさく人は嫉まするとあり古語にも文は語を成て語は言を述と云へるごとく俗通の

不寄存御病気承

無心許存候一通呈使到

御案内可申上候處

御相驚不及申候其節

萬々御禮可申上候

唐筆弐對

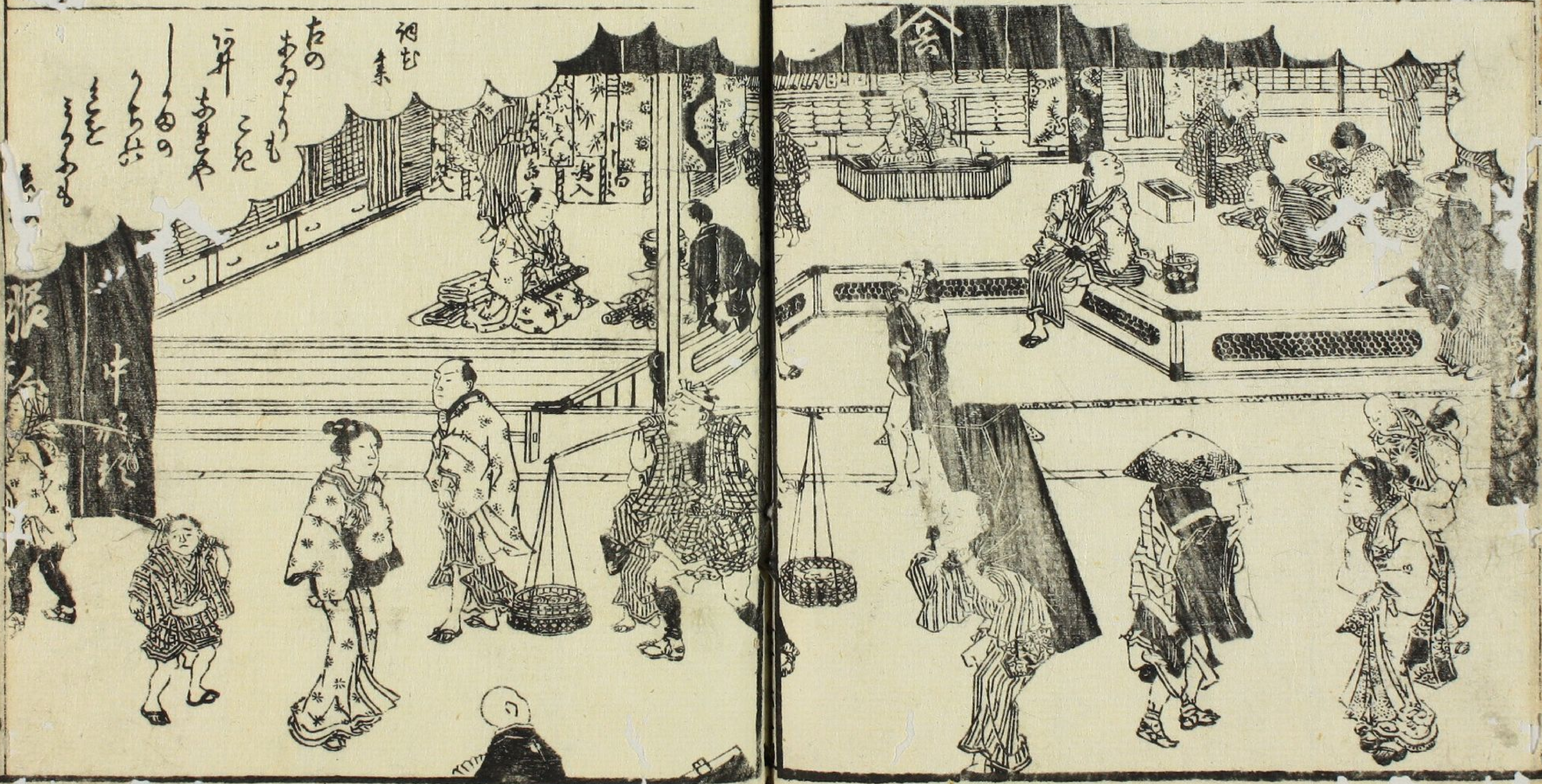
以使申上候進呈

相伺候處益御安静

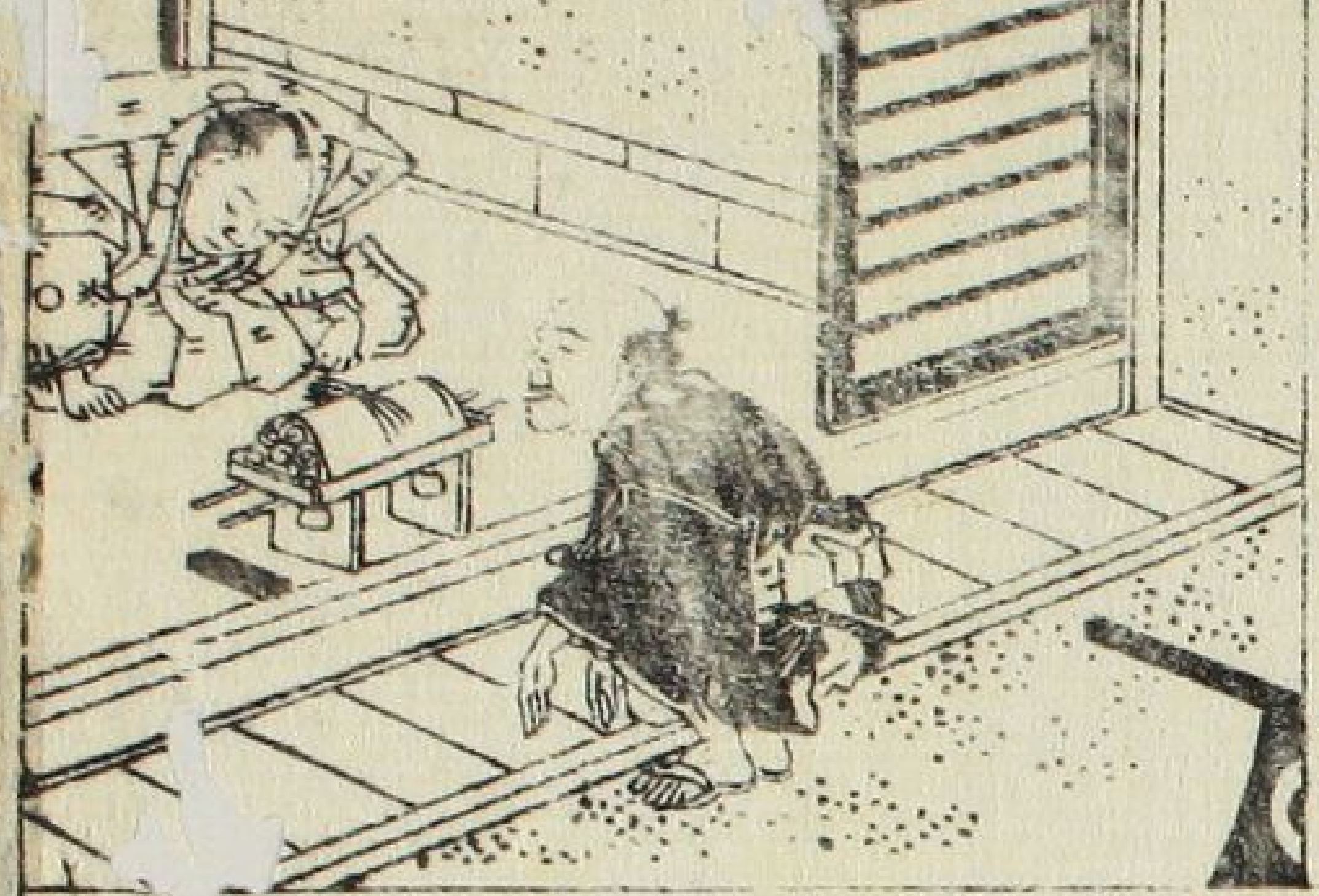
大慶至極奉存候然者

扨者此度私儀

用文といへるハすべての
達者なるを称なり継て
学びやすく人の鏡とする書に
○書状文の寸法の事先
紙の端より書出し迄
上の間と書留より月日
迄の間と月日と奥の
紙の端迄と三所にわかつ
其も三寸三分づゝあり
是をも三つに割て其の雛と
いふ但し横文の時ハ月
日と宛名との間三寸
六分ほどく奥の紙を
勝手次第に餘すべし
又長文ならバ裏へ書
半切なれど我名を
宛名をも書表へ出る
べからず又表一面に文を
書切べからず折目も
文を裏へ出しそれを
とかくべきなり是を継
なり継と云ふ料紙の
大小文の長短によりて
右例にかゝはらず計ひ
専要とすべし
○續つぎ初の行儀
読やすく文あくまで
く書之是を陰陽の
筆づかひある文句を
中中く書べき也


詞花集
右の
あふよりも　こそ
行井　あまりや
しるの
うちは
まなと
まろかも
張
中

深のよきつ切と双ぬ
写う手べし右のごとくに
仰ぐくこそ貴人の
御名又御筆などの
きれハかくつす事
とつぐ屋一乏敷し
○高貴の御名于外
尊むべき筆に不さ
闕字とて一字明く
かく又平かく書すべき
筆は長紙と隔く
次の行の上に書とく
文字正しく出すべき
天子の御名神号
などの抬頭の上へ一字
上てかくる是を書て
多き事を憚くなり
○引く出ハ上章への文
字にかくべからず同輩なる
以後時宜にまかすべし
其外に定文字書のと
しるる筆に或ハ縮の



加入仕候處貴人も
相煩申旨付別紙進之
隨意之通ニ御座候
猶又相構申上候
御用向被仰付度
此段宜奉希上候
尚追而申述候
巳刻頃被仰下候折々
都合宜入御覧度奉存候
由世海も宜し敷候

進上などハ目下の名持
高く書なるべし本文の
如く二字などさげて書
三行目の如く書べし
一贈礼の祝儀状を賞
文と云事は手習云
濃くかすらざる様にし
文書ハ行并行丁寧
かくべし墨ハ濃数とい
ふも思ひの外を書ハ湯の
数などをかへすゞ文云
の中ニ去年文など
の文字かへて手紙
ハ是を思く是等の
文字をもかく事すべし

○進物ハ数ひろハ本文
の中ニ何くれと書上仕
と出入ハ文字ニ如乃
数ニハ扇子一箱かく
のごとく揃へよせてかくべし
名目ハ本行とかくべし
○文字様ハ前ナる公
家云様ハ私方へ云ふ
べきを私方ハ家云様へ
とかくべし其様ハ
扱て紙半とも書かき
人を勝ふすべからず
○花押名乗ハ必ず
正しく書べし老人へ
宛名なく文小く書を

御仕立上ヶ候間呈上
一際宜敷貴見致拝見候
新文御目ニ懸ケ度候
賀儀旁申上度如此ニ候
目出度御事ニ存候
不悪思召可被下候
又々御無沙汰御聞届ケ
可被下候何事も追而
左右可申上候
恐惶謹言

慎むべきなり

○文中に草文和文數文独吟などの文字二紙三紙あるハいろんぶくろし懐紙をよくよく認め外の玄蕃ニあらたむべし

○上申下若手毛行料の書翰ハ初心の人のかくべき筆を能知る後の為ハ文章こ今ハ必用の事となる筆ならバ様変るべし新錦ハ上ニ案と[illegible]ハ同案筆[illegible]ハ[illegible]敷などハよく書て人の手本

なども同く[illegible]の網ニ見ぐるし今ハ[illegible]也と同[illegible]を用ゆる事となれり[illegible]ハ日ニ[illegible]ニハ下筆にし文認く[illegible]ハ[illegible]書翰多などく読て様を用ひ

○女ハ男より要ニ去状をおくらずともへどもやとえ[illegible]筆ひざる事肝要事かく[illegible]に遂はし字ある貴人の[illegible]への様[illegible]書[illegible]を略子の[illegible]となり写文ハ[illegible]

先日者御草文令拝見候

手跡名[illegible]候

書共御預り申入

御覧之処誠感心候

吟味之上可[illegible]

之旨被仰付宜敷候処

注文申入候間早速

職人へ申渡候

右御誂[illegible]出来次第

可相渡[illegible]之間[illegible]御座候

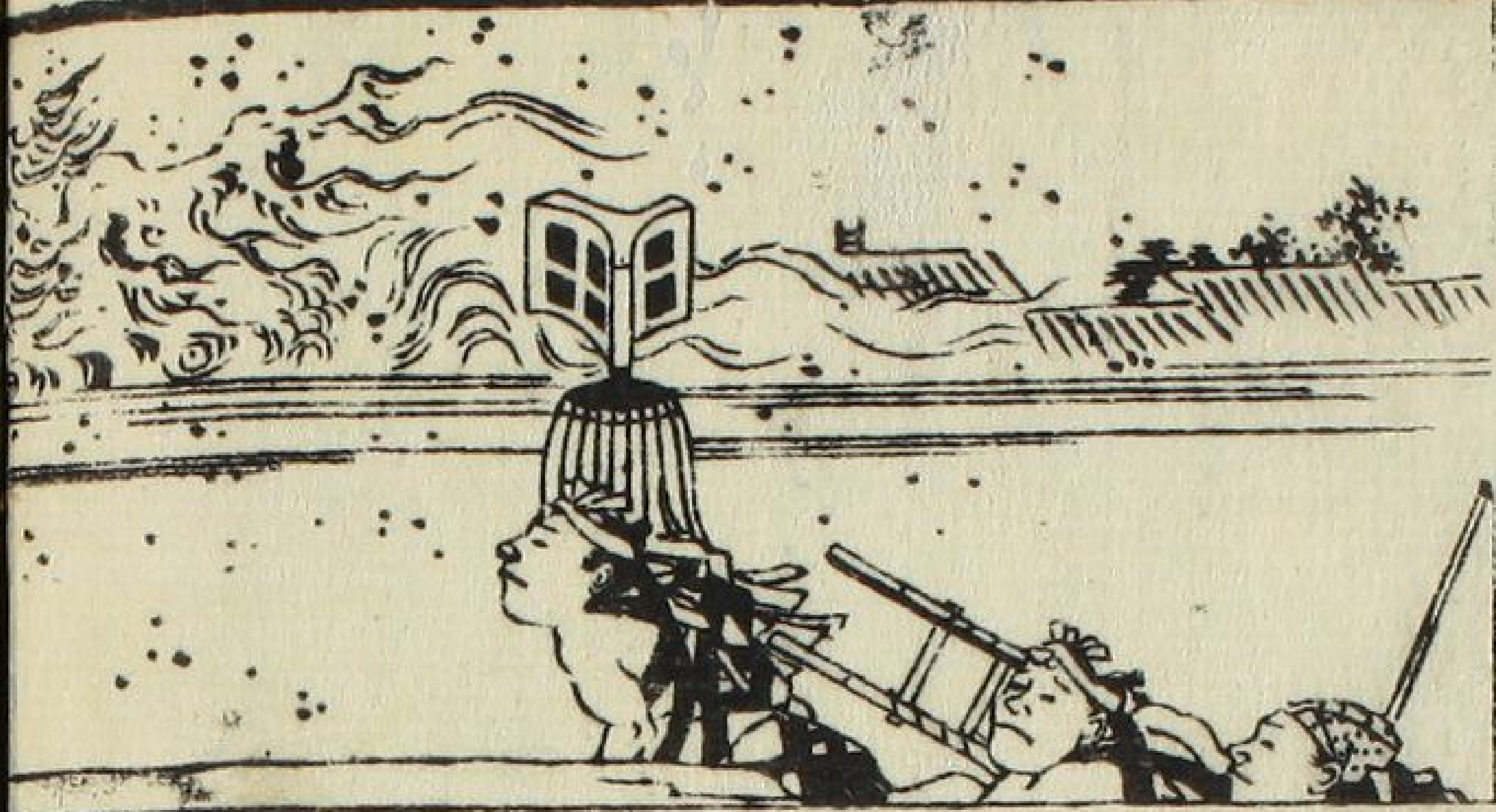
とかく[illegible]
[illegible]も候。日
存上。貴様かり
[illegible]さ。ま[illegible]
[illegible]
[illegible]。御目に[illegible]
[illegible]の
[illegible]。[illegible]
[illegible]も。[illegible]
[illegible]。書[illegible]
[illegible]暑
又[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

○月日ハ来人へハ異名
を用ゆべし手前の事にハ
常に多く方へハかくのた
[illegible]手紙に[illegible]
常又ハ不[illegible]
[illegible]ある時ハたとへ
[illegible]も[illegible]
○[illegible]ハ月日より[illegible]
上[illegible]の札
[illegible]月日と同じ
[illegible]文
[illegible]知るべし
○御の字又[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

御入来可被下候
重上ケ頼存
信御年安[illegible]
御[illegible]積り[illegible]
[illegible]中の[illegible]大雪

[illegible]付[illegible]
御[illegible]中[illegible]
中[illegible]割
何方[illegible]
私[illegible]の[illegible]年人[illegible]

○火事見舞の状は
御安否深く案じ遣り候ふ
用向ありとも遠里の処は
自ら参りて見舞べし



[illegible]騒動
[illegible]世[illegible]一体
[illegible]
[illegible]
[illegible]申[illegible]

○書翰に一筆啓上と
書出す留はかならず
恐惶謹言又ハ恐々謹言
とすべし。其余ハ不備
不宣不具頓首など
さまざまなれど[illegible]
[illegible]
○[illegible]
章[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

又上包してに上書と
しるす可し
○殺伐凶悪も為字
用捨すべし貴人へは
らぬ八殊更為遠慮致候
なとへは苦からず我親
我主人たりとも平人に
は出すまじき事
○自分の事上書六
いくら役にても只私と書
べし拙子下拙拙者
などは同事野僧愚身
手前なども家来へ
いふことなり
○不幸其外非常の
事あるハ封皮安否
をかゝず其初より其事
状をくはしく前文略候と書
べからず遠慮なども
止事得ざる事あらバ
別紙にと志るすべし
○祝言不幸其外
慶弔なとの書状
[illegible]
どの紙用ゆべからず
○神仏國郡村里人の
名など正しく書べし
又二行にまたがる名
ハ所かへて書べし
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
贈物催促状
此程縮緬[illegible]浅黄に
仕立物御約束之日限
余延引ニ相成[illegible]
日々催促ニ而[illegible]ニ

文章字尽時候詞

○正月ハ[illegible]

春寒之節ニ御座候

餘寒[illegible]

餘寒之[illegible]

○二月ハ[illegible]

餘寒今以[illegible]

餘寒未[illegible]

餘寒[illegible]

○二月中ハ[illegible]

春和漸相催[illegible]

漸春暖相催候

時分柄春和相催候

○三月中ハ

春暖相催候

追日暖和相催[illegible]

時分柄暖気[illegible]

[illegible]

〇四月中ハ
薄暑之節弥御堅勝ニ被成
薄暑益御揃御機嫌克奉賀候
〇五月中ハ
暑気之節弥御安泰ニ御座候
向暑之砌御清栄ニ被成
〇六月中より七月まて暑
の気つよき時分なれバ
とかくいふべし
〇六月土用中ハ
大暑之節御障無之被成
甚暑之砌御安泰ニ御座候
酷暑之節御揃被成恐悦
暑中御機嫌克奉賀候
残暑難凌御座候処
〇七月中ゟ八月ニても残暑
土用中ならバ右の如く
書くもよし
〇七月土用明てハ
残暑之節弥御堅固ニ御座候
秋暑難凌候処御機嫌克奉賀候
〇八月之初ハ
漸秋冷相催候処弥御堅勝ニ被成
新秋冷気相増候処御健勝ニ被成
〇八月之末ハ
秋冷之節御勇健ニ被成
冷気之砌御健康ニ御座候
〇九月中ハ

弥〻御機嫌克御座被成奉恐悦候
不残御揃益御勇健ニ被成奉賀候
随而当地何事無之罷在候
處御休意可被下候
此度宜敷御申上候

問屋引付状

以飛脚致啓上候
当地同商売中和屋
伝蔵殿儀是迄取引致候
仲間中ゟ取引仕

冷気相増之處
秋冷相募之處
○十月中ハ
寒冷之節[illegible]
○十一月[illegible]
[illegible]
向寒之節[illegible]
寒[illegible]
寒[illegible]
○十二月
○十二月[illegible]
大寒之[illegible]
[illegible]
厳寒之[illegible]
○正二月のうち[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]
不順之[illegible]
[illegible]
時候不[illegible]
○[illegible]
[illegible]
大よそ時候の[illegible]
右の[illegible]
年々の[illegible]
[illegible]
合[illegible]

其[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
引[illegible]
[illegible]
御[illegible]入[illegible]
初而[illegible]
未得[illegible]
[illegible]

文章必用高下九段

端書

一筆啓上候 上上
一筆啓上仕候 上中
一筆啓上仕候 上下
一筆啓上仕候 中上
一筆致啓上候 中中
一筆啓達候 中下
以手紙致啓上候 下上
以切紙申入候 下中
一ふて申しめく 下下

安否

益御機嫌能被遊御座恐悦至極 上上
益御機嫌克御座被成珍重存候 上中

弥御勇健被成御座
其許[illegible]
有佐屋惣左衛門殿
御手紙[illegible]
御[illegible]

其許存候則別紙書付
之通仕切銀相渡申候
御受取可被下候[illegible]
売[illegible]
御[illegible]

益御安泰奉恐悦存候
彌御繁栄之至　上ノ上
倍御機嫌能[illegible]
御壮栄奉恐賀候　中ノ上
益御安康奉[illegible]候
御壮健奉賀候　中
益御堅勝[illegible]珍重候
珍重存候　中ノ下
益御無事[illegible]
目出度存候　下ノ上
益御堅固[illegible]
珍重存候　下ノ中

中老衆之面々息災ニ御座候
[illegible]人衆[illegible]
此間[illegible]中[illegible]
客人之者[illegible]
[illegible]

[illegible]之[illegible]
安心[illegible]　下ノ下

○返事端書

御書拝見仕候　上ノ上
尊書致拝見候　上ノ中
尊翰拝見仕候　上ノ下
貴札致拝見候　中ノ上
貴書致拝見候　中ノ中
尊札致拝見候　中ノ下
御札致拝見候　下ノ上
御状致拝見候　下ノ中
[illegible]　下ノ下

所々何分[illegible]一
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○結句

右奉申上度候 上上

右奉申上度候 上中

右之趣申上度候 上下

右之趣得貴意度候 中上

右之趣得御意度候 中

右之趣可言上候 中下

右之趣申述候 下上

右之段申入度候 下中

右申入候 下下

○書留

誠恐誠惶謹言 上上

恐惶謹言 上中

恐惶謹言 上下

恐惶謹言 中上

恐惶謹言 中

恐惶謹言 中下

恐々謹言 下上

恐々謹言 下中

恐々謹言 下下

○様殿

様 上々　様 上中　様 上下

様 中上　様 中　様 中下

様 下上　様 下中　様 下下

依而此段得貴意候

[illegible]引付[illegible]状

以書中啓上仕候

両三日不順之季候

[illegible]

珍重之御儀ニ奉存候

然者昨日者御教訓

御引付[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿（上上）　殿（上中）　殿（上下）

殿（中上）　殿（中中）　殿（中下）

殿（下上）　殿（下中）　殿（下下）

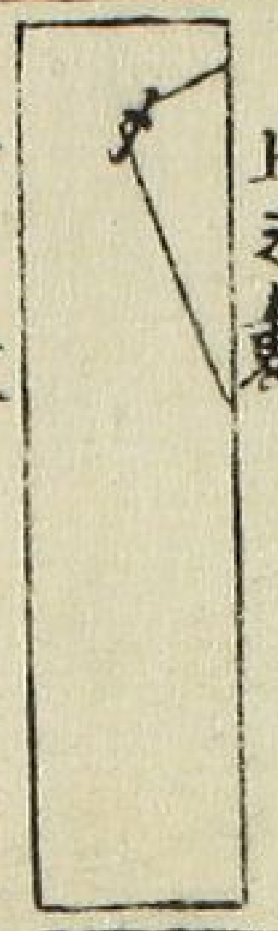
〇封状（ふうじやう）

五ての致ニハ速く書状を上る事なく長き封紙とさし上るも是を披露状と云備く封状ハ上中下し三段ニく事足れり

上之表

西　三郎兵衛様　斎藤源兵衛

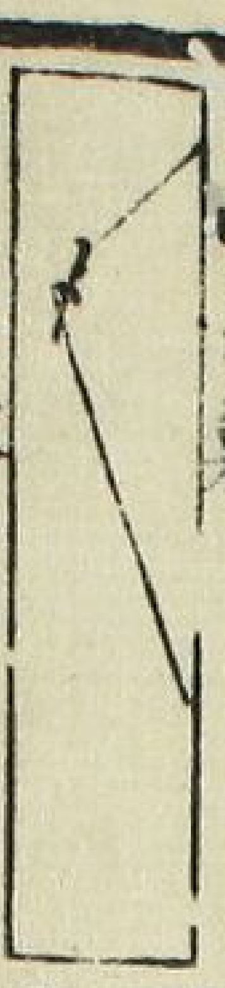
上之裏



中之表

松本小兵衛様　清水文助

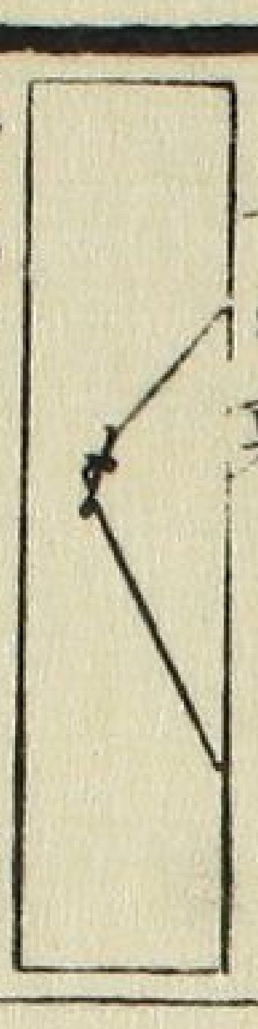
中之裏



下之表

井上幸助殿　河村喜吉

下之裏



封目ゆるきハうやまひ也ハ下ざまニ知るべし文字の苗字と一字かくハ致ひし〆ハ上ざまへハ小く目下輩へハ大くかくし封書

此ごとくしるし

哂るハ致ひなりうやまへハ廣くつくるなり但弔状ハ左へ折つめて女にも哂ざる法なり

御禮可申上候得共

先不取敢此段書中申

上候猶々殿様へ宜御

御家人衆之心得御心易

偏ニ奉希上候以上

町遣吟味状

以手紙文令啓達候

御注文被下代物相合

其品相違之段吟味之上

送状引合申候處

難波
えの
あしみ
兎毛の
まと
まうかハ
律の図
ぐひの
稲まや
あかろん

篇冠構字盡（へんかんむりかまへじづくし）

亻（にんべん）	木（きへん）	木 同	扌（てへん）
土（つちへん）	土 同	扌（はりのへん）	扌 同
禾（のぎへん）	禾 同	虫（むしへん）	虫 同
魚（うをへん）	魚 同	食（おきへん）	食 同
日（ひへん）	日 同	口（くちへん）	口 同
月（つきへん）	月 同	女（おんなへん）	女 同
言（ごんべん）	言 同	犭（けものへん）	犭 同
糸（いとへん）	糸 同	釆（のごめへん）	釆 同
耳（みゝへん）	耳 同	米（こめへん）	米 同
火（ひへん）	火 同	貝（かひへん）	貝 同
金（かねへん）	金 同	角（つのへん）	角 同
車（くるまへん）	車 同	石（いしへん）	石 同
目（めへん）	目 同	舌（したへん）	舌 同
足（あしへん）	足 同	里（さとへん）	里 同
山（やまへん）	山 同	弓（ゆみへん）	弓 同
馬（むまへん）	馬 同	舟（ふねへん）	舟 同

内入（うちいり）祝儀（しうぎ）不足（ふそく）應（おう）是（これ）有之

嘸（さぞ）此者（このもの）注文（ちうもん）之處（あさ）是（これ）一事（ひとこと）

相調（あひとゝのへ）申候（まうしそろ）此方（ここか）御文（おんぶみ）

中日之事（ちうひのこと）申合（さうしいん）處是（ろうまく）

御（おん）書（かき）付之（つけの）成（なり）候（ますあぶべし）

附（つけ）置候（さうらふ）而御（おん）注文（ねさうん）有難（ありがた）

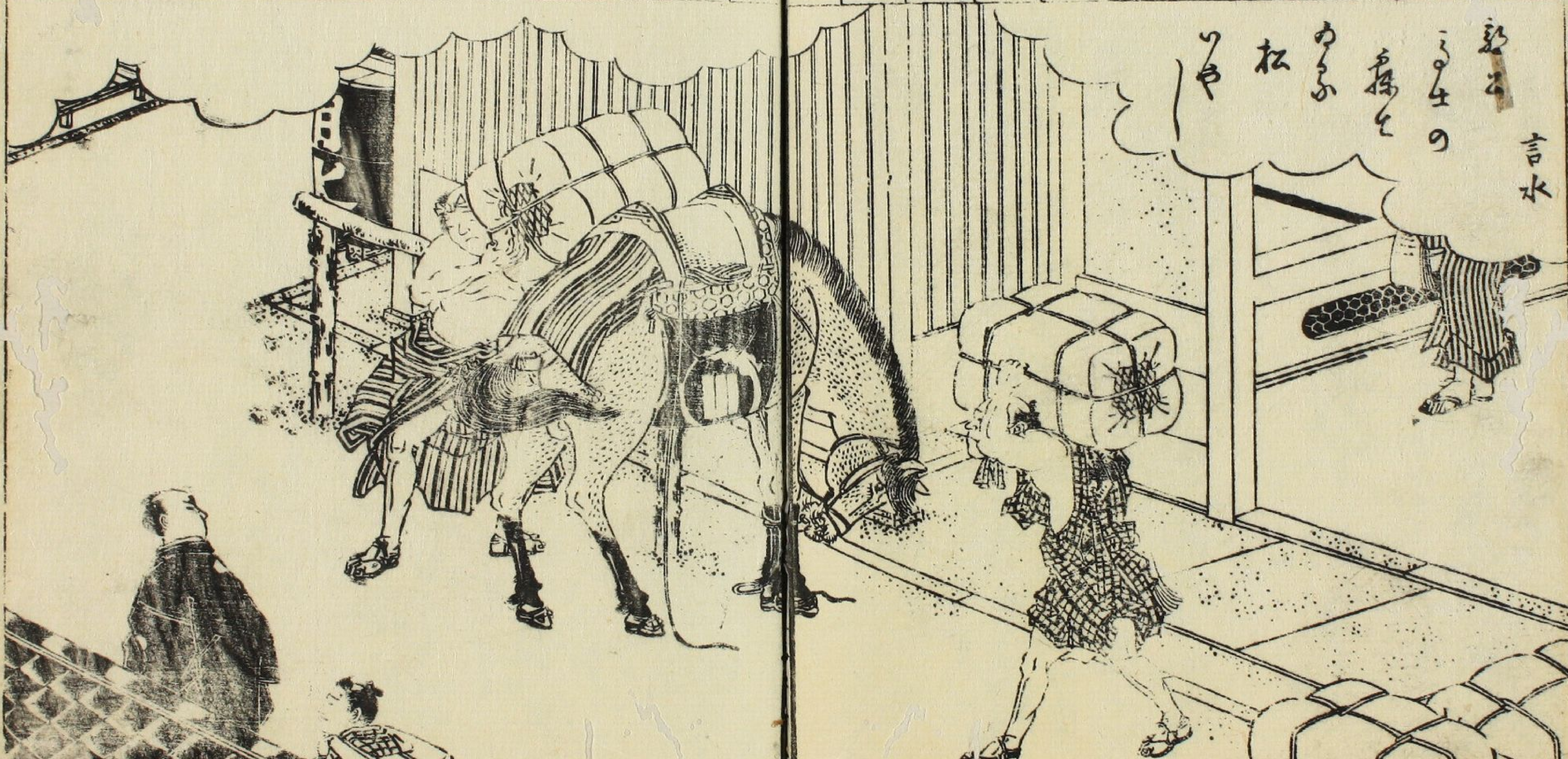
有之（おうこれ）様（よう）存（ぞんし）候（さうらう）此等（こゝら）之（の）儀（き）

一分（いちぶ）安堵（あんとう）存（ぞんじ）候（さうらふ）心（こゝろ）得（え）可（べく）候（さふらふ）

同（おなじく）返事（へんし）

御（おん）書（かき）付之（つけの）趣（おもむき）委細（そいさん）見

耳（みゝへん）	耳 同	田（たへん）	田 同
角（つのへん）	角 同	身（みへん）	身 同
骨（ほねへん）	骨 同	木	土 同
言（ごんべん）	言 同	言 同	言 同
馬（うまへん）	馬 同	毛（けへん）	毛 同
矢（やへん）	牛（うしへん）	支	攴 同
氵（さんずい）	冫（にすい）	阝（こざとへん）	阝 同
方	才（てへん）	彳（ぎょうにんべん）	彳 同
金（かねへん）	金 同	羽	虍
广（まだれ）	厂（がんだれ）	户（とかんむり）	尸（しかばね）
疒（やまいだれ）	走（そうにょう）	走 同	辶（しんにょう）
廴（えんにょう）	宀（うかんむり）	穴（あなかんむり）	皿（さら）
雨（あめかんむり）	雨 同	竹	竹 同
艹（くさかんむり）	艹 同	虍（とらかしら）	八（はちがしら）
爪	𠘨	卜	乙 同
西	西 同	刂	弋
戈（ほこ）	囗（くにがまえ）	曰（ひらび）	門（もんがまえ）
冂（けい）	斤	匚	身
网	四 同	气（きがまえ）	隹
鬼	夊	欠	頁
凵（うけばこ）	几（つくえ）	冂	勹
匕（さじ）	夂	彐（けい）	彡
支	斗	攵	巛
殳	殳 同	白	手 同



豸　肉　缶　聿
羽　耳　舌　韋
馬　鬼　鳥　香
麻　麦　黒　[illegible]

篇冠畢

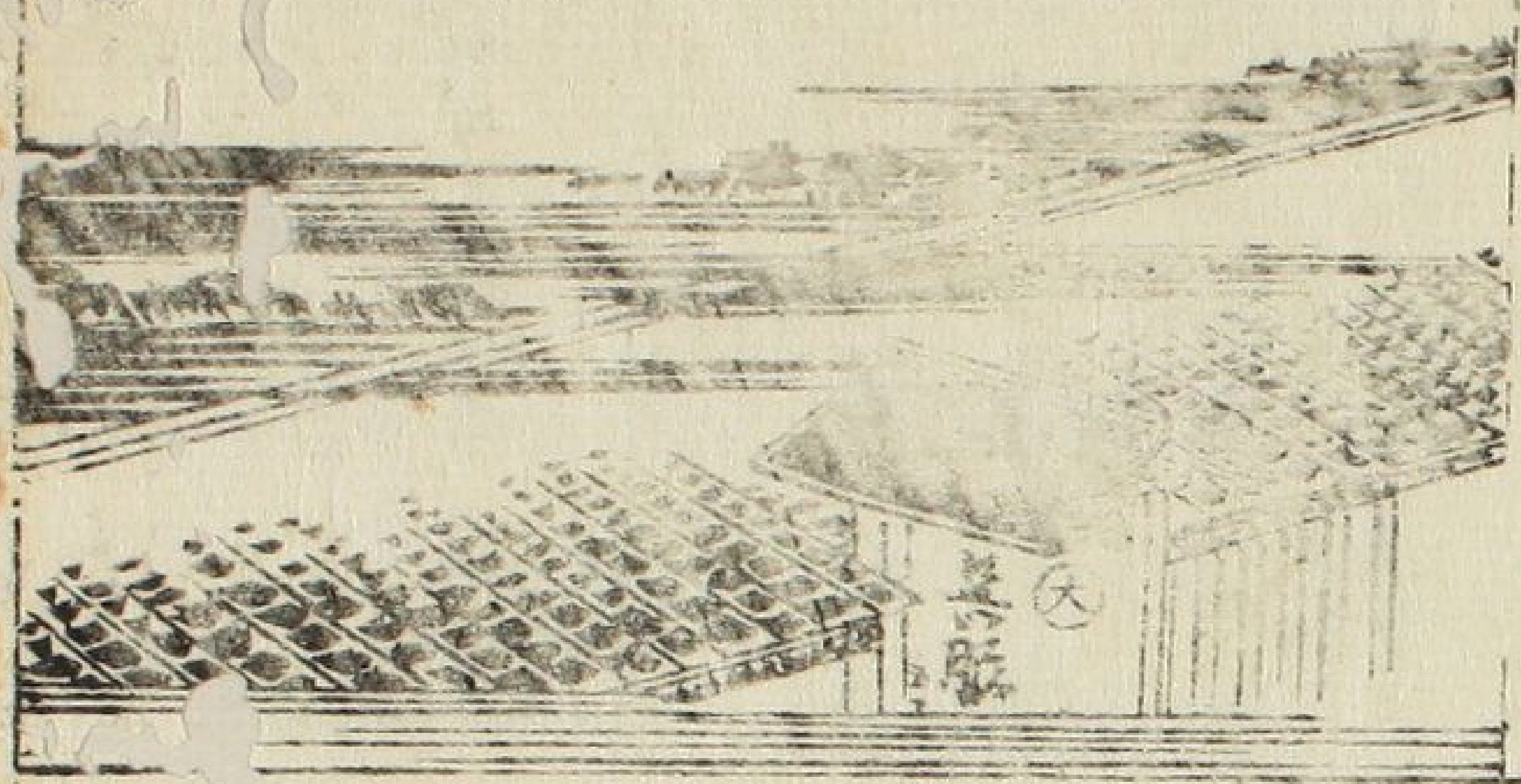
○家名書

糸屋　池田　伊丹
升箭　鍋村　平板
筏屋　板屋　蝋燭
花屋　[illegible]　針屋
柿屋　板[illegible]　鍋屋
柏木　絹屋　刷毛
張物　筆屋　幟屋
須田　橋本　馬借
[illegible]屋　箸屋　針金
人形　[illegible]屋　布袋
天古　本屋　鼈甲
紅屋　豆腐　富田
香[illegible]　砥石　常盤
佐具　時計　千切
手料　陳皮　繍屋
継物　塗師　布袋
小橋　小倉　桶屋
大坂　帯屋　白粉

付而極御縫物入念遂之
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

碇屋　綿屋　播遠
富永　和久　柏屋
雁金　錺屋　加嶋
乾物　難波　玄鷲
鍾屋　籠屋　増義
香具　傘屋　笠屋
紙屋　釜屋　金屋
吉田　茶屋　樽屋
備屋　高田　橋屋
劔屋　太峯　太井
大丸　大黒　高嶋
澤的　美濃　雛屋

萬屋　敦賀　柾屋
壺屋　蘭屋　練物
寺良　難波　灘屋
浪屋　金屋　鍋屋



[illegible]

算用書送状

残暑相厳敷御座候処

倍御清昌[illegible]

[illegible]

文[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延屋　百足　漆屋
宇治　鳥屋　團屋
鱗形　樊升　家紋
薬屋　釘屋　具足
菓子　山形　山崎
八百　八幡　絵師
松屋　松葉　旅屋
富士　笠屋　藤屋
舛屋　帛紗　吉手
福屋　太物　佛師
仏具　射屋　琴屋
小泉　小嶋　古具
小刀　麹屋　衣屋
小間物　紺染　蒼田
粉屋　米屋　帽子
海老　江戸　烏帽子
絵絹　絵馬　絵双帋
絵具　絵形　枝垂
和泉　手鏡　豊嶋
天満　天秤　丁子
浅岡　浅野　津屋
扇屋　編笠　東屋
秋田　萬屋　喜兵
青物　新屋　菱物

代銀催促状

然者先達而御借物代
銀書付を以差上置候処
未何等之御沙汰も
不被下日々相待居申候
此度差上候代銀之儀者
急々御座候引合直段ニ候
何分節季迄之處
早々相渡可被下候
付而者手数相掛候

鞘屋　砂糖　肴屋
酒屋　笹屋　[illegible]
搗屋　三文字　[illegible]
指物　佐野　菊屋
木具　木澤　桝屋
絹屋　木地　[illegible]
桔梗　[illegible]　金吹
煙管　湯屋　薬屋
湯熨斗　[illegible]　目釘
目貫　味噌　醤油
鴫屋　白木　塩屋
紫屋　[illegible]　十文字
数珠　鴫田　[illegible]
檜皮　雛屋　紐屋
菱屋　日野　瓢箪
森田　紋屋　木瓜
元結　餅屋　銭屋
煎餅　染物　線香
住吉　[illegible]　墨屋
炭屋　[illegible]　[illegible]
硯屋　錫屋　末廣
水嚢　陶器　[illegible]
[illegible]　洲濱　[illegible]
家名盡章

[illegible]

○五性名頭字

但し男女共用ゆべし

木性 万 门 弥
権 伴 卒 文
平 茂 馬 梅
武 兵 知 芳
福 満 百 采

火性 良 忠 傳
鉄 幾 亀 國
彦 吉 儀 光
角 介 加 久
岩 菊 倉 九

土性 丑 猪 治
貞 六 音 栄
為 伝 蝶 鳴
霊 林 中 二
利 徳 長 理
左 夜 忠 力

御得意様[illegible]

相成[illegible]御座候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

龜	一	和	友	時	春	丈性	福	民	彌	勇
恒	喜	熊	宇	利	順	平	重	辨	繁	卯
安	忠	幸	与	作	孫	兼	豊	留	常	濱
伊	乙	虎	次	新	甚	文	簗	保	末	兵

名頭字終

○いろはの事

昔へ幼童子の手習これ
ちゞめおかれたる手
難波津にさくや
この花冬ごもり
今を春べと
さくや此花
浅香山かげさへ
みゆる山の井の
あさき心を
我おもはなくに
右の二歌を教しるぞ
此筆紀貫之が古今の
序にもみえたる今の
いろはといへるものは
微妙の切なるもの
さて へおりて 空海

仕切手形證状
一書令啓達候
寒冷相増候処弥御堅固珍重存
然者以御書先頃買入
申入呉服物代金割
其御地井筒屋文左衛門殿へ
方々為替取組ニ付右
手形壹通差下申候
着之上御改早速
御請取付之證文

といふして其節を
[illegible]の俗弊く其章
と和音五十字なり
されバわおんハいづくなるべ
し弘法大師の作
といへども実ハ詳ならず
[illegible]僧の作とも見えて
由し其字の心ハかの
涅槃経の四句の文意を
和らげ世の無常を述する
ことをつゞりたるなれバ
今手ならひ初に是を
をしへん事いづくなる処
あらん人ハ声を苦しびて
彼寺をところそしへぬ

と寛く深くよりいへる
人あり此流をくみて
世あるい彼二字を教
へども五音五十字
の竪横相通を記し
妙なる事まで論じへ
いろはハ後世人の作
にて和音の本にあらざれバ
とらへ事をなべての童
蒙へ志しめなき
事なれど和をかる書
ゆゑ発蒙の弁之よし
かのいん事を[illegible]
是等も[illegible]
なり[illegible]

去年[illegible]
書状[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二

目録之事

去比御同道之貴札

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

いろはにほへとちりぬるを（色 香 散）
わかよたれそつねならむ（我 世 誰 常）
うゐのおくやまけふこえて（有為 奥山 今 越）
あさきゆめみしゑひもせす（浅 夢 酔 不）

○和音五十字

あ	い	う	ゑ	お	喉
か	き	く	け	こ	牙喉
さ	し	す	せ	そ	歯舌
た	ち	つ	て	と	舌
な	に	ぬ	ね	の	舌
は	ひ	ふ	へ	ほ	唇
ま	み	む	め	も	唇
や	ゐ	ゆ	ゑ	よ	喉
ら	り	る	れ	ろ	舌
わ	い	う	ゑ	を	喉

右のかなはよくよく覚 よくの御通り學べし

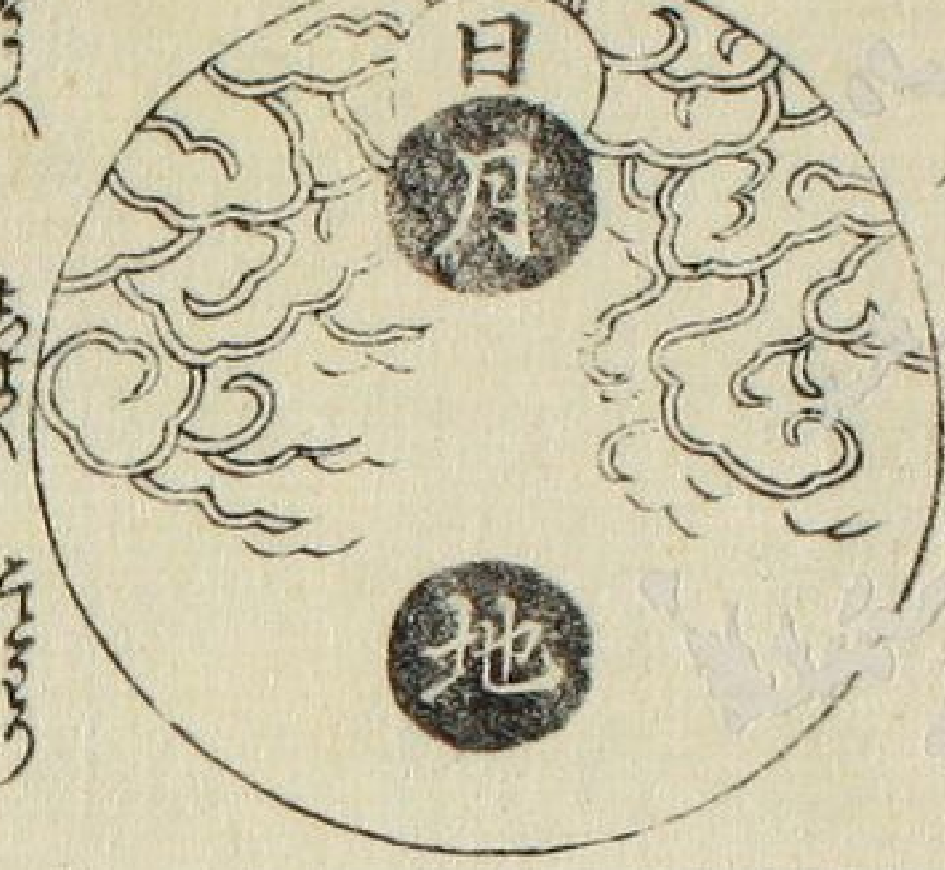
片假字いろは本字

伊イ	呂ロ	八ハ	仁ニ	保ホ
邊ヘ	止ト	千チ	利リ	奴ヌ
流ル	乎ヲ	曰ワ	加カ	與ヨ
多タ	礼レ	曽ソ	闘ツ	子子
南ナ	良ラ	牟ム	宇ウ	井井
乃ノ	於オ	久ク	也ヤ	末マ
个ケ	不フ	工コ	江エ	亭テ
阿ア	草サ	幾キ	勇ユ	女メ
三ミ	之シ	恵ヱ	比ヒ	毛モ
世セ	須ス			

御廻し致拝見候處落手則
別紙受取書差上候
彼御地無難申出候
其方遂相談可然候
御纏可被成候以上

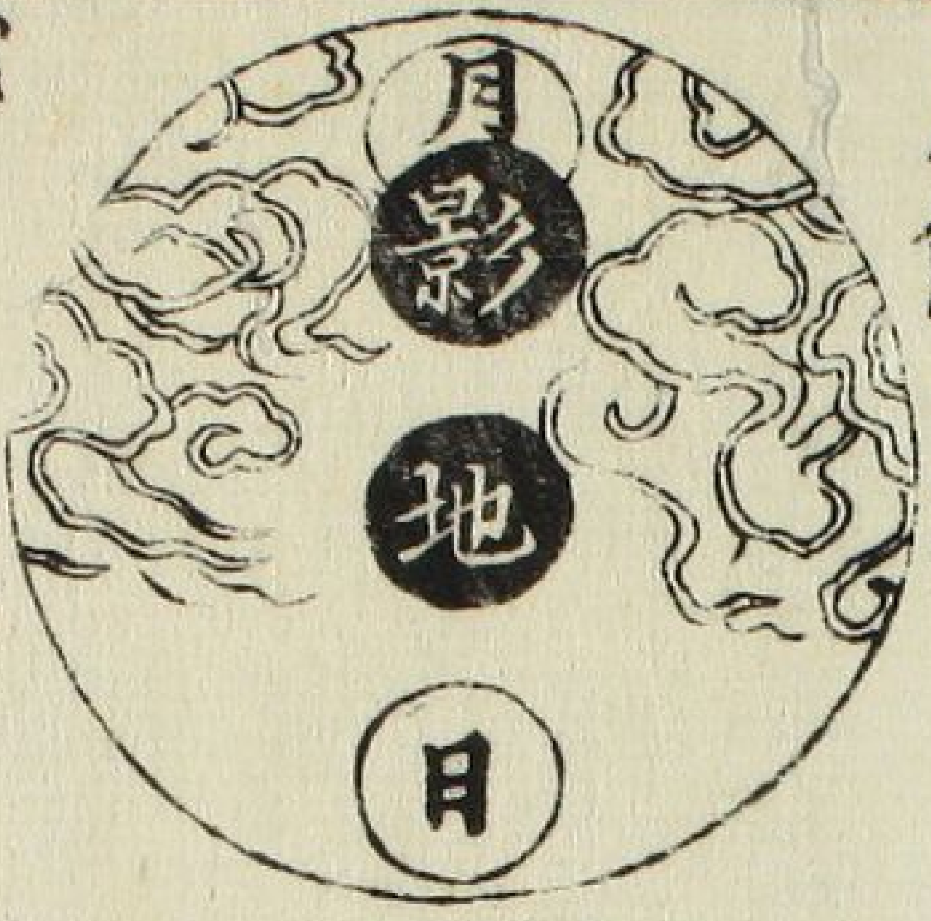
未進人々過状
末得貴意候得共難
愚書ニ時候不順ニ
御座候處御安泰珍重
猶以此段恐入候失礼

日蝕之圖



古日月の蝕する理を志らずして是を月日のわづらひと号しゆゑ今も愚俗志かおもへり今者多し天地ハ圓きものゆへ日ハ上にまハり月ハ下にめぐりて月と日と同じすじを周る時人地上に有て見るときにかく

月蝕之圖



月ハもとより光なし日の光をうけて明なるなり日月所を隔して相向ふ地ハ月にかさなりて日の光地にさへぎられ光らず月蝕するなりすべて十五日十六日比の三五の外に月蝕なし

尊公様御安[illegible]早速
[illegible]御馳走多く[illegible]
度々[illegible]
[illegible]尋申家来[illegible]
[illegible]

御披露[illegible]御座候ニ付
其[illegible]添書[illegible]
御[illegible]申上不苦[illegible]
[illegible]拝[illegible]仕候[illegible]
[illegible]

〇日用字盡

〇天象之部

雲　霧　霞

煙　雨　風

雪　霜　露

霰　雹　虹

暈　雷　電

氷　氷柱　晴天

白日　虚空　中空

日和　快晴　旱天

日輪　太陽　三日月

弦月　満月　同弦

月蝕　星宿　北斗

彗星　南斗　織女

銀河　微星　客星

[illegible]　東風　涼風

炎風　順風　追風

逆風　暴風　山嵐

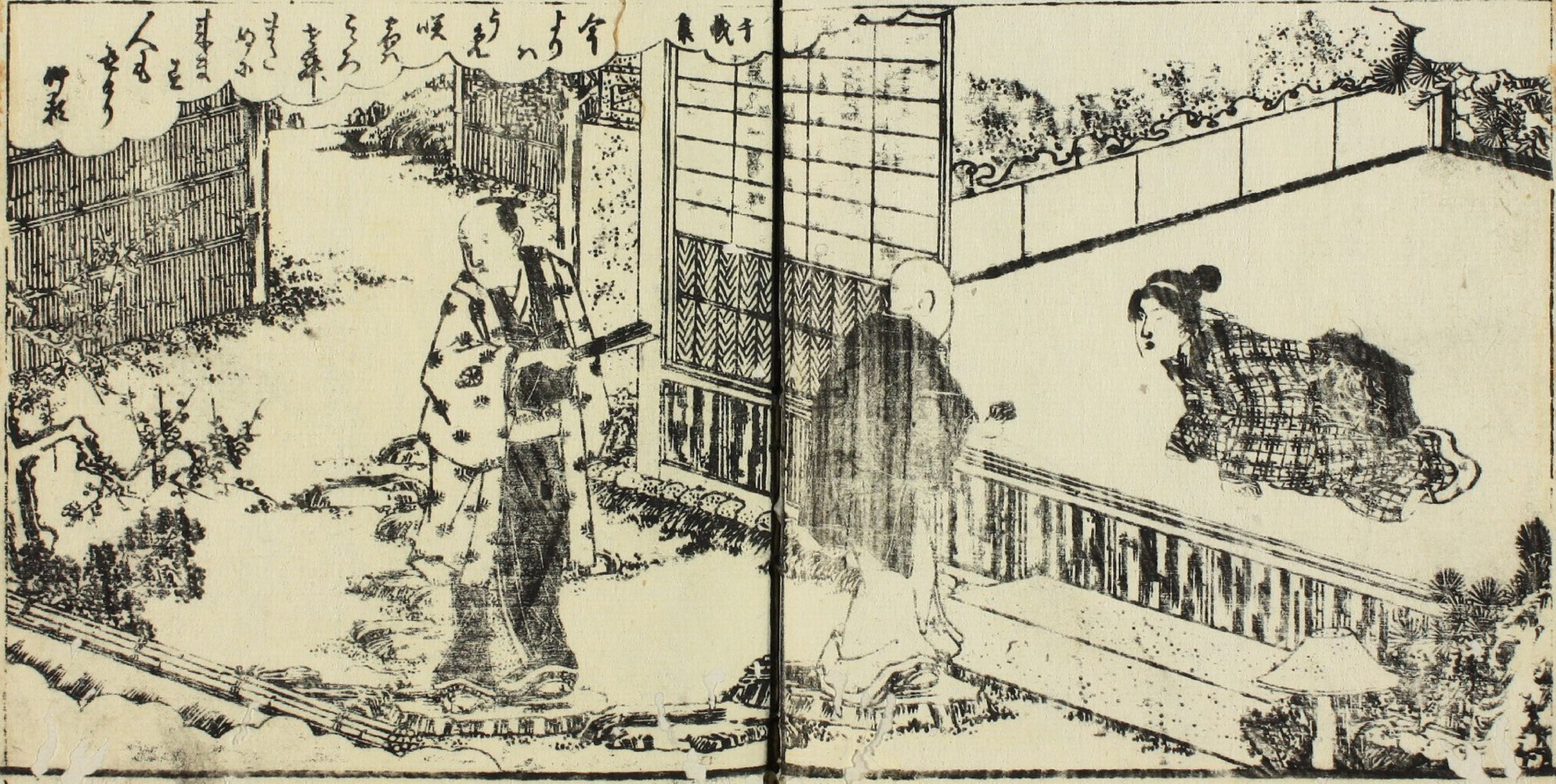
嵐　冷風　激風

清風　激雨　梅雨

白雨　暴雨　霧雨

村雨　時雨　深雪

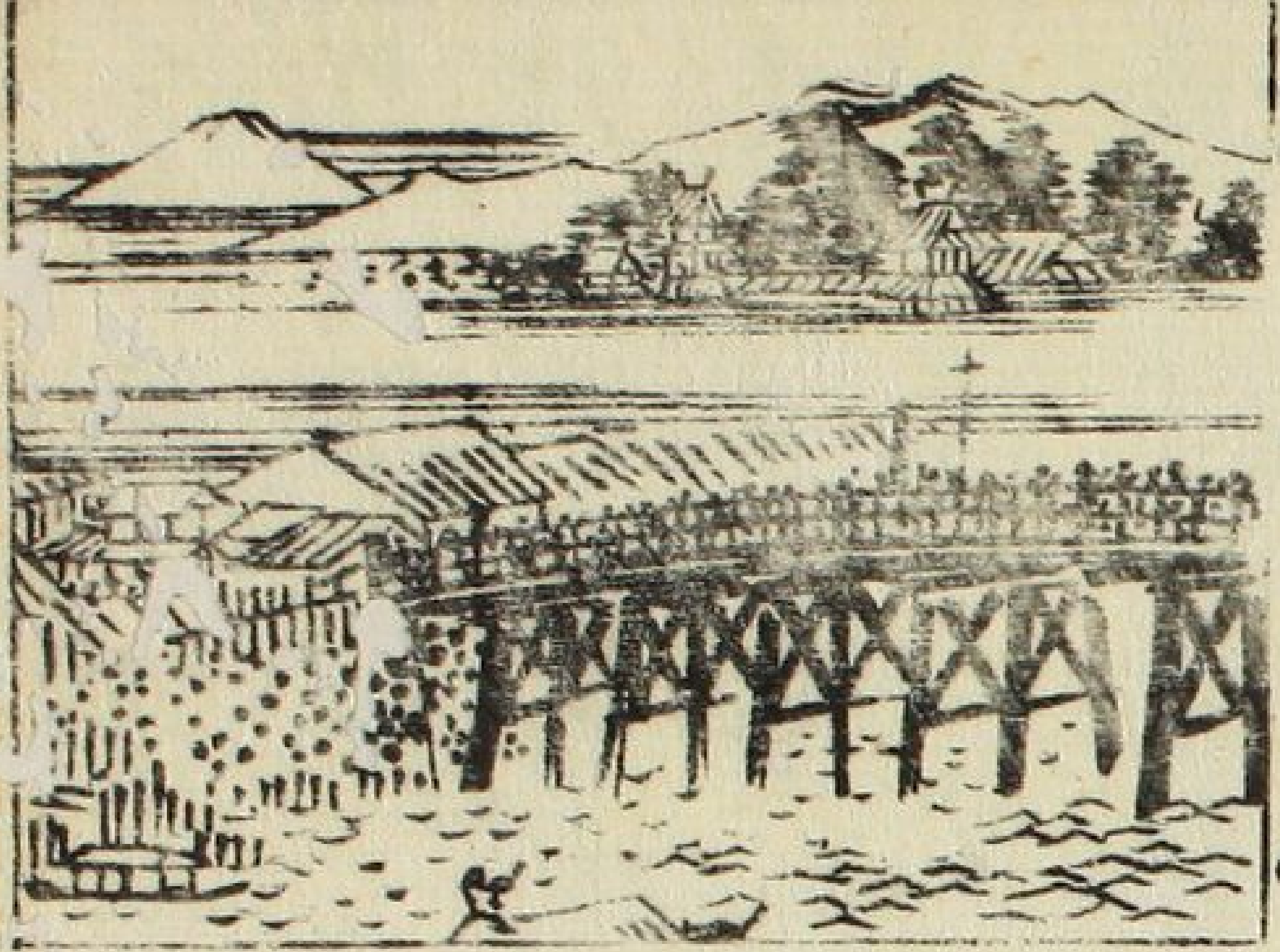
淡雪　霹靂　稲妻


千載集
今よりはうめ咲やとはこゝろせんまたぬにきます人もありけり

遊絲 烏兎 綺星
破鏡 [illegible] [illegible]月
○地儀之部
地球 世界 大地
萬國 日本 唐土
印度 朝鮮 琉球
和蘭 蒙古 呂宋
韃靼 獨逸 南蠻
英吉利 佛蘭西
柬埔寨 魯西亞
亞墨利加（五大洲の[illegible]）
山 峰 嶺
嶽 絶頂 峠
坂 麓 谷
洞 岩 巖
林 岡 杜
森 藪 牧
野 原 町
路 衢 大路
小路 泥路 間道
村墟 河原 河端
河岸 河瀬 河面
海面 海原 [illegible]
泉水 築山 迫門

人之縁者[illegible]
倍御清勝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蒼海　瀬　浦
津　湊　澤
池　湖　灘
磯　鴎　洲
埼　岬　渚
汀　波　潮
汐　沖　渡
泊　家　堤
関　沼　樋
閘　水棚　堰
水上　源　蛇籠
入江　市　辻
橋　岡　島
畔　畷　[illegible]
[illegible]　穴　堀
石　砂　小石
園　濱　棧
[illegible]　[illegible]　土橋



の[illegible]
[illegible]
[illegible]申入置候
[illegible]
[illegible]
[illegible]人
[illegible]
不[illegible]
[illegible]
[illegible]

境　疆　追分
札之辻　節
田舎　在郷　在所
家　宿　里
馬場　海路　陣所
城下　陣屋　古宮
舊都　故郷　地方
[illegible]　地境　地脈
地面　藝　境
[illegible]　芥　泥
吳國　外國　遠方
邊鄙　平地　都會
通路　四辻　立場
[illegible]　難所　[illegible]
切所　郭　巷

○時令之部

上古　末代　古今
時節　時候　時代
當世　近代　歳旦
歳暮　年号　四季
春　夏　秋
冬　土用　寒
八専　間日　社日
庚申　彼岸　三伏

此度[illegible]被遣候志ニ
目録拝見[illegible]
御客来之由夫ニ付
御入用之品を被思召
御申越[illegible]
取揃持参差上候
別而引合道楽ニ可
[illegible]御不足之[illegible]
[illegible]無御遠慮可被仰[illegible]
[illegible]折々[illegible]御用[illegible]可[illegible]

夏至　冬至　元三
元旦　元朝　上元
七種　上巳　更衣
端午　七夕　中元
八朔　重陽　玄猪
節分　暁　曙
東雲　明方　朝
朝夕　旦暮　夕暮
夕暮　黄昏　昼夜
宵　十六夜　今宵
日中　昨　一昨
明日　去年　来年
往年　日没　晩鐘
入相　白昼　晩景
日夜　曩昔　除夜
大晦日　大卅日

○殿舎之部

神殿　宮殿　社壇
禿倉　拝殿　楼門
楼閣　玉垣　鳥居
宮柱　廻廊　宮居
堂　[illegible]　伽藍
仏殿　寺院　塔
輪蔵　方丈　浴室

医者之伝手好快以二書中一申上候老父年此間不快引籠居候処平生之持病之[illegible]出二座一一向不安心困入存候付貴様御昵懇之良医[illegible]御差越診察相願[illegible]此頃[illegible]中[illegible]申度事[illegible]

庫裏 鍵掛 文庫
内陣 下陣 舊倉
經藏 寶藏 寶庫
寶殿 書院 座敷
廊下 居宅 居間
臺所 部屋 土藏
玄關 借屋 貸屋
納戸 戸棚 押入
物置 納屋 小屋
母屋 園 茶室
書齋 草亭 棧敷
欄干 格子 櫺子
搏風 螻羽 階
梁 桁 枓
椽 梠 柱
礎 庇 窓
戸 障子 縁
門 扉 棟
檐 壁 垣
庵 閾 鴨居
長押 板床 簀子
塀 蔀 爐
竈 樋 床
扁 貫 天井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先刻者長老[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]御座所次之間

[illegible]

[illegible]

廣敷 [illegible] 書院
館 居宅 隠宅
本家 別家 分家
茅屋 二階 板廚
折戸 渡殿 玄関
表屋 表門 惣門
四脚門 [illegible]重門

○神仏之部

伊弉諾尊 伊弉冊尊
稲荷 生玉 石清水
八幡宮 春日社
本宮 本社 本殿
梵天 帝釈 観音
勢至 地蔵 釈迦
弥陀 弥勒 普賢
大日 不動 文殊
禅 浄土 法華
律 華厳 法相
天台 真言 一向
時宗 倶舎 大念仏
加茂 松尾 平野
住吉 大社 祇園
宇佐 [illegible] 鶴岡
多賀 [illegible] [illegible]

此度[illegible]
[illegible]文
先祖[illegible]
[illegible]
[illegible]
此[illegible]
[illegible]
不[illegible]
[illegible]
[illegible]

天満宮　白右　御霊
鎮守　[illegible]　荒神
天神　産土　氏神
金剛　夜叉　明王
供養　功徳　後世
菩提　地獄　極楽

○人倫之部

元祖　先祖　男女
君臣　父子　夫婦
兄弟　朋友　親族
親類　縁者　血脈
高祖父　高祖母
曾祖父　曾祖母
祖父　祖母　父母
我身　自身　自
己　子　悴
娘　嫁　孫
曾孫　玄孫　末子

以手習[illegible]仕候
不断[illegible]御座[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

叔父 叔母 伯父
伯母 継父 継母
継子 姉 妹
妻 妾 聟
姑 嫁 姪
兄公 女公 従兄弟
嫡子 養子 女夫
聟 小児 赤子
童子 児女 大人
老人 孺 姥
主君 主従 権者
家来 家子 家業
奴 婢 番頭
手代 丁稚 坊主
唱門 若党 仲間
下部 下女 下男
浪人 宿老 頭取
組頭 年寄 庄屋
後見 同代 名代
付添 聖人 賢人
仙人 智者 愚者
武君 猛者 忠臣
僕人 小人 盲人
吾子 盲人 遊人

聞合候處是迄有増
委細有之候處篤と致所
中々御苦労之心中之趣
申来り候書状願呉候
相違之儀何卒時節内意之
差違間違之事宜
無御腹蔵無御安気ニ被成
下度此分宜敷願
同 返事
華墨披見仕候如来

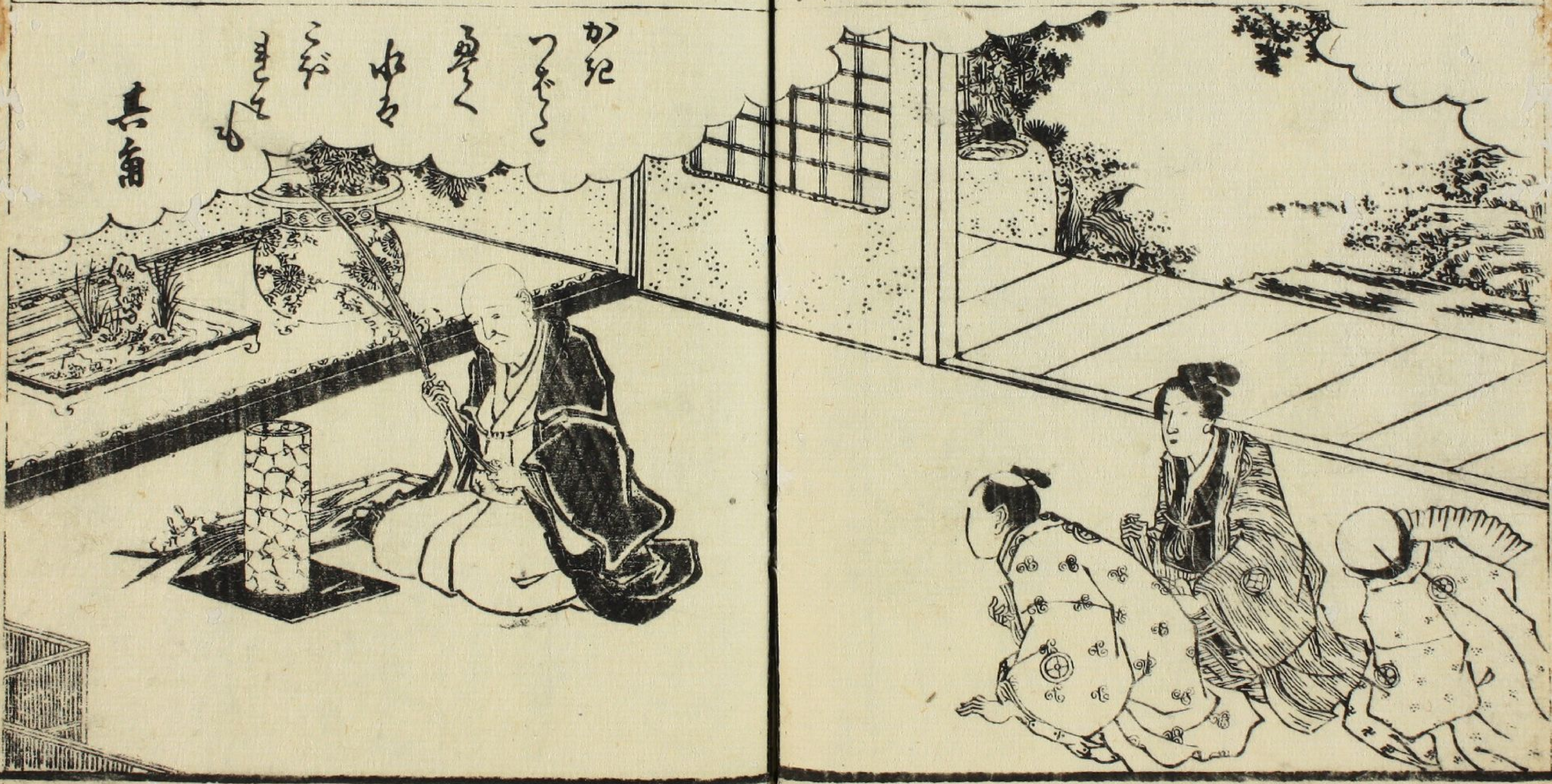
大臣 公方 殿上人
武士 名人 醫者
学者 行人 僧
俗 尼 法師
入道 智識 院主
庵主 坊主 侍者
隠居 孤独 寡婦
友達 長者 貧者
福人 貧人 遊女
傾城 夫婦 腰元
太鼓 妓女 仲居
辻君 惣嫁 太夫
客人 家来 供連
同行 百姓 農人
町人 商人 職人
飛脚 宰領 船頭
水主 梶取 下司
下郎 [illegible] [illegible]
神子 神主 [illegible]
浪人 舟子 漁父
海人 猟師 樵夫
山伏 薦僧 儒者
画工 [illegible] 醫者
仏師 [illegible] [illegible]人

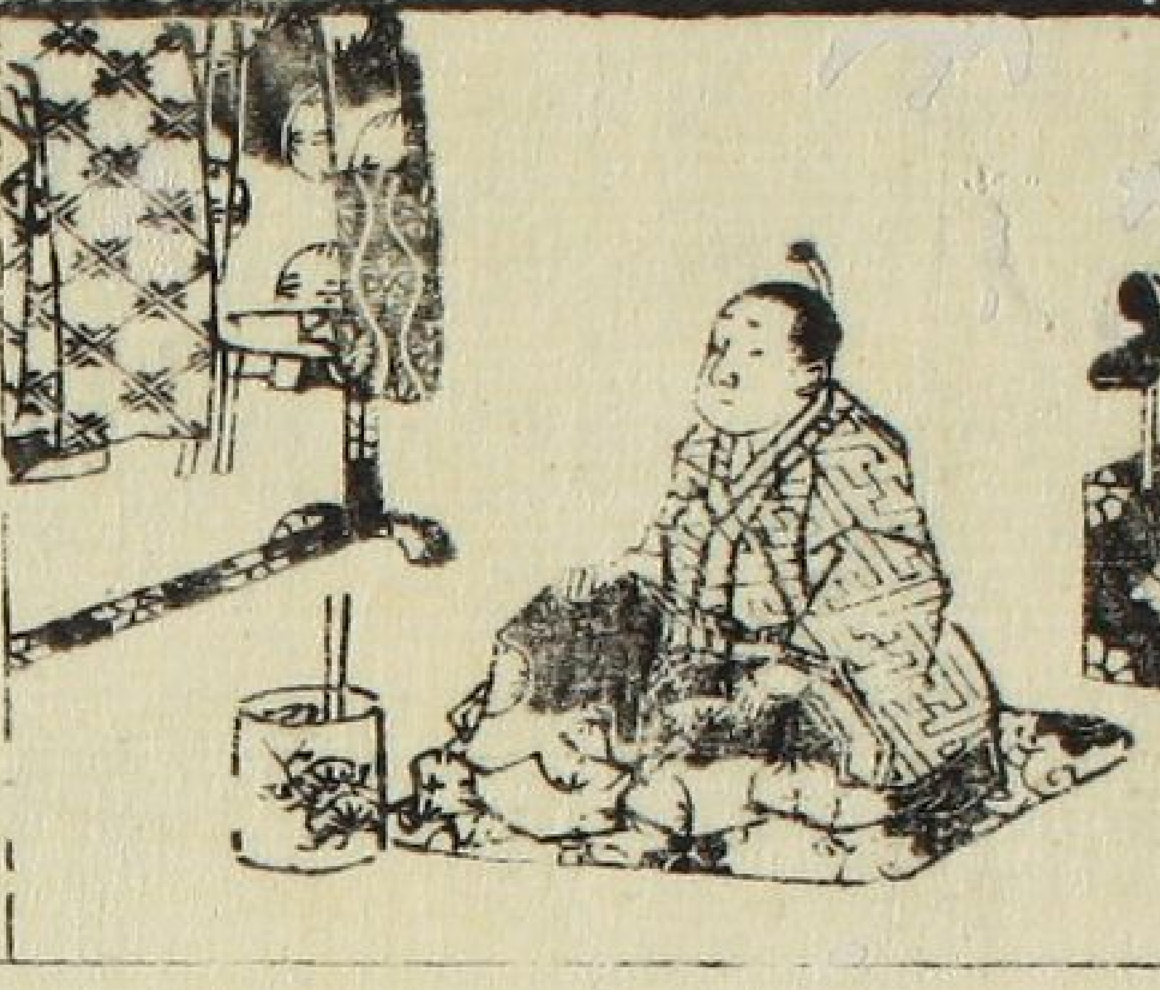
四の時節寒暖不揃ニ候
益御[illegible]
珍重不斜奉存候
然者野拙無事[illegible]
[illegible]
[illegible]
中頃[illegible]
出生[illegible]
[illegible]
其余[illegible]

仲人 通詞 関守
畜人 匹夫 野夫
遁人 羅人 乞食
非人 穢多 河猫
海賊 夜盗 倡婦
掏摸 追剥 盗賊

○武器之部

兜 鎧 鉞
太刀 指添 弓
矢 鉄炮 長刀
鑓 楯 箙
母衣 幕 馬印
軍配 簶 大筒
大簇矢 旗
幟 腹巻 母衣
吹流 首袋 腰當
脛當 頬當 小手
纒 矢筒 結鐙
鞍 鐙 後帯
手縄 轡 鞦
鞭 竹把 箙
根刈 松明 矢文
感状 首帳 兵糧
馬柄 馬杓 埋葬


かれ
つゝて
見へく
ゆき
こぶ
まても
其角



○服飾之部

冠　烏帽子

直垂　直衣　袍

狩衣　素袍　[illegible]

着長　上着　下着

胴服　袴　羽織

奴袴　半被　毛衣

衣　十徳　布子

綿入　袷　單物

帯　帷子　頭巾

足袋　手拭　襦袢

抱帯　被衣　紙子

褌　夜着　[illegible]

汗衫　浴衣　產衣

脚絆　甲掛　手蓋

[illegible]　覆面　裲襠

沓　草履　草鞋

下駄　木履　表

雜器及筆端者御隨意

委細者可申伸候處甚

序而以參上[illegible]

可申述[illegible]

猶[illegible]状

一筆啓上仕候寒冷

之節御座候得共

御一同様益御清栄

被遊御座珍重奉存候

然者兼而先達而入御心

裏　襟　衽
裾　袂　袖
褄　袱　外襟
内襟　合羽　蓑
纐帯　裲襠　公服
落衣　白衣　温袍
上下　肩衣　胴服
襤褸　衾　蒲団
綿衣　被衣　袈裟
浴衣　古着　小袖
普着　衣段　三衣
紗縠　刺貫　白無垢

得意江遅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○絹布之部
綾　錦　羅
縮　綿　紗
縞　絞　繍
紬　絡　麻
布　織　金襴
繻子　緞子　縮緬
綸子　生絹　[illegible]
縮緬　浮織　練緯
[illegible]　撰糸　[illegible]
羽二重　天鵞絨
猩々緋　羅背板

申迄も無之[illegible]
貴賤相叶様御心懸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

圍く織 芭蕉布
西洋布 兜羅巾
光綾子 熨斗目
羅紗 斑機 木綿
更紗 小紋 縞
晒布 裁 綿
真綿 絹糸 紅絹
毛氈 蘭毯 絞染
鹿子 柳條 紙布
精好織 桟留
蜀紅錦 金華布

○支躰之部

眼 耳 鼻
舌 口 歯
頭 顙 頂
額 頰 頷
眉 頤 腮
睫 背 筋
臉 瞳 肩
胸 喉 腹
脊 小腹 眼珠
鼻柱 喉 乳房
拇指 食指 中指
無名指 小指 臂

手前相[illegible]
中途[illegible]
親族[illegible]
諸事可申上[illegible]
人[illegible]

弥御安全[illegible]珍重[illegible]
[illegible]
其[illegible]
[illegible]
御[illegible]

手　足　肘
腕　掌　爪
脣　顎　背
臍　肋　尻
穴　膝　股
踝　脛　踵
蹠　膕　腰
陰茎　陰門　睾丸
毛　髪　鬢
髭鬚　睫　陰毛
肛門　膝蓋　大便
小便　精水　陰水

[illegible]

皮　肉　皺
膜　肌目　膚
脉　膀胱　胞衣
心　肝　腎
肺　脾　臓

[illegible]

胸　腸　臓
胃　潤　脂
血　汗　息
唾　涎　鼻渣
膿　屎　屁

○病疾之部

風邪　傷寒　癆病
時疫　疫癘　痛風
中風　卒中　癲癇
頭痛　頭風　頭脳
鼓脹　脹満　盛冒
痢病　下痢　泄瀉

爰許暗鬱さ申し土蔵
附家屋敷之事[illegible]
相[illegible]成[illegible]
仕其付[illegible]用意
有之候處[illegible]無[illegible]

水浮　淋病　消渇
嘔吐　霍乱　腹痛
怔忡　健忘　労瘵
咳嗽　痃癖　黄疸
水腫　痰飲　疝気
逆上　心痛　食滞
食傷　中暑　冷湿
便毒　疳瘡　腎疲
下血　下疳　疥癬
眩暈　驚風　痘疹
唖　瞽　聾
癭瘤　疝水　盗汗

差支之儀有之[illegible]
親類共ニ何卒銀子
五貫目[illegible]
[illegible]来年は[illegible]
落手之銀[illegible]可仕

自汗 白痢 赤帯
白帯 癜風 刺
瘡 癤 痹
瘧 疹 痛
火傷 乳岩 乳心
舌瘡 疳症 妊娠
帯下 小産 難産
横産 逆産 悪阻
打傷 切傷 金瘡
腫物 疥癬 拘攣
[illegible] 黒痣 癬
[illegible] 疣 癰
疔 吞酸 鮮血
瘰癧 痔疾 脱肛
痔 疝 癇症
癩病 血症 痘瘡
麻疹 丹毒 乳腫
瞼 夜盲 贅疣
[illegible] 労咳 疼痛
雁瘡 [illegible] 瘤
破傷風 楊梅瘡
[illegible] [illegible] 溺死
[illegible] 駝背 [illegible]
[illegible] 外痔 [illegible]

之間薬之所[illegible]
御繰合之儀奉存上候
[illegible]
金子之儀[illegible]
[illegible]
当暮平均之御[illegible]
往来[illegible]
此度[illegible]
惣[illegible]
所[illegible]御繰合

蛀牙（むしば）　瘀血（おけつ）　悪寒（おかん）
人痾　腎虚（じんきよ）　缺脣（いぐち）
瘊子（いぼ）　禿頭（はげあたま）　癨乱（かくらん）

○宝貨之部（ほうくわのぶ）

金（きん）　銀（ぎん）　玉（たま）
璞（あらたま）　朱（しゆ）　瑠璃（るり）
硨磲（しやこ）　瑪瑙（めのう）　琥珀（こはく）
水晶（すいしやう）　珊瑚（さんご）　青貝（あをがひ）
玻璃（はり）　鼈甲（べつかふ）　鉄（くろがね）
鉛（なまり）　銅（あかゞね）　真鍮（しんちう）
水銀（みづかね）　白鑞（しろめ）　錫（すゞ）
赤銅（しやくどう）　緑青（ろくしやう）　白粉（おしろい）
唐銅（からかね）　剛鉄　硝石
雲母（きらゝ）　磁石（じしやく）　温石（をんじやく）
浮石（かるいし）　礬石　丹（に）
焔硝（えんせう）　硫黄（いわう）　真珠（しんじゆ）
沙金（しやきん）　銭（ぜに）　銀札（ぎんさつ）
象牙（ざうげ）　石灰（りうばい）　鏡（かゞみ）

愚老[illegible]無沙汰[illegible]存[illegible]外[illegible]御[illegible]
聞[illegible]候[illegible]以上
又推量[illegible]状
御断書之[illegible]貢[illegible]往
其[illegible]寄[illegible]額中[illegible]哉
且又[illegible]得其石之富[illegible]
[illegible]絹[illegible]住明[illegible]附
金相鍍[illegible]箔之[illegible]
紅白之[illegible]間[illegible]大[illegible]
[illegible]其[illegible]名[illegible]標[illegible]所[illegible]文

○器財之部

筆 墨 硯
紙 文鎮 文臺
色紙 短冊 懐紙
唐紙 巻軸 冊子
書籍 石印 水滴
筆架 硯屏 卓
机 書机 書帙
見臺 文匣 枝折
剃刀 外題 巻物
硯箱 軸 石筆
算盤 厨子 黒柿

其義無之是迄心配
仕何卒近日一應御
動静承り度候
御細工之儀被下候ハゝ頼入
宜奉願上候

笙 篳篥 琴
琵琶 鼓 太鼓
笛 尺八 横笛
三絃 胡弓 羯鼓
碁盤 棊駒 賽
蹴鞠 花瓶 花生
茶入 茶碗 風炉
香合 茶巾 水指
帛 建水 茶杓
炉縁 楊弓 貝桶
風鈴 紙鳶 風車
鍋 釜 桶

同再答

御再書拝見致候
然者御工夫之御心労之旨
御案氣之毒ニ奉存候
申述候通相成不申候

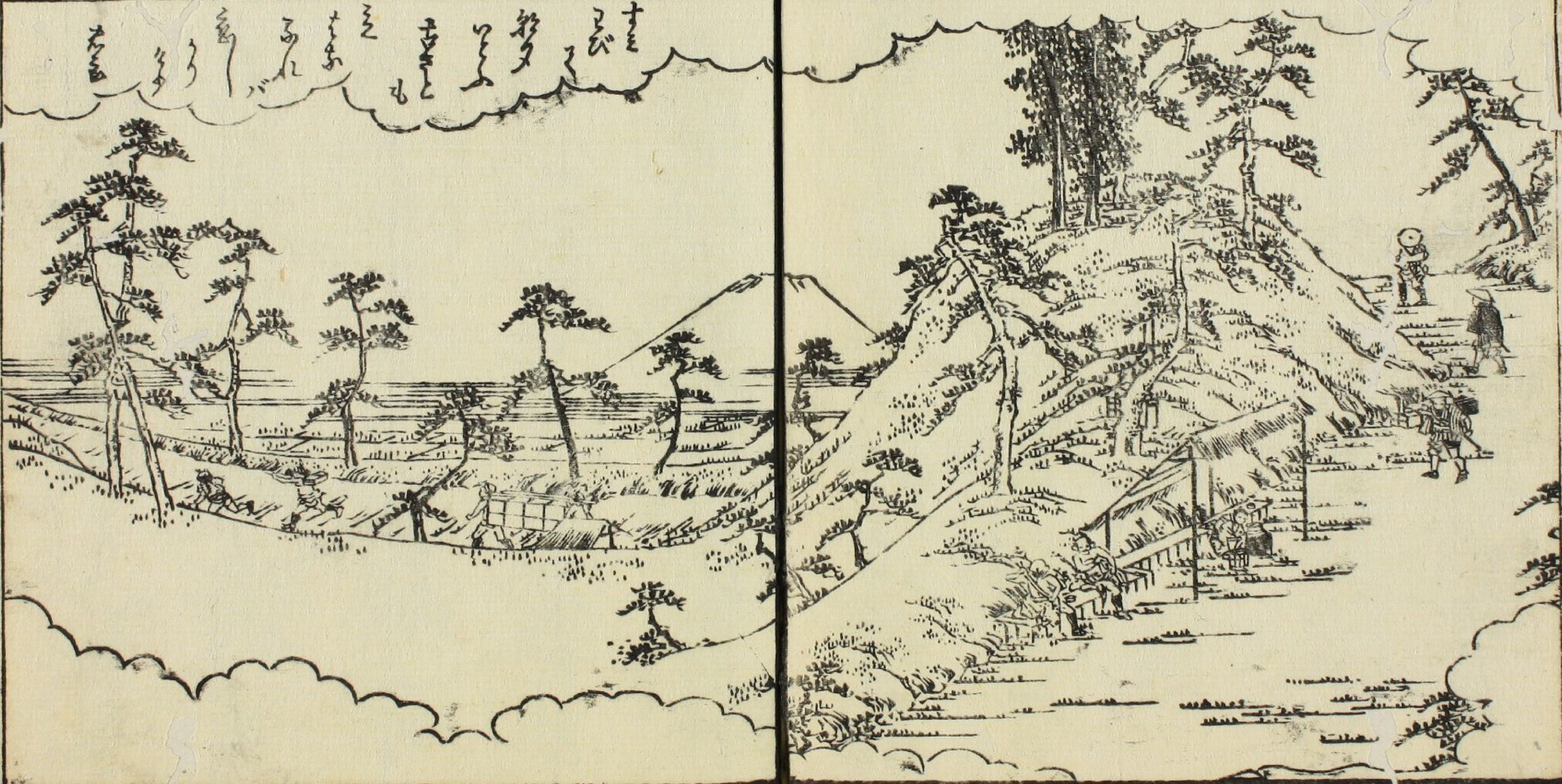
櫓　盥　擂
襖　屏風　衝立
戸　障子　床机
倚子　[illegible]　戸棚
押入　仏壇　簞笥
長持　挟箱　[illegible]
莚　円座　枕
碁　行器　行燈
提灯　脇息　硯
折敷　膳　盃
皿　盆　鉢
食籠　弁当　提重

會[illegible]
無[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

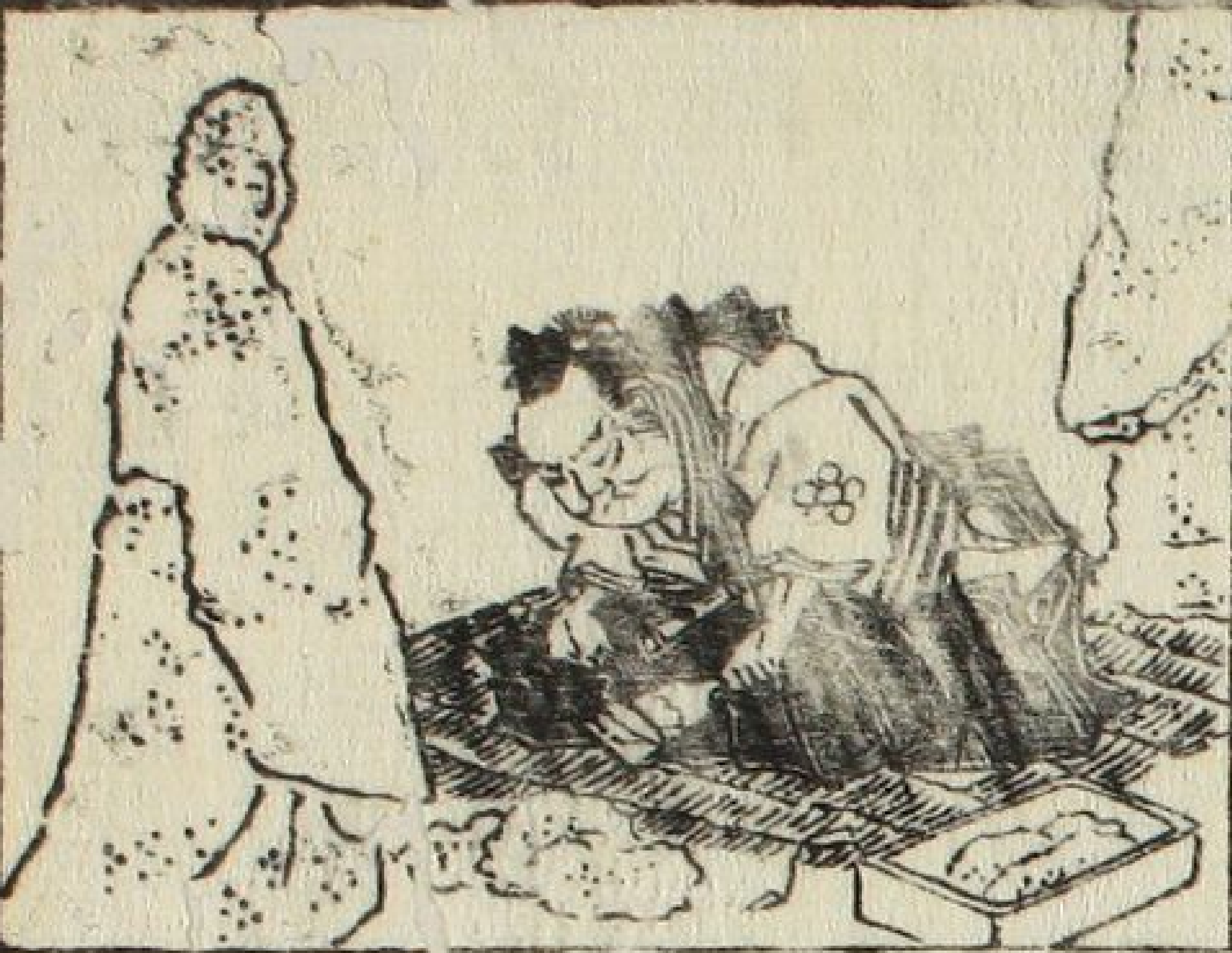
茶碗　茶瓶　飯櫃
銚子　鑵子　箸
楊枝　杓子　香爐
燭臺　釣瓶　薬鑵
鋤　鍬　鑿
鉋　鋸　錐
斧　釿　鑢
[illegible]　[illegible]　[illegible]
縄　網　桶
扇　團　挽鉢
擂盆　擂木　笠
傘　草履　杖

[illegible]
申置度事御座候
[illegible]
一筆致[illegible]
[illegible]

鋏 搭 釣瓶 火卞
印判 水濾 水嚢
篩 天秤 分銅
刷毛 櫛 秤
鑿 眼鏡 暦
帳 算盤 札
錆 鋏 規
矩 剃刀 庖丁
小刀 象盤 菜刀
銚子 瓶子 徳利
去鍫 三方 風爐
羽箒 炭斗 鈴
拂子 如意 鐘
鉦 風鐸 瓜杖
天 墨斗 燈籠
車 輦 輿
轅 轄 舩
帆 綫 碇
笞 楫 櫓
桿 檣 擢
杷 籠 畚
撥 箕 笊
杵 臼 柄
擂 藁 壠


すゞびて
多くよ
吉きとも
ゑ
まかれバ
ふるし
うさ
多
春

時斗 鉢 臼
杵 錫杖 木臾
箕 瓢 薬研
顐 聯 盞
鑓 鏝 鑢
鑽 鍬 鎖
数珠 位牌 棺桶
看板 天蓋 独鈷
十王 煙管 自在
吹筒 間瑞 級羅
蓋瓶 刷匙 放格
窄籠 巾着 去煽
火鉢 火燧 火斗
衣桁 雪洞 串
極 卓木 枡床
檜扇 火桶 猪口
人形 煙管 小筒
楊子 笄 楊枝



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

壺　篦　簀

笈　状箱　自在

日覆　日傘　水車

轆轤　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　吹子　[illegible]

[illegible]　[illegible]　毛席

前挽　[illegible]　[illegible]

乗物　屋形船

○食物之部

米　穀　飯

糯　[illegible]　粥

御[illegible]有之候て無御[illegible]

遠慮[illegible]

別宿ニ御披露可申先ハ

右御報迄[illegible]如此御座候

[illegible]

粟　黍　稗

豆　小豆　豇豆

麦　緑豆　豌豆

蚕豆　刀豆　莢豆

蜀黍　罌粟　胡麻

蕎麦　[illegible]　牛蒡

[illegible]　[illegible]　胡蔔

[illegible]　[illegible]　松茸

椎茸　[illegible]　[illegible]

[illegible]　松露　[illegible]

木耳　心太　[illegible]

[illegible]　昆布　茄子

此間者参上[illegible]仕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海苔　苔菜　紫菜
蒟蒻　生姜　芥子
南瓜　和布　胡瓜
越瓜　冬瓜　独活
蘘荷　山葵　薯蕷
芹　苣　蕪
莧　蕗　藜
蕨　葱　韮
蒜　胡葱　芽魁
酒　塩　酢
茶　粽　麹
飴　糟　[illegible]

[illegible]　餡　糒
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　膾　汁
醤　肴　素麪
温飩　[illegible]　羊羹
饅頭　煎餅　砂糖
外郎　[illegible]　焼酎
味噌　醤油　納豆
[illegible]　漬物　梨
李　栗　柿
桃　[illegible]　乳柑
金柑　蜜柑　銀杏

[illegible]
[illegible]
[illegible]
無沙汰別段御暇乞参上[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
餞別贈候
[illegible]
[illegible]

林檎　榠樝　[illegible]
榛　山椒　胡椒
柘榴　枇杷　菱
莓　楊梅　胡頹
胡桃　榲桲　木瓜
烏芋　甜瓜　西瓜
狗脊　鹿角菜

○樹木之部

松　椙（杉）　柳（楊）
檜　柏　槙（柀）
樫　櫟　楮（穀）
栢　椰　桐
棗　樗　橡
欅　椋　楓
梅　櫻　椿
榎　楸　柊
橳　槻　柘
梓　槐　椶
栂　楠　楝
楤　樫　槿
樒　石南　合歓
五加　枸杞　躑躅
花櫚　楊櫨　[illegible]圓
海棠　辛夷　木蘭

[illegible]

厚朴　扁柏　栴檀
伽羅　黒檀　紫檀
蘇鉄　[illegible]　木樨
樒　賢木　榊
椹　南燭　[illegible]
埋木　蜀漆　女貞
寄木　接骨木　木槵
沈丁花　扶桑木
鉄刀木　茶山花

○草花之部

蘭　菊　萩
荻　葛　薄尾花

葵　蓮　藤
百合　巻丹　山丹
[illegible]　[illegible]　射干
牡丹　芍薬　芙蓉

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

入用[illegible]
[illegible]
猶[illegible]
一筆啓上仕候時分柄
寒気相増候処益[illegible]

鶏頭 秋葵 萱草
仙翁 杜若 馬藺
薔薇 錦葵 桔梗
款冬 石斛 菖蒲
木賊 紫菀 防風
荼蘼 紅花 鼠麹
馬蘭 杜衡 鴨跖
玉簪 水仙 瞿麦
凌霄 石竹 燕子
槿花 石菖 芭蕉
烏頭 繁縷 蓼
苦參 蒲 芦
蓬 菅 萍
萱 菰 茅
茜 薊 苔
菫 藻 藺
車前 玉柏 石帆
蒲公英 鳳仙花

○禽獣之部
鶴 雁 鸛
鷺 鸛 鶚
隼 鵜 鷲
鷸 鷸 鶉
鶩 鴨 鴻

御幟旗軍翼整進候
二来屯慶賀之事
同勢共經營到着
迄未聞候何年號
前年勤不來相叶
縁名當新茂揆候
河陶面下々備藍染
治々和勤尤實之
驗有候様存候占と
延引候事候旨記

鷺　烏　鳶
鶉　鵯　鶯
鸜　雀　鴫
鷲　鶲　鶇
鴾　燕　鶉
鷽　鳩　鵐
鶲　雉　鷂
鷦　梟　鶍
山鶏　鶻鳩　蝙蝠
鵁鶄　啄木　角鴟
鶺鴒　鸊鷉　山雀
鸛　椋鳥　菊戴
水鶏　千鳥　[illegible]
[illegible]　[illegible]　杜鵑
[illegible]　蠟嘴　[illegible]
鸚鵡　[illegible]　山鵲
練鵲　啄木　[illegible]
雲雀　鶺鴒　[illegible]
[illegible]　兄鷂　丹頂
[illegible]　白鶴　錦鶏
鳳凰　孔雀　[illegible]
[illegible]　白鷺　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　雄　雌

寔以御請心之
仕合ニ御座候間不斜悦入
御禮[illegible]候ニ付
[illegible]御合力[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]可被[illegible]

呼子鳥　稲負鳥
百千鳥　繍眼児
吐綬鶏　四十雀
護田鳥　鶺鴒
白頭翁　尾長鳥
反毛鶏　比翼鳥
頻伽鳥　秦吉了
象　虎　熊
犀　豹　貘
狼　牛　馬
猿　羊　貉
狐　狸　犬
豺　狒　獺
豚　麋　麞
麝　麑　兎
鼠　猫　貂
鼯　鼬　狆
獼猴　栗鼠
水狗　猩々　狒々
田鼠　蝙蝠
獒犬　麝香　驢馬
雷猫　貔貅　駱駝
野猪　豬子　豪猪
赤熊　河童　麒麟

[illegible]
[illegible]
御面談之節可申上候
同返事
先頃[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一何分[illegible]

○魚鱗之部

鱓　鯒　鯧

鮫　鮗　鯰

鮎　鯉　鱸

鮒　[illegible]　[illegible]

鮭　鱚　鰤

鰻　[illegible]　鰷

鯖　鯎　鯆

鯨　鯡　鯔

鰯　鰽　鱵

鱒　[illegible]　鮒

魳　鮡　鰿

鯛　鰻　鯊

鰕　鱧　鱝

鮰　[illegible]　[illegible]

鱎　鯑　鱲子

海月　海鼠　[illegible]

章魚　鮹　金[illegible]

行衛宜敷候

親類共も今度御同伴の

中折節御目に仕度儀

要用候、右之趣如此仕

萬事宜頼申

上略無間違御心得

可下知右之段篤と

同返答の

今日者御指支無御座候ハヽ

御所御参可申承知

鰧　鱛　馬鮫

青花魚　鰹　河豚

鯒　鮟鱇　金海鼠

天魚　鯛　牧魚

海鷂魚　鮸　鱵

文鰩魚　鱲　鯔

白魚　鰤　金魚

金線魚　方頭魚

○蟲介之部

蝶　蝴蝶　蛇

蜂　蠢　蟬

蚤　虱　蛛

蛆　蘭　蚊

蚋　蟻　螻

虻　蛆　蠼

螫　蛭　蛞

金鐘　螽　金亀

飛蟻　螗蜋　蜻蛉

斑猫　赤卒　螽斯

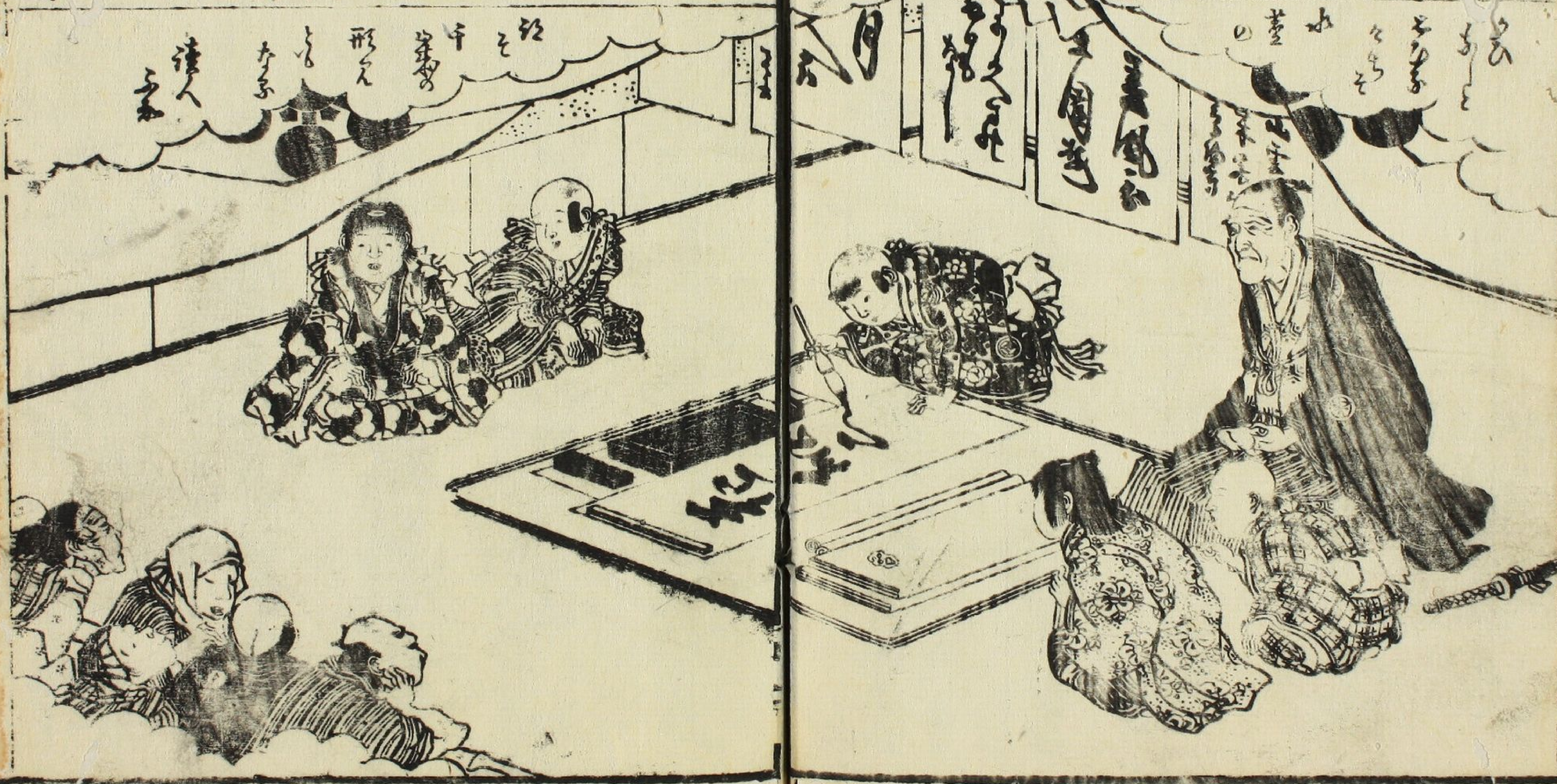
蟋蟀　莎鶏　蓑蟲

蝸牛　蠖　水黽

蜘蛛　蚰蜒　蛄

蚯蚓　百足　蜈蚣

蝦蟇　蝌蚪　風



蠐螬（すくもむし）　蚇蠖（しやくとり）　螻蛄（けら）
滑蟲　蜉蝣（ひをむし）　守宮（いもり）
壁虎（やもり）　[illegible]　芥虫
蝮（まむし）　蚕　[illegible]
壁蝨　豉蟲（まひまひ）　水馬
蛞蝓（なめくぢり）　芋蠋（いもむし）　孑孑（ぼうふり）
螢　衣魚（しみ）　蝗
蠶　蛣蜣　[illegible]
水蠆　[illegible]　河鹿
蟋蟀　螳螂　馬蛭
叩頭虫　寄居虫（やどかり）
[illegible]　[illegible]
蛻（ぬけがら）　[illegible]　[illegible]
龜（かめ）　鼈（すつぽん）　毛龜
蟹（かに）　蛤（はまぐり）　蜆（しゞみ）
螳（まて）　鰒（あはび）　蝸
鮑（あはび）　田螺　[illegible]
東海夫人　[illegible]　[illegible]
海鏡　海扇　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　貝殻
櫻貝　花貝　[illegible]
梅花貝　文蛤

用字盡畢（ようじつくしをはり）

仕候得者生立之先々楽
此度之御手直ニ宜敷趣心
不存違富自御法書
御勤之御座候
代筆頼状

出入仕御屋敷
時候伺状差上度処
例之悪筆ニ而失礼
其許存寄之通
御文面之趣宜御添削

筭學塵劫記

大數（大數を數て甚[illegible]よりて遠[illegible]を除く）

一（大數の初）　十　百

千　萬　十萬

百萬　千萬　億（萬々を云）

千億　萬億　十萬億

百萬億　千萬億　兆（萬々億く）

京（萬々兆く）　垓（萬々京く）　秭（萬々垓く）

小數　分（十厘）　厘（十毛）

毫（十糸）　絲（十忽）　忽（十微）

微（十纖）　纖（十沙）　沙（十塵）

塵（十埃）　埃（十渺）　渺（[illegible]）

度數　丈（十尺）　尺（十寸）

寸（十分）　分（十厘）　厘（十毛）

毫（十糸）　絲（十忽）　忽（十[illegible]）

匹（[illegible]）　端（半匹といふ）

量數　石（十斗）　斗（十升）

升（十合）　合（十勺）　勺（十抄）

抄（十撮）　撮（十圭）　圭（十粟）

粟（一粒の粟）　斛（十斗一石）　釜（六斗四升）

庾（十六斗）　秉（十六斛）

田數　町（十段）　段（十畝）

畝（古三百六十歩　今三百歩）　歩（方六尺　今六尺五寸）

菊[illegible]御[illegible]悦上候

同返事

[illegible]

[illegible]御座候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相應[illegible]存候は何[illegible]成共

無[illegible]

[illegible]

○九々の声（こゑ）

一一 一	一四 四	一七 七	二二 四	二五 十	二八 十六	三四 十二	三七 廿一	四四 十六	四七 廿八	五五 廿五	五八 四十	六七 四十二	七七 四十九	八八 六十四
一二 二	一五 五	一八 八	二三 六	二六 十二	二九 十八	三五 十五	三八 廿四	四五 廿	四八 卅二	五六 卅	五九 四十五	六八 四十八	七八 五十六	八九 七十二
一三 三	一六 六	一九 九	二四 八	二七 十四	三三 九	三六 十八	三九 廿七	四六 廿四	四九 卅六	五七 卅五	六六 卅六	六九 五十四	七九 六十三	九九 八十一

○八算（はつさん）のわり声（こゑ）

二の割	四進二十	三の割	三進一十	四の割	四三七十二	五の割	五三加三	六の割	六三天作五	六進一十	七の割	七三四十二	七六八十四	八の割
二一天作五	六進三十	三一三十一	六進二十	四一二十二	四進一十	五一加一	五四加四	六一下加四	六四六十四		七一下加三	七四五十五	七進一十	八一下加二
二進一十	八進四十	三二六十二	九進三十	四二天作五	八進二十	五二加二	五進一十	六二三十二	六五八十二		七二下加六	七五七十一		八二下加四

此度（このたび）[illegible]より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元来（ぐわんらい）信仰（しんかう）ニ付（つき）[illegible]

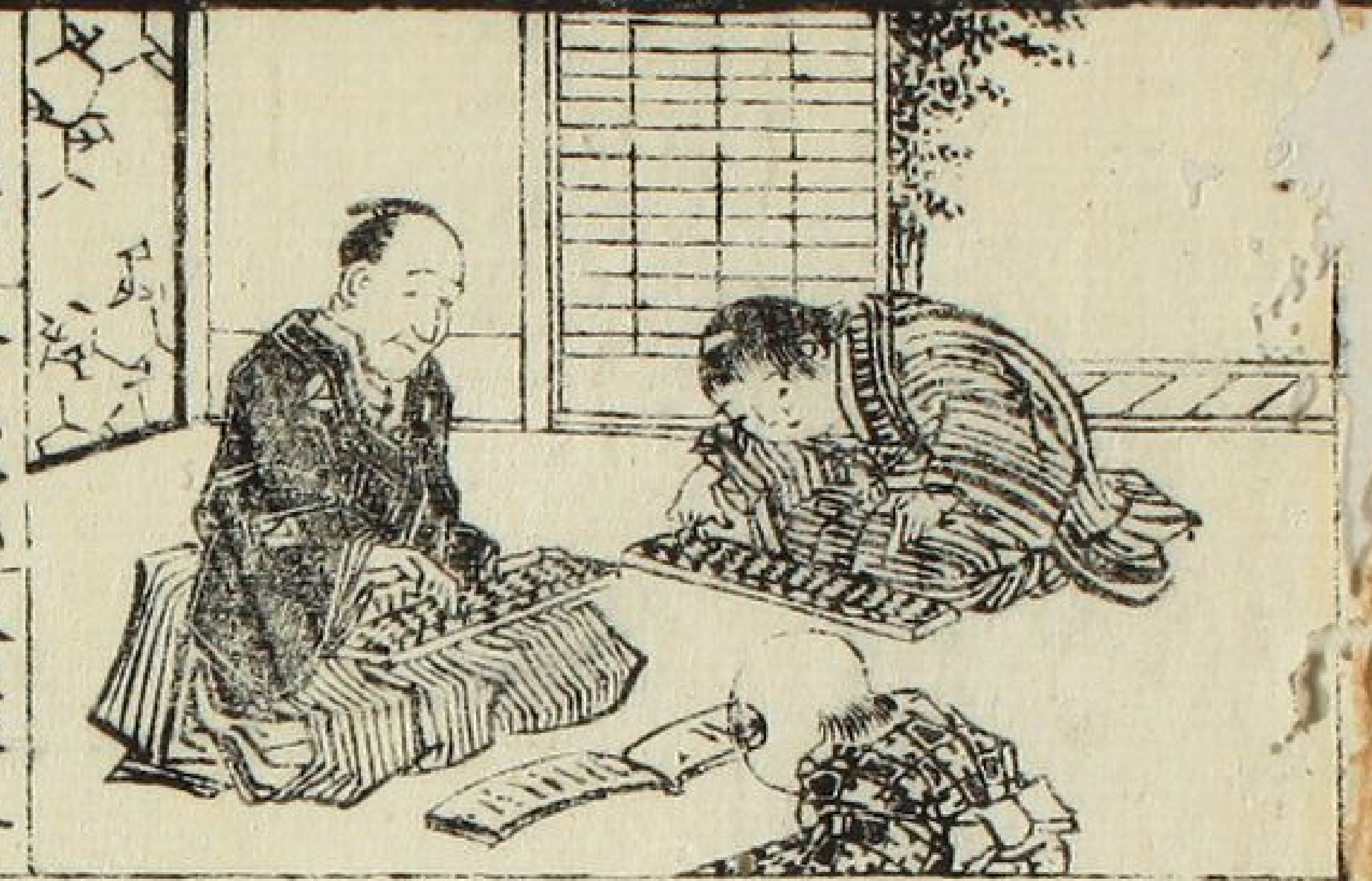
相願（あひねがひ）[illegible]帳面（ちやうめん）相渡（あひはたし）

[illegible]

[illegible]

回国（ゑかうく）[illegible]の

神殿（しんでん）[illegible]之（の）事（こと）



○八算図解

八三下加六　八四如五　八五六十二

八六七十四　八七八十六　八進一十

九の割

九一下加一　九二下加二

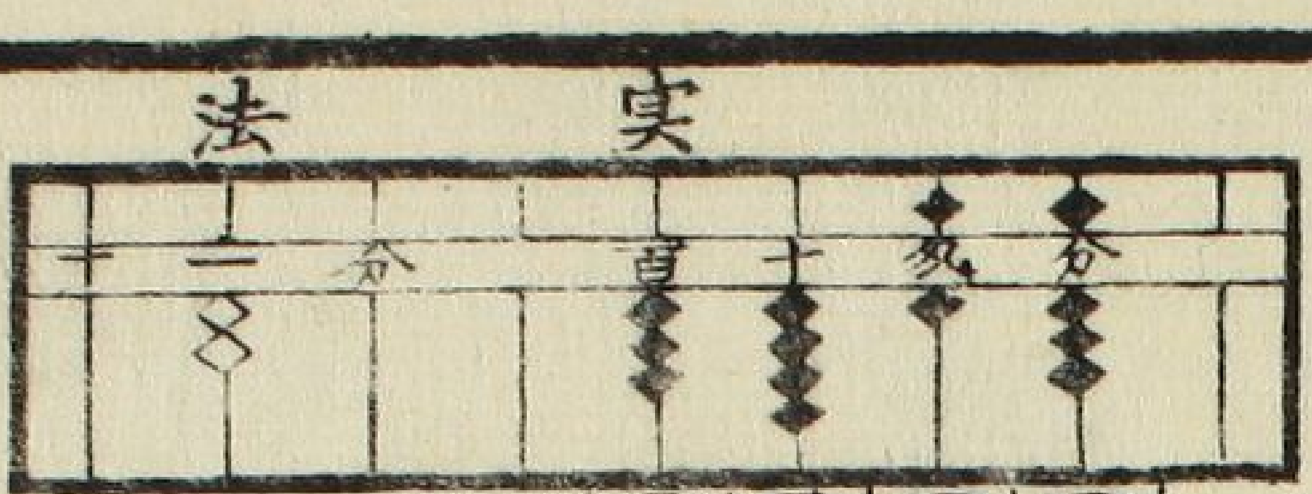
九三下加三　九四下加四　九五下加五

九六下加六　九七下加七　九八下加八

九進一十

二のざん

三百四拾六匁八分を二ツわり百七十三匁四分ツゝ



㋭八進四十

㋥六進三十

㋩四進二十

㋑二進一十　㋺二一天作五

㋑此三ツの内二をさりて上へ一加ふる

㋺のこる一ツを[illegible]

㋩此四をさりて上の桁へ二くはふる㋥此六をさりて上の桁へ三くはふるなり

㋭此八をさりて上へ四くはふる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

申迄茂無之人之勤也

抽丹精集[illegible]

神事人招状

来何日例年之通[illegible]

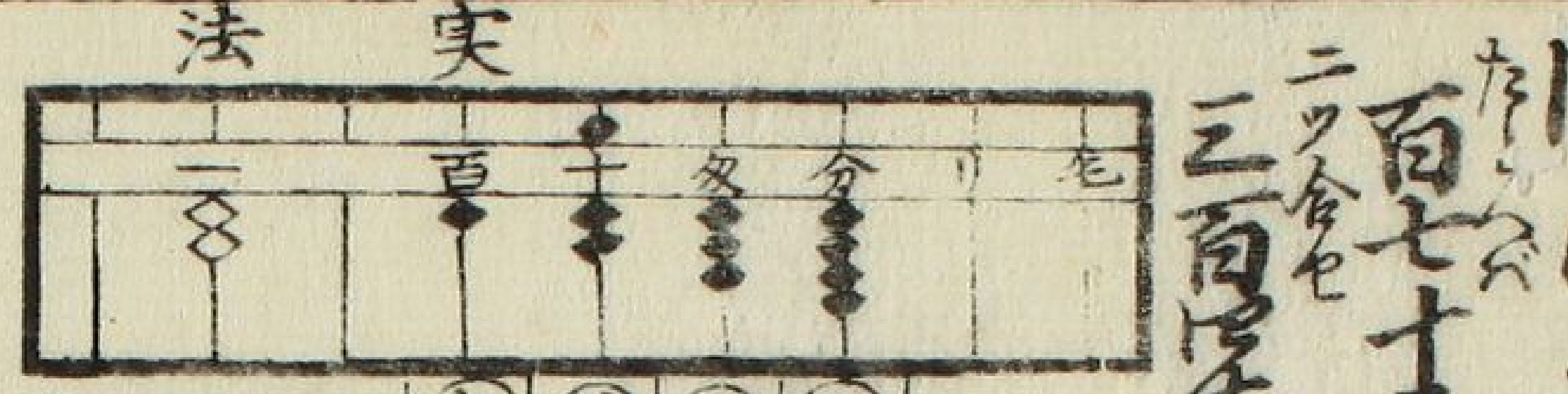
神事[illegible]

[illegible]

[illegible]御客人

にかけざん

たとへば百七十三匁四分を二ツ合せ三百四十六匁八分



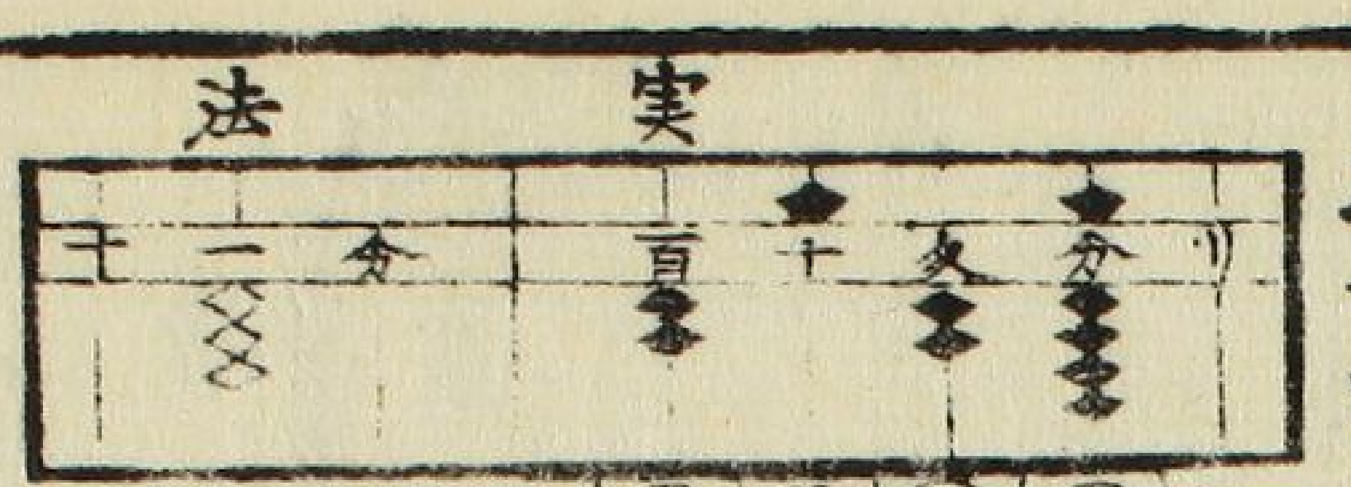
くはへるじゆ

㋑	二四八
㋺	二三六
㋩	二七十四
㋥	一二二

㋑此匁の四を去りて下の桁へ八をくはへるなり㋺此三を去りて下の桁へ六くはへる㋩此七を一ツおきて下へ四くはへる㋥此一を去りて下へ二くはへるべし

三乃だん

たとへば二百八十五匁九分を三ツかけ八百五十七匁七分と成



㋩	九進二十七
㋥	三進一十
㋺	三進㋩三一二十一
㋑	三二六十二

こりくじゆ

㋑此二を去りて下へ二くはへるなり㋺此ち六より上のさへ二桁を一ツを三つくりて二を桁へ㋥此三を去りて下へ一くはへ㋭の九を去りて上へ桁へ

不図以幸之折柄

御馴染に相成落着

御同伴之衆中ニは無用之

急病危篤如此

以急札得貴意候

御父様御元へ昨日

腹痛之由御座候故例之

御持病ニ付御越候処

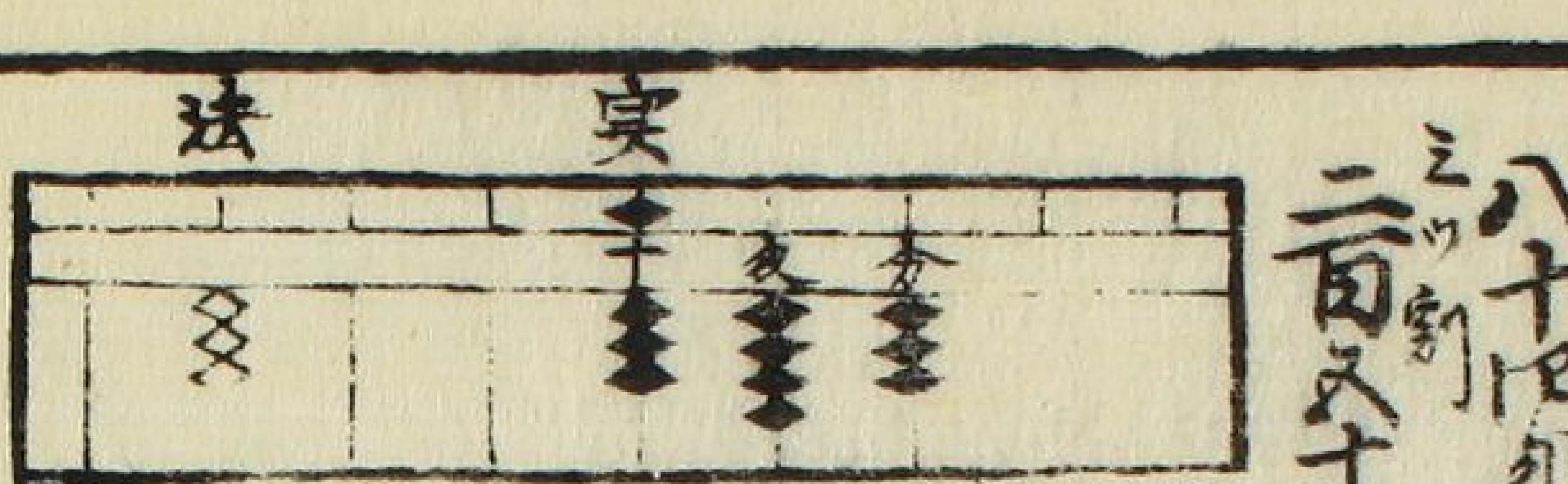
調剤料大急ニ而候処

偏ニ宜敷御取成

はくけざん

さとんべそれの八十四匁三分をば（三ツ割）

二百五十六文九分とある



㋑ 二三九

㋺ 三匹十二

㋩ 三八十匹

（[illegible]）

㋑ 此三を表で下の桁へ九くなるとし

㋺ 此匹を十ありて下の[illegible]へ二くなるなり

㋩ 此八を二ありて下の[illegible]へ匹くなるとし

医師者相知行分

老耄之至[illegible]

[illegible]

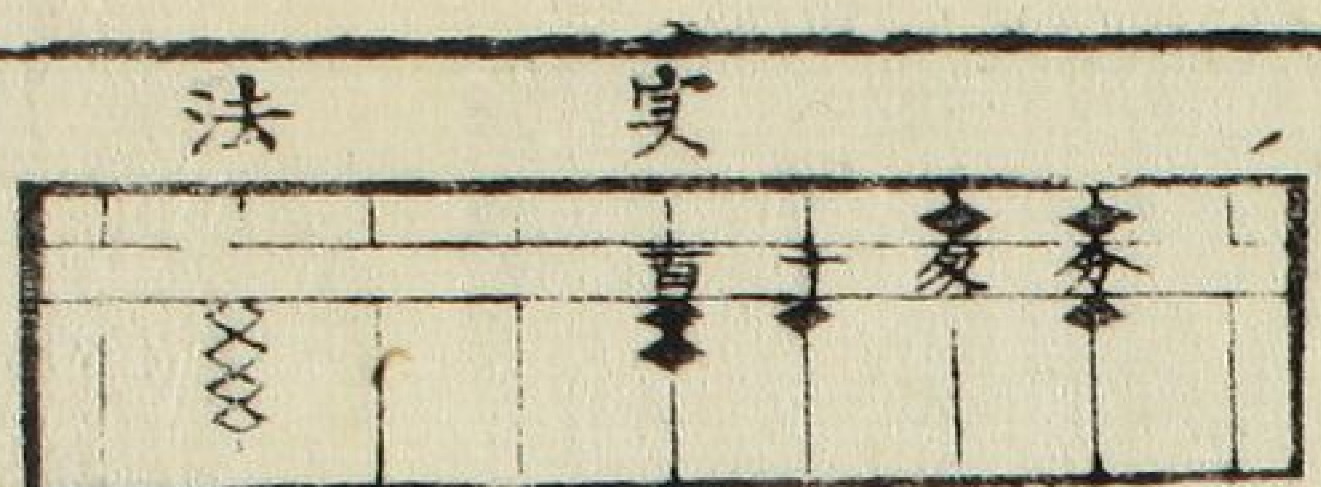
[illegible]

[illegible]

四のだん

二百十五貫六分を（たとへば）

五十六貫七分をもる（匹つわり）



㋭ 八進二十

㋩ 匹進一十 ㋥ 匹之十二

㋺ 匹一二十二

㋑ 匹三天作五

（[illegible]）

㋑ 此二を表とつくるなり

㋺ 此そこの一を二ありて下へ二進

㋩ 此内匹をとりて上の[illegible]へ一くる

㋥ のる三を七ありて上へ二

㋭ 此八をとりて上へ二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

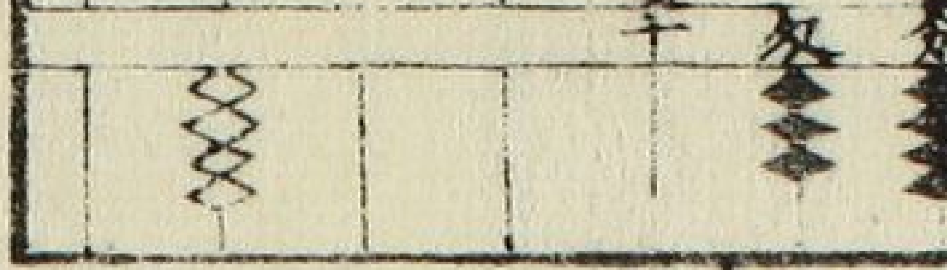
[illegible]

[illegible]

は かけざん

たとへば米の五十三石九斗を

四ツあわせ二百十五石六斗なる



かけさんめ	（い）四九三十六	（ろ）三四十二	（は）四五二十

（い）はじめの九を三十六つくりかへ六ならべ

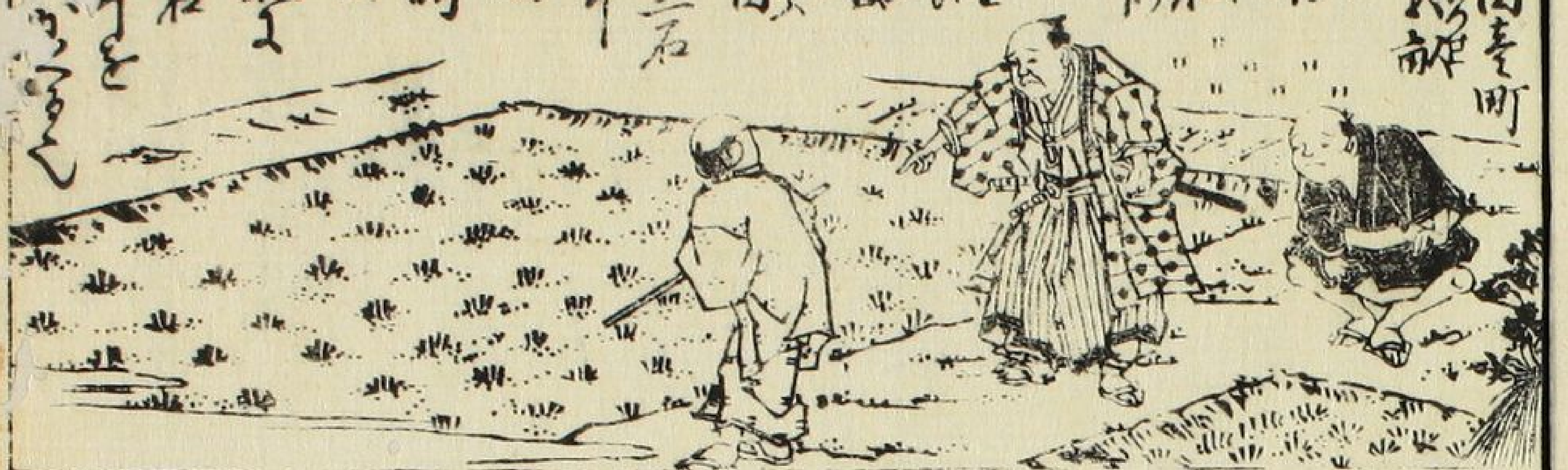
（ろ）はじめ三を一斗[illegible]下の[illegible]二をくはゆるなり

（は）はじめを去りて二十[illegible]

○田壱町二反取り米[illegible]壱石八斗五升代にして[illegible]米を問

答曰　二十二石五斗

答曰　壱町二反五畝よ壱石八斗を[illegible]



死去之[illegible]付[illegible]

葬式相[illegible]候由依此[illegible]

御案内申入候[illegible]

御弔[illegible]

一[illegible]

御賢父様御常法

病気之処御養生不

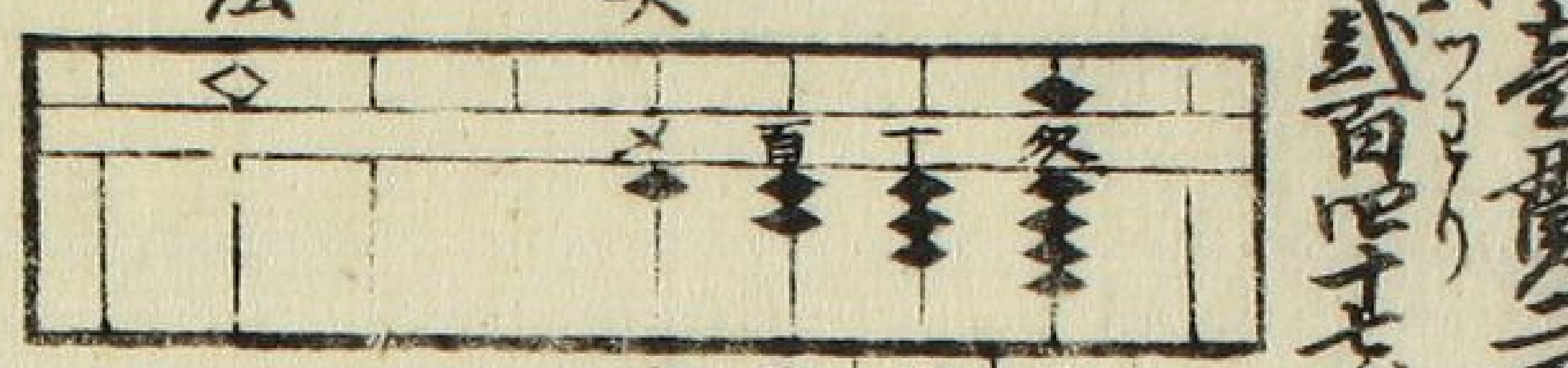
叶[illegible]昨日御死去

之由驚入[illegible]

[illegible]察入[illegible]御[illegible]

又のだん

たとへば壱貫二百三十五匁を（ひとつより）弐百四十六匁八分五り二まで



（に）五十進（ほ）加八四

（は）又三加三

（ろ）又二加二

（い）又一加一

（い）此一ふまさ（一を加へて二）

（ろ）此二ふ又

二をくりて四にするとき

（は）此三ふ又三を加へて六にするなり

（に）此四を加て

（ほ）終りの四に又四加へて八にする

金子千疋差出候間
（きんす せんびき さしいだし そうろうのあいだ）

御霊前御備可被下候
（ごれいぜん おんそなへ くださるべく そうろう）

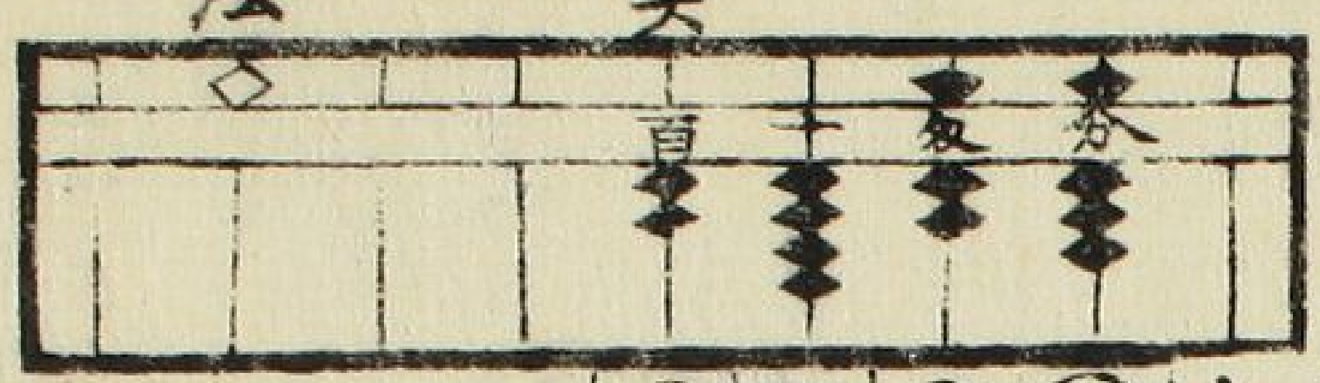
先者右御悔申述度早々
（まづは みぎ おんくやみ まうしのべたく さうさう）

如斯御座候恐惶謹言
（かくのごとくにござそうろう きようくわうきんげん）

忌明禮状
（きめい れいじやう）

ほかけざん

たとへば右の二百四十六匁八分五りを（ひとつより）壱貫二百三十九匁八分



（い）又八四十

（ろ）又七三十五

（は）四又二十

（に）二又十

（い）此八を四ふするなり

（ろ）此七をとおしてあまりをへ又くるなり

（ほ）此四を二十ふするとき

（に）此二を十ふするとき

先達而不幸之節者
（せんだつて ふかうの せつは）

御悔預御弔書殊更
（おんくやみ あづかり ごてうしよ ことさら）

御香儀迄被下忝
（おんかうぎ まで くだされ かたじけなき）

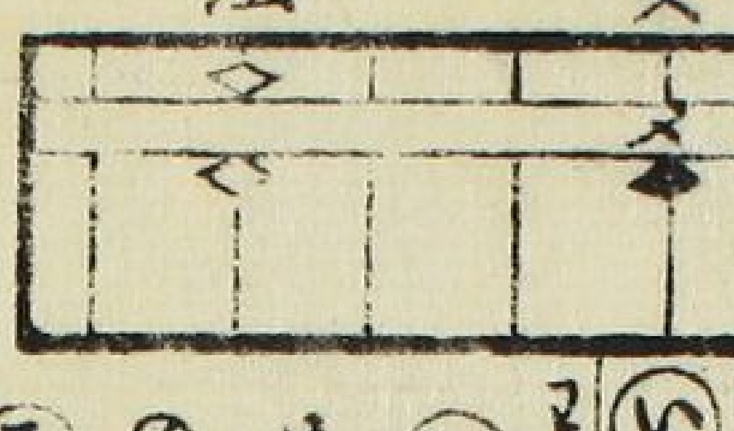
仕合奉存候此度忌明
（しあはせに ぞんじたてまつり そうろう このたび きめい）

付御礼参上可仕候
（つきまして おんれいは まゐり ながら）

六のだん

壱貫八百四十壱文壱分を

六ツにわり 三百六文八分五厘と成



(へ)六三天作五	(ほ)六五八十二	(に)六四六十四	(ろ)逢(は)進一十	(い)六一下加四

(い)次一を[illegible] [illegible]

(ろ)次八の[illegible]

六表[illegible] 二八一加[illegible]

(は)[illegible]二を[illegible]

(に)次四を[illegible]

(ほ)次[illegible]

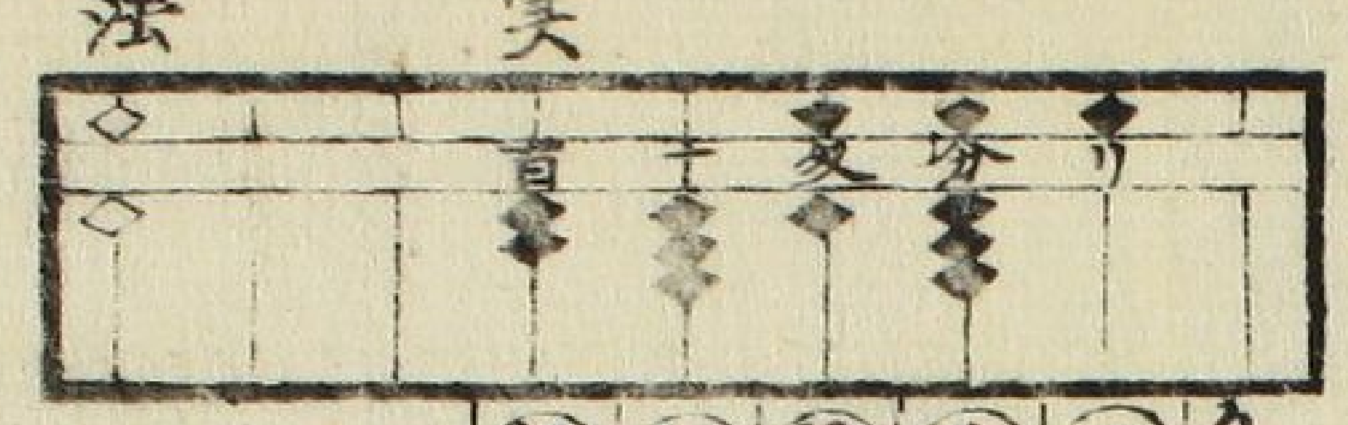
(へ)次三を[illegible]

はかけざん

三百六文八分五厘を

六ツあわせ

壱貫八百四十壱文壱分と成



(い)五六三十	(ろ)六八四十八	(は)六六三十六	(に)三六十八	(ほ)二六十二

(い)次[illegible]

(ろ)次八を[illegible]

(は)次[illegible] (に)次三を[illegible]

(ほ)次二を[illegible]

御惣様宜御伝

聲可被下候[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猶々御苦労御参會可[illegible]

[illegible]指上申候

御遠慮可有之[illegible]

[illegible]

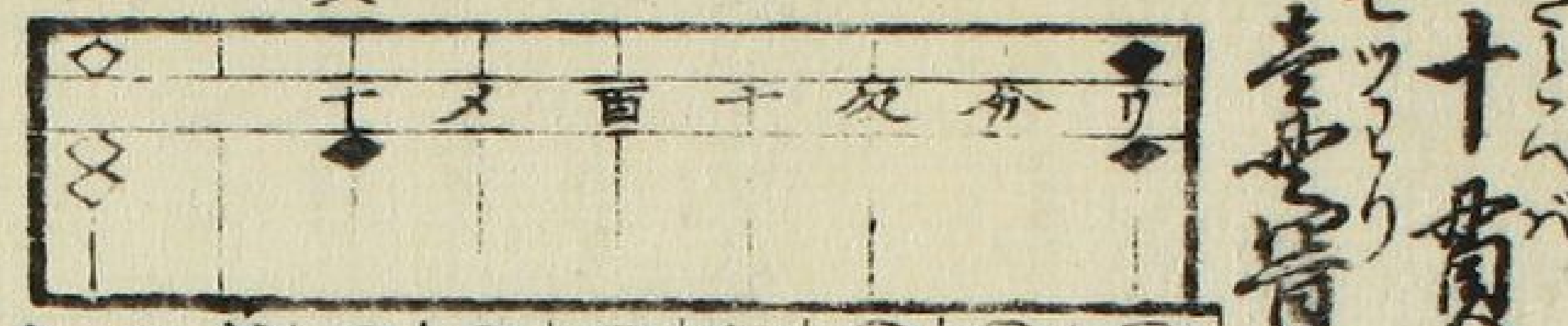
[illegible]

七のたん

十貫目六匁を（じうくわんめ）

壹貫四百廿九匁四分二厘八毛五糸（七ツわり）

（と）	（へ）	（ほ）	（に）	（は）	（ろ）	（い）
七進一十	七五七十一	七四五十五	七六八十四	七二下加六	七三四十二	七一下加三



（かけもどし）（い）ハ一を其儘（そのまゝ）置 下へ三加ふる

（ろ）ハ三を四にして下へ二加ふる

（は）ハ二を其儘（そのまゝ）置て下へ六加ふる

（に）ハ六を八にして下へ四加ふる（ほ）ハ四を五にして下へ五加ふる（へ）ハ五を七にして下へ一加ふる（と）ハ七を払（はらひ）上へ一加ふる

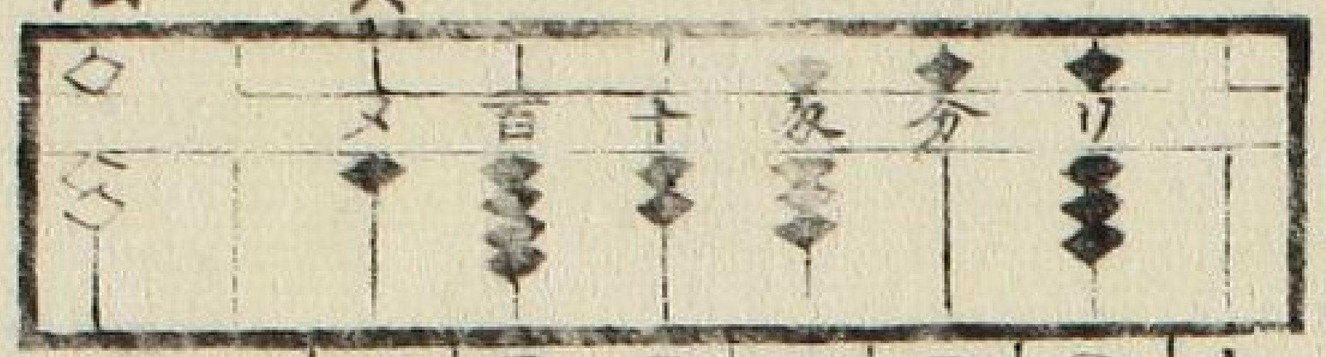
同かけざん

たとへバ右の壹貫四百廿九匁四分八厘を

七ツあてを十貫目六匁也

（かけもどし）

（い）	（ろ）	（は）	（に）	（ほ）	（へ）
七八五十六	五七三十五	七八五十六	二七十四	四七二十八	一七七



（い）ハ八を五にし（なす）下へ六加ふるし

（ろ）ハ五を三にして下へ五加ふる

（は）ハ八を五にして下へ六加ふる

（に）ハ二を一にして下へ四加ふる

（ほ）ハ四を二にして下へ八加ふる

（へ）ハ一去（さ）りて下へ七加ふる

古今集

世の中ハ
夢かうつゝか
うつゝとも
ゆめとも
しらず
ありて
なければ

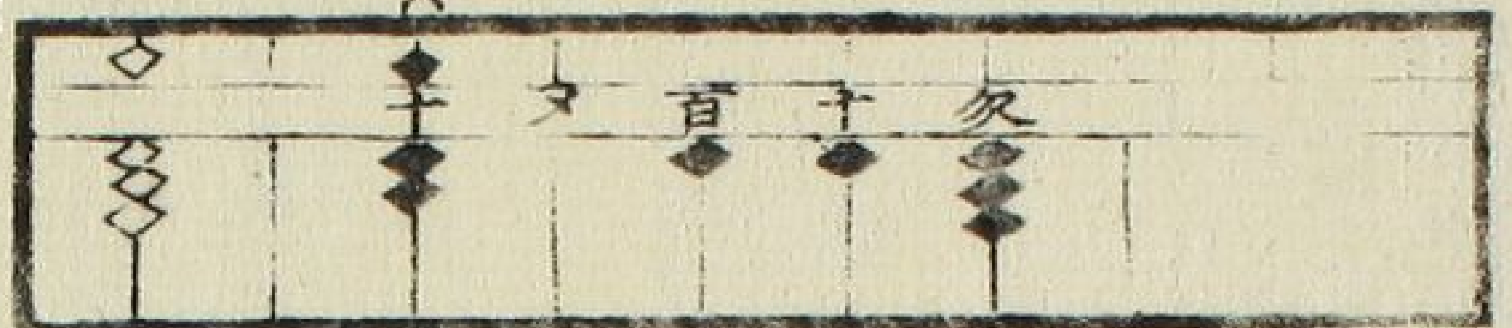
讀人不知

八のだん

七十貫百十匁を（たゝんば）八ツわり

八貫七百六十三匁

二厘又毛より



い	ろ	は	に	ほ	と	ち
八七八十六	八六七十四	八五六十二	八三下加六	八進一十 ㊁ 八一下加二	八二下加四	八四天作五

まつもどめ

㋑ 此はじめの七を八わりて下の桁へ八十六とおくべし

㋺ 此六を七とわりて下のけたへ四とおくべし

㋩ 此桁の五を六わりて下のけたへ二とおく

㊁ 此けたの三ハ其儘におきて下へ六加へる

㋭ 此間を八ツ進みて上のけたへ一とおくべし

㋬ 除る一をそのまゝおきて下へ二とおく ㋣ 此二を其まゝおきて下へ四加へる

㋠ 此四を天の五にするべし

[illegible]人[illegible]

一筆啓上仕候

旦那様益御機嫌克

被遊御座奉恐悦候

然者[illegible]

[illegible]恩有[illegible]仕合[illegible]

[illegible]大病[illegible]迚[illegible]

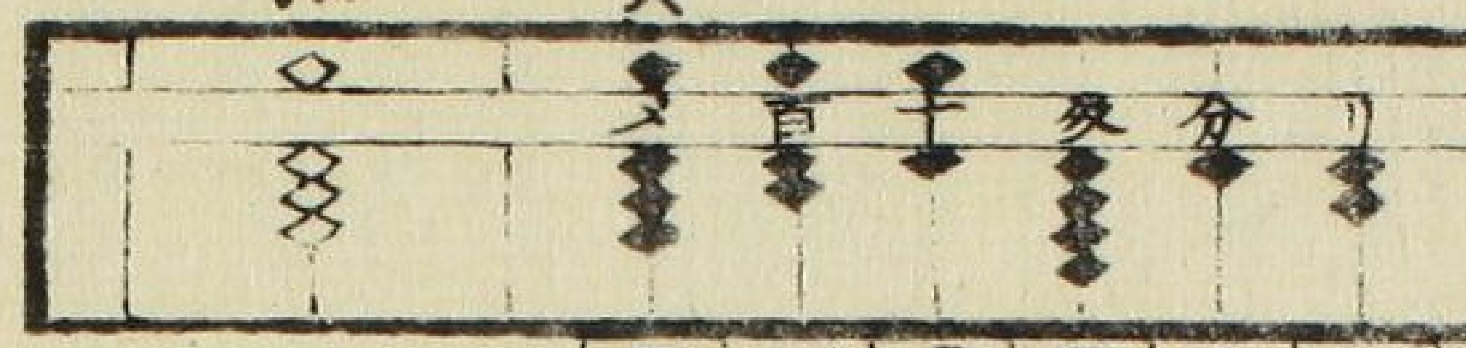
此度ハ[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

はっけざん

たとへバ右の八貫七百六十四匁三分二厘五毛を八ツわりにし
七十四百十五匁五分



かけくどめ
い 五八四十
ろ 二八十六
は 一八 八
に 四八三十二
ほ 六八四十八
へ 七八五十六
と 八八六十四

い 此桁の五を払て 四おかるなり

ろ 此くらゐの二を一払て 下の桁へ六くわへる

は 此くらゐの一を払て 下の桁へ八くわへる

に 此くらゐの四を三払て 下の桁へ二くわへるなり

ほ 此くらゐの七を六払て 下の桁へ六くわへる

へ 此くらゐの六を四払て 下のけたへ八くわへる

と 此くらゐの八を六払て 下の桁へ四くわへる

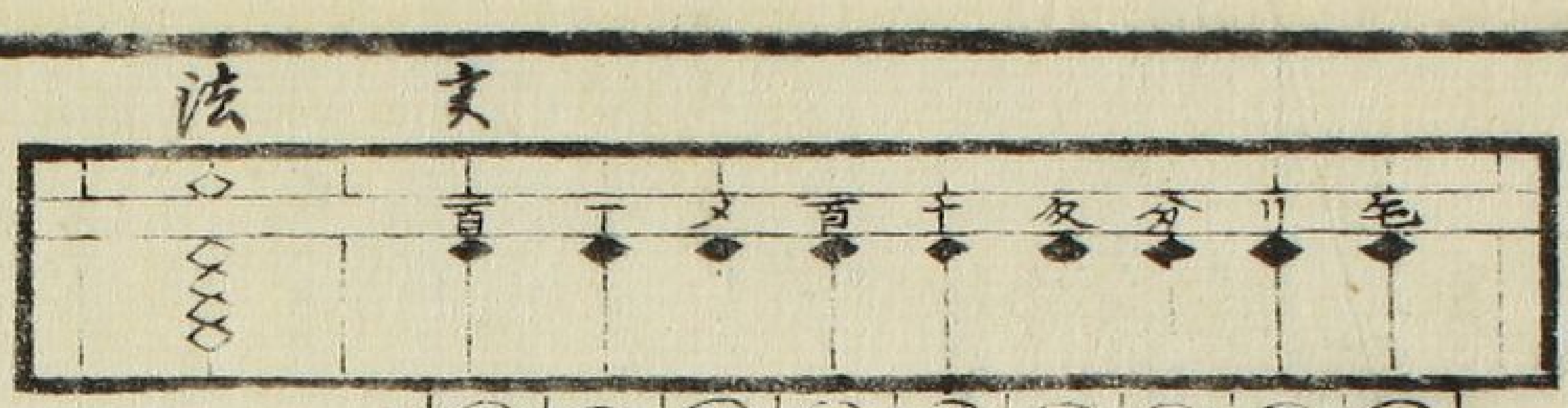
九の段

百十一貫百十一匁一分一厘一毛を 九ツわり
十二貫三百四十五匁六分七厘九毛なり

御暇之儀朋輩相願誠ニ有難
御用多之砌御苦労
存宜御願偏
朋輩上ニ懇懃云
回遅返事

御自身上披露被下候
為大儀御苦労付
書状御暇之儀
諸事
得

法　実



㋷	九進一十
㋠	九八下加八
㋣	九七下加七
㋬	九六下加六
㋭	九五下加五
㋥	九四下加四
㋩	九三下加三
㋺	九二下加二
㋑	九一下加一

このそろばん

㋑此一を真（そのまゝ）まゝにおきて（いて）下のけたへ一をくはへるなり

㋺此たまの二ハそのまゝにおきて下の桁へ二をくはへるなり

㋩此たまの三ハそのまゝにおきて下へ三をくはへる

㋥此たまの四ハそのまゝにおきて下のけたへ四を加ふる

㋭此たまの五ハそのまゝにおきて下のけたへ五をくはへる

㋬此たまの六ハそのまゝにおきて下のけたへ六をくはへる

㋣此七をそのまゝにおき下のけたへ七をくはへる㋠此八を真（その）まゝにおきて下へ八をくはへる㋷此九をまゝにして上のけたへ一をくはへる

はりけ算（ざん）

これまでの十二貫三百四十五文六分七厘九毛を九ツわりにして百十一貫百十二文五分一厘一毛となる

[illegible]委細[illegible]人[illegible]得[illegible]申

含置[illegible]打[illegible]満人

中[illegible]年[illegible]下[illegible]

不埒着屋状

中独宥[illegible]の

此度文具之不埒有之

無據[illegible]扱[illegible]申

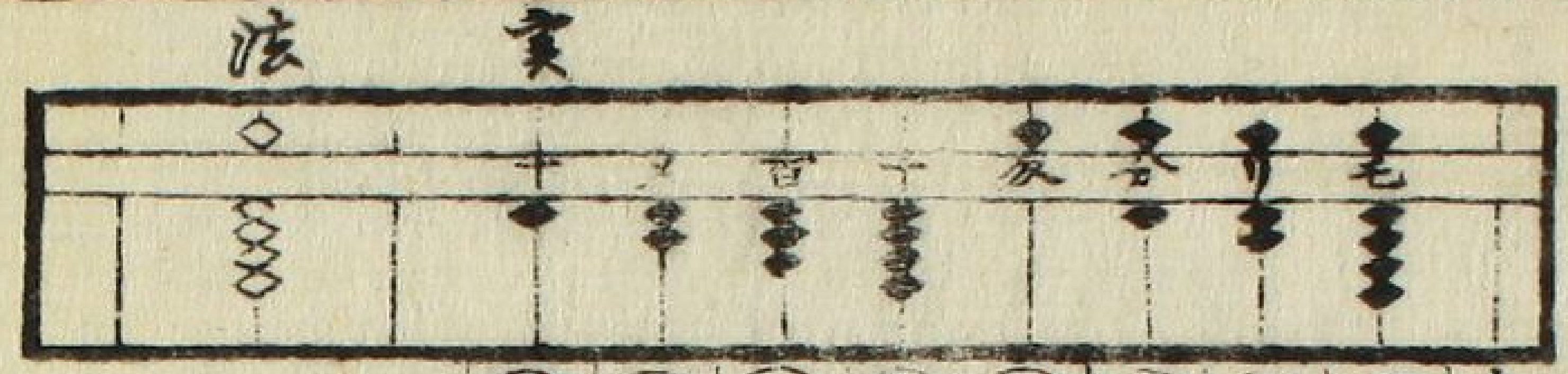
以来[illegible]等申

彼是[illegible]共差[illegible]

付[illegible]一切御取敢間敷[illegible]

ゐけんとめ

㋑	九九八十一
㋺	七九六十三
㋩	六九五十四
㊁	五九四十五
㋭	四九三十六
㋬	三九二十七
㋣	二九十八
㋠	一九 九



㋑此九を九ずつて下の九を一ゝ九八と

㋺此七を六ずつて下の七を八三ゝ六の㋩此五を払ひて下の九を八ゝ九と㊁此四を払ひて下のをくへ九八ゝ九と

㋭此四を三ずつて下のけ六へ六ゝ九と㋬此三を示して下のけ六へ七ゝ九と㋣此二を一ずつて下の横へ八ゝ九と〇此一を去る

八さん終

〇見一之割聲

見一無頭作九一	帰一倍一
見二無頭作九二	帰一倍二
見三無頭作九三	帰一倍三
見四無頭作九四	帰一倍四
見五無頭作九五	帰一倍五
見六無頭作九六	帰一倍六
見七無頭作九七	帰一倍七
見八無頭作九八	帰一倍八
見九無頭作九九	帰一倍九

尚以先度御届申候

同返事

此度何之清被為度候

御暇乞付御文書

御届書委細致承知候

都閣中於合遊候

殊更之繁昌極の御事

御安心可被下候

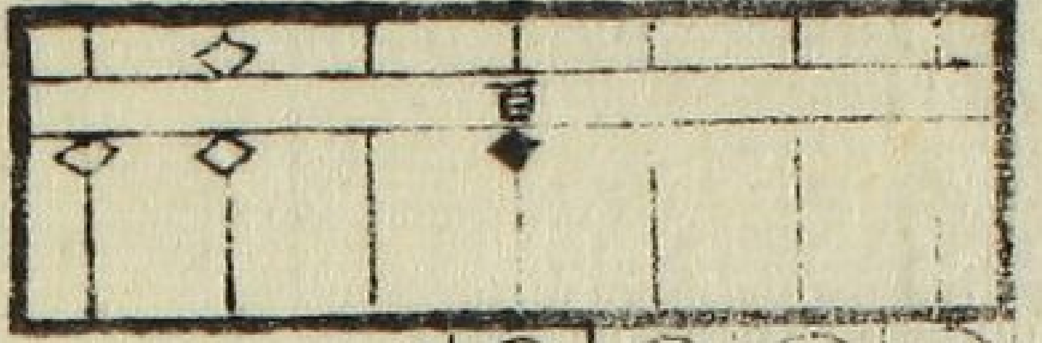
然者人尋状

以書状令啓上候

○見一

銀百匁を 十六匁五分ニ割ば [illegible]

法　實

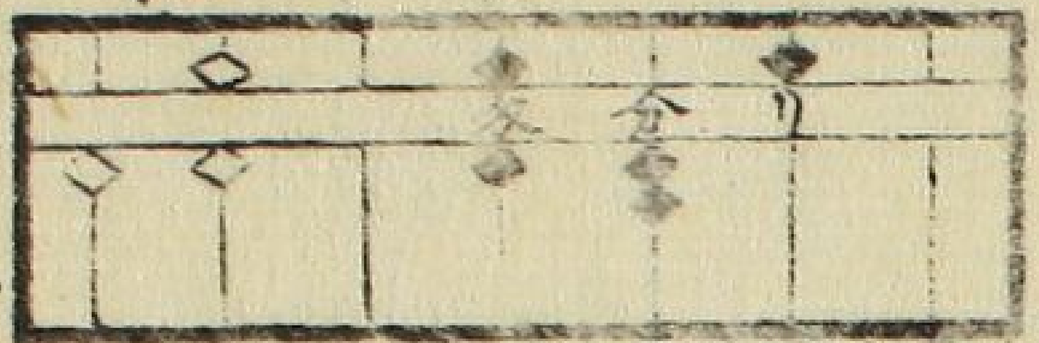


(へ)	(に)	(は)	(い)
又進 (と) 三十六	二進 二十 (ほ) 十二	六六三十六	見一 (ろ) 倍一

(い) 此一を [illegible] (ろ) 此九の内を [illegible] 六匁の内 [illegible] 十五匁 [illegible] 下のたまを [illegible] (は) 此五の内二十を [illegible] 下のけさ [illegible] 三十六 [illegible] (に) 此内二十 [illegible]

(ほ) 此二の内十と下の [illegible] (へ) 此内 [illegible] (と) 此 [illegible] 三十六引なり [illegible]

法　實



(い)	(ろ)	(に)	(へ)
又六三十	一又 (は) 十二六 十二	三三 (ほ) 六六 三十六	一六六

(い) 此 [illegible] (ろ) 此 [illegible] をとりて下へ [illegible] (は) 此 [illegible] 十を下の [illegible] 二 [illegible] なり

時氣 [illegible] 御機嫌 [illegible]

出 [illegible]

殊ニ [illegible]

[illegible]

[illegible] 御見 [illegible]

漸々ハ [illegible] 被下候

早速 [illegible] 可申 [illegible] 候

此段 [illegible] 申上 [illegible]

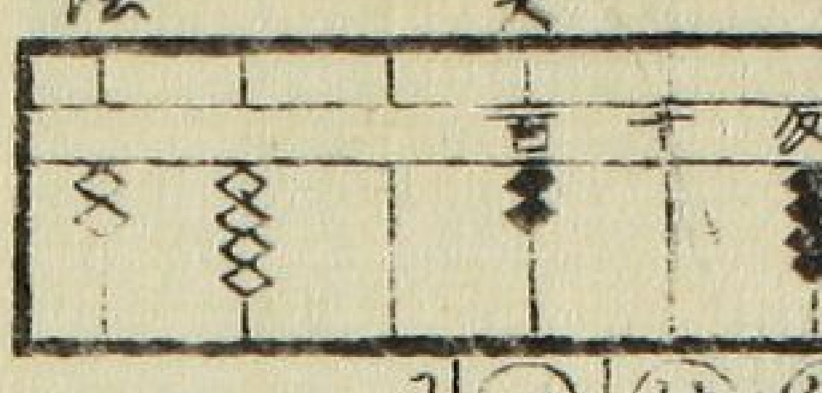
目録之 [illegible]

[illegible]

（に）此二をはらひて下へ八二一天作五
（ほ）此桝三十下の桝へ二進一十
（へ）此六をはらひ下へ六くはふる

○見二

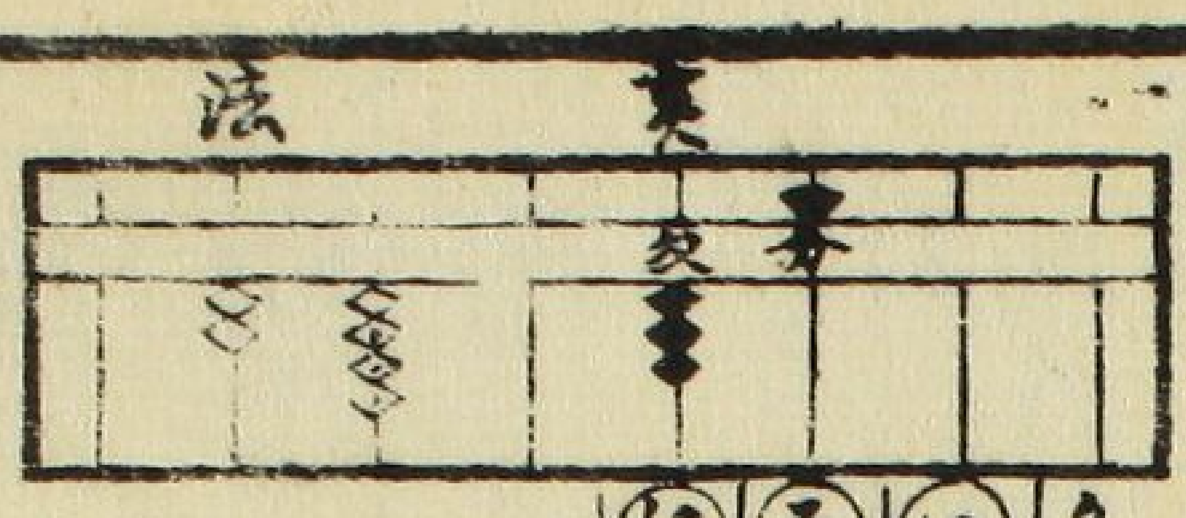
たとへバ二百四十匁を（千五百三十と成）八人にて割ときハ



（ほ）四八三十引
（は）四八三十二引　（に）二一天作五
（い）八二　（ろ）[illegible]

（い）此二を九ふして下の実へ[illegible]
（ろ）此内一を去下の桝へ二進
（は）此内三十と下のはらひて二ふ一（に）のこる一ッを天の又[illegible]（ほ）此二千をひくなり

はりざん
たとへバ六十五の八匁又宛を（二千四百と成）二百四十匁をわり[illegible]



（い）四八三十
（ろ）[illegible]（は）[illegible]
（に）二八十六

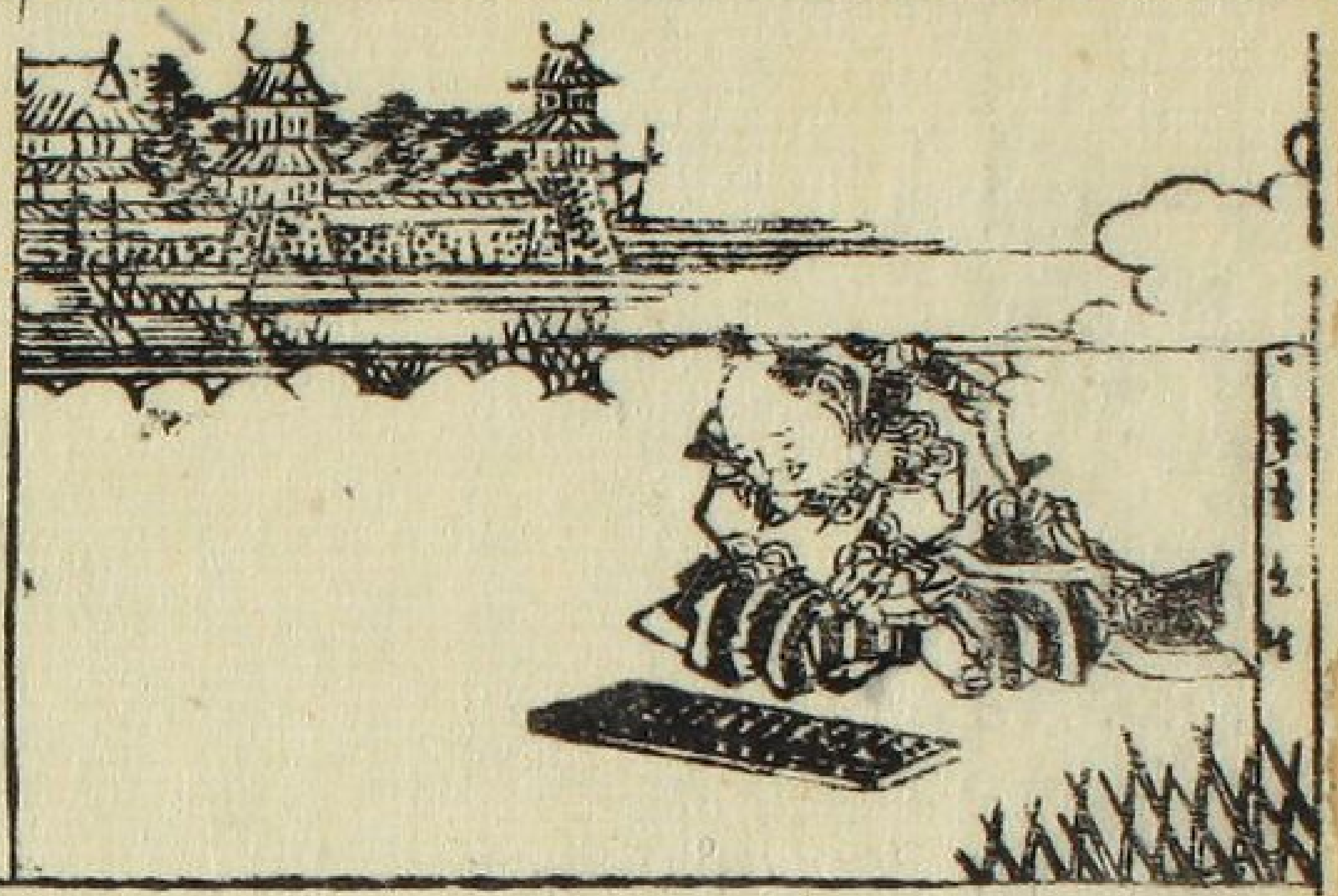
（い）此二を八二十[illegible]
（ろ）此[illegible]十ろなり

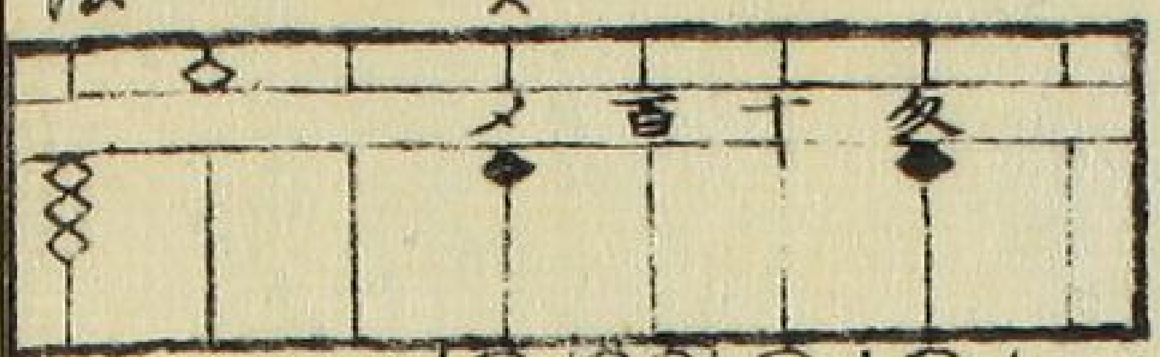
（は）此桝へ三十と下へ二一天作五
（に）此八を十[illegible]下へ六くはふる

○見三

たとへバ三ッつゝ[illegible]
三貫三匁を
二千[illegible]六百づゝ

委細珍重存候御親族御歓喜之
平生大人敷御亭主故
悪事千万有之間敷候
何分当地其元之由嘸御心
配被存候察所当地宜奉寄
之儀も早速相済候処
何等之気色無御座候
若心当之儀聞及候て
不取敢御知可申候
[illegible]





㋣又六三十引
㋬又八口十引 ㋣三二五
㋠作九二 ㋷二六十引 ㋦掃一倍二
㋸三三五 ㋤掃一倍二
まうるどめ
㋑此一を二系
左下の桁へ
一くりあげ

㋺此内一を立て下へ二立く
又る也㋩此内を十引て
㋥此三を九引て下へ三之
くりあけへ㋭此内一を立り
下の位たへ三加へ㋬此内
を十引 ㋣の三を六余
左て下へ二くり合㋠此ほ
すく二千ひく女り

○米一石の代銀
四十目かへく
銀三貫文の
米の本と問

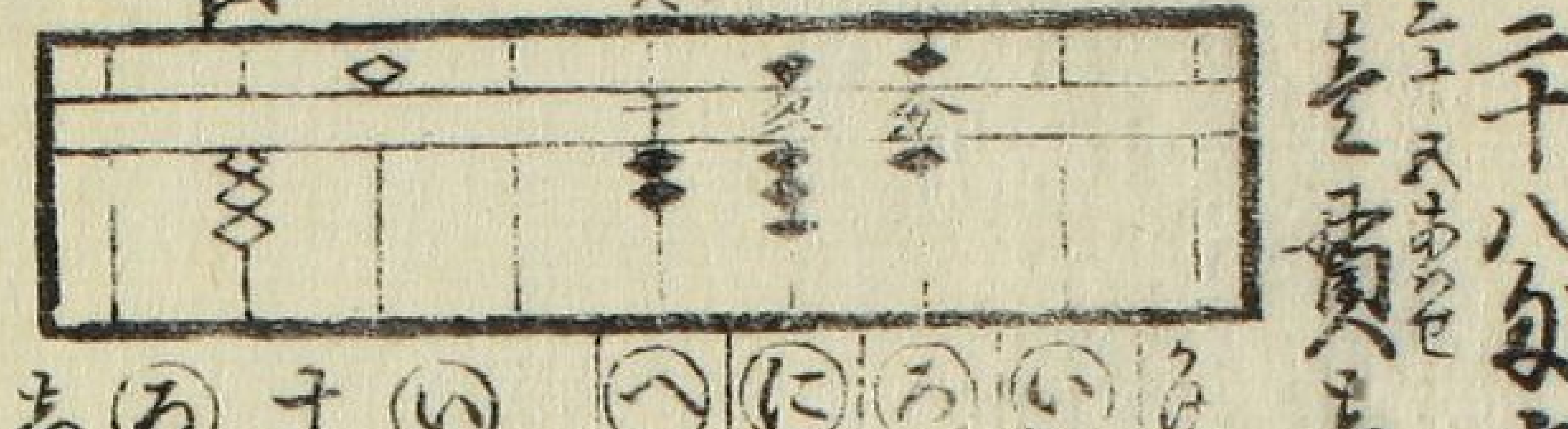
答曰
七拾五石

術曰銀三貫文を
壱石の代四拾目にて割へく

右御返答之善悪御座候は
申遣候様被仰付
主君者も得心無之候ハ
淳之通度旨申来候之条
其子細理非者存居
元来聖教之中を申
諸合も有之不足
其者雄体之無念も
可有之是迄之儀は
何分御了見之儀相頼度也

はかけざん

たとへば十匁に付 二十八匁六分を 三十一匁あはせ 壱貫[illegible]匁と なり



㋑ 又六三十	㋺ 三六 十八 ㋩ [illegible]	㋥ 三八 二十四 ㋭ [illegible]	㋬ 二 三 六	

㋑ は[illegible]三 十八[illegible]なり ㋺ は六を二十ふ[illegible] [illegible]の[illegible]へ 八分ハも ㋩ は[illegible]へ [illegible]十 [illegible] ㋥ は八を二十ふ [illegible] ㋭ は[illegible]へ十[illegible] ㋬ は二 を[illegible]て[illegible]

御睦敷益々[illegible]

[illegible]申入候[illegible]

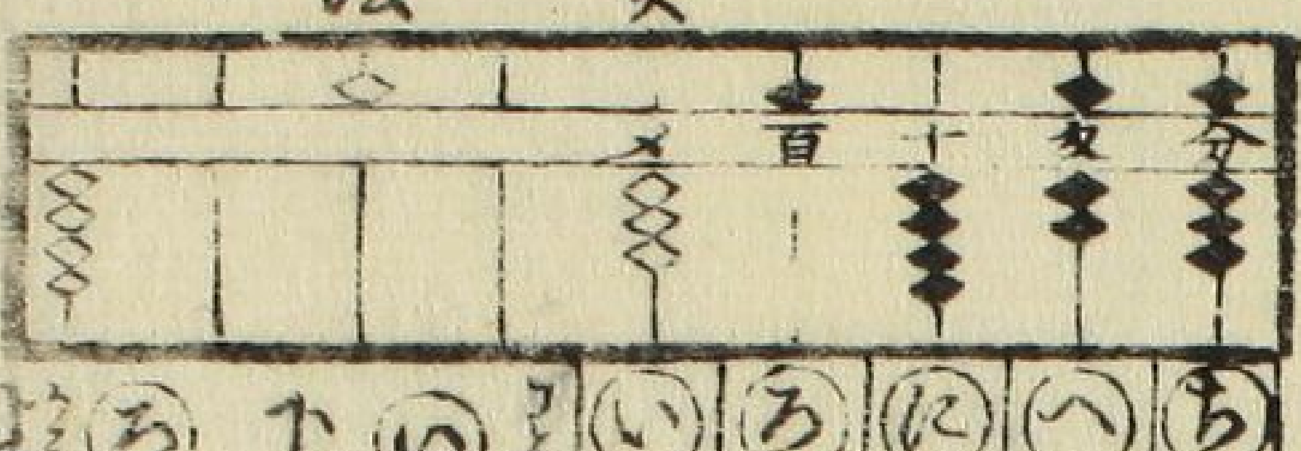
[illegible]の事[illegible]

[illegible]

申[illegible]

○見[illegible]

たとへば 三貫又百匁十七匁 八[illegible] 八匁[illegible]



㋠ 又六三十引	㋬ [illegible] ㋣ 一十	㋥ [illegible] ㋭ [illegible]	㋺ 一十 ㋩ 七十二	㋑ 七十二

㋑ は三を[illegible] 下へ[illegible] ㋺ は[illegible]を去 上へ[illegible] ㋩ は[illegible] ㋥ の[illegible] ㋭ は[illegible] ㋬ は[illegible] ㋣ は[illegible] ㋠ は[illegible]三十引

御[illegible]申入[illegible]

[illegible]

目出度[illegible]事

[illegible]

[illegible]

はうけざん

八匁七分六厘を

（旦知又りう合也）三貫五百四十七匁八分と

答

（かけてうの）

（い）又六三十

（は）又七二十六

（ろ）旦二十八（は）収八旦十

（に）旦七二十八

（へ）旦八三十二

（い）此術へ三十（ころく）くゝへる（ろ）此ゑ

を三有て下へ加へる（は）此け

（に）此七を三ヲ十を下へ旦加る

（ほ）此くく八旦十をへ入る也

（へ）此八を三十有て下の

五桁八二くゝへる也

陣具之子細有之雖然

雑悪存外損亡散々御事

旦相手之者雑太郎中

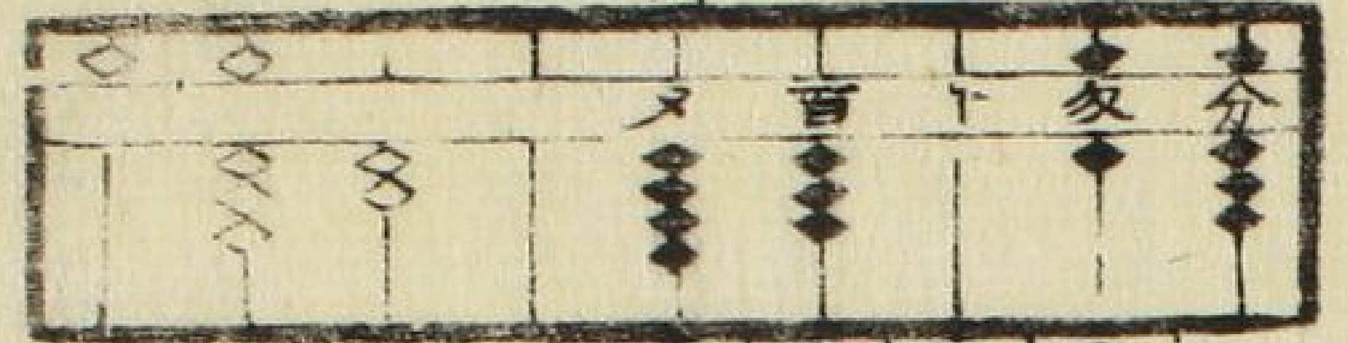
居上僧人者諸事相守可申

中上首等相並(?)打越

○見五

（さくらんが）旦貫三百廿四匁八分を

（五百八十二割）七匁四分にて割る



（と）二旦八引

（に）旦二十四（へ）旦十二引

（は）七八又旦六十引（ほ）加収二二

（い）又旦加旦（ろ）降一 儀又

（ころもとめ）（い）此旦不又旦加る

（ろ）此内を二去て

下の術へ又ゑ合

（は）此う方五を

又引下のはじめへ旦くゝへる

（に）此内十とゐ九く旦引く

（ほ）此六を十三くゝへる

（へ）此くかて三を下て二引

（と）此下の術かく入引て

夫付御沙汰之趣

兼日之使者可被遣候

之次第細々申候

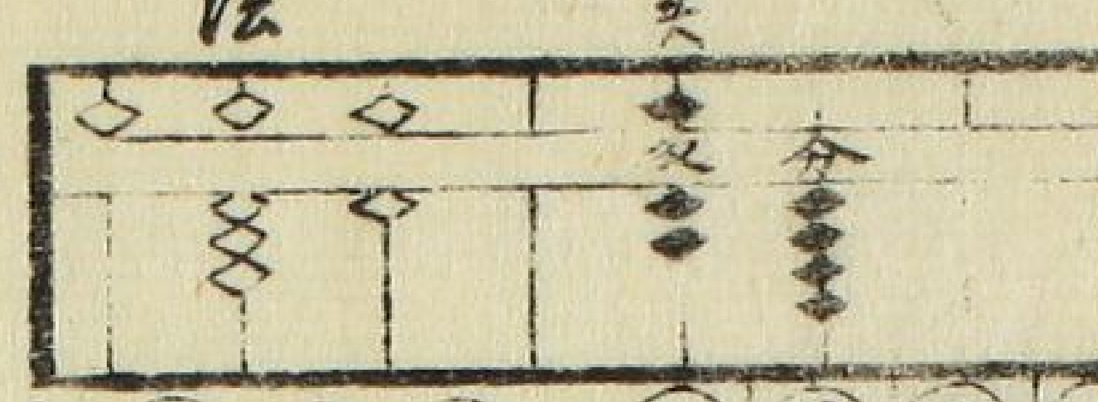
留守人々書状

此者も以入来之節

中一候補之候(?)

割り付け算

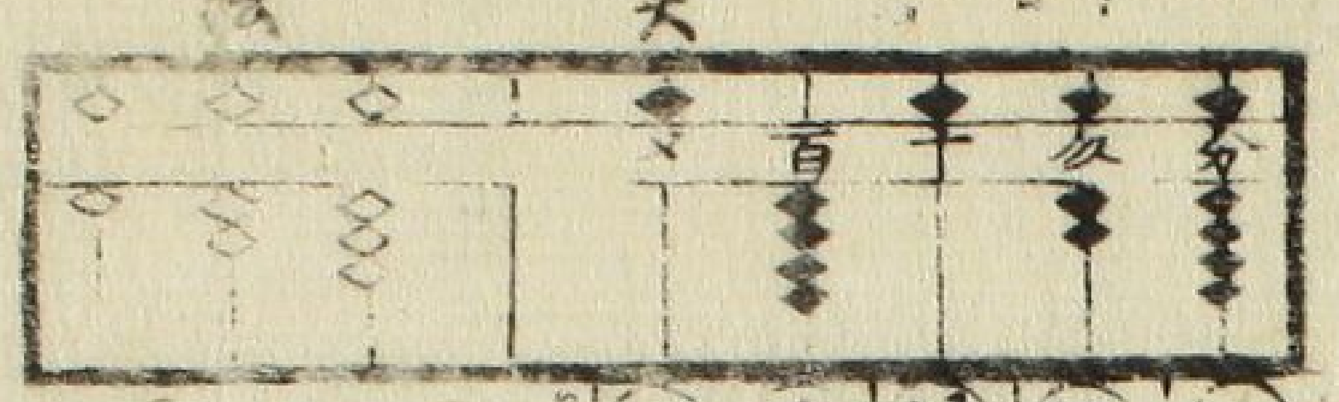
たとへば銀の七匁四分を
（五百八十二割）四貫二百六十八匁八分に割



うけとりの	(い)二四八	(ろ)二八三十二 (に)二十七十尺	(は)二四又二十 (ほ)五十七八	(へ)五七二十又	

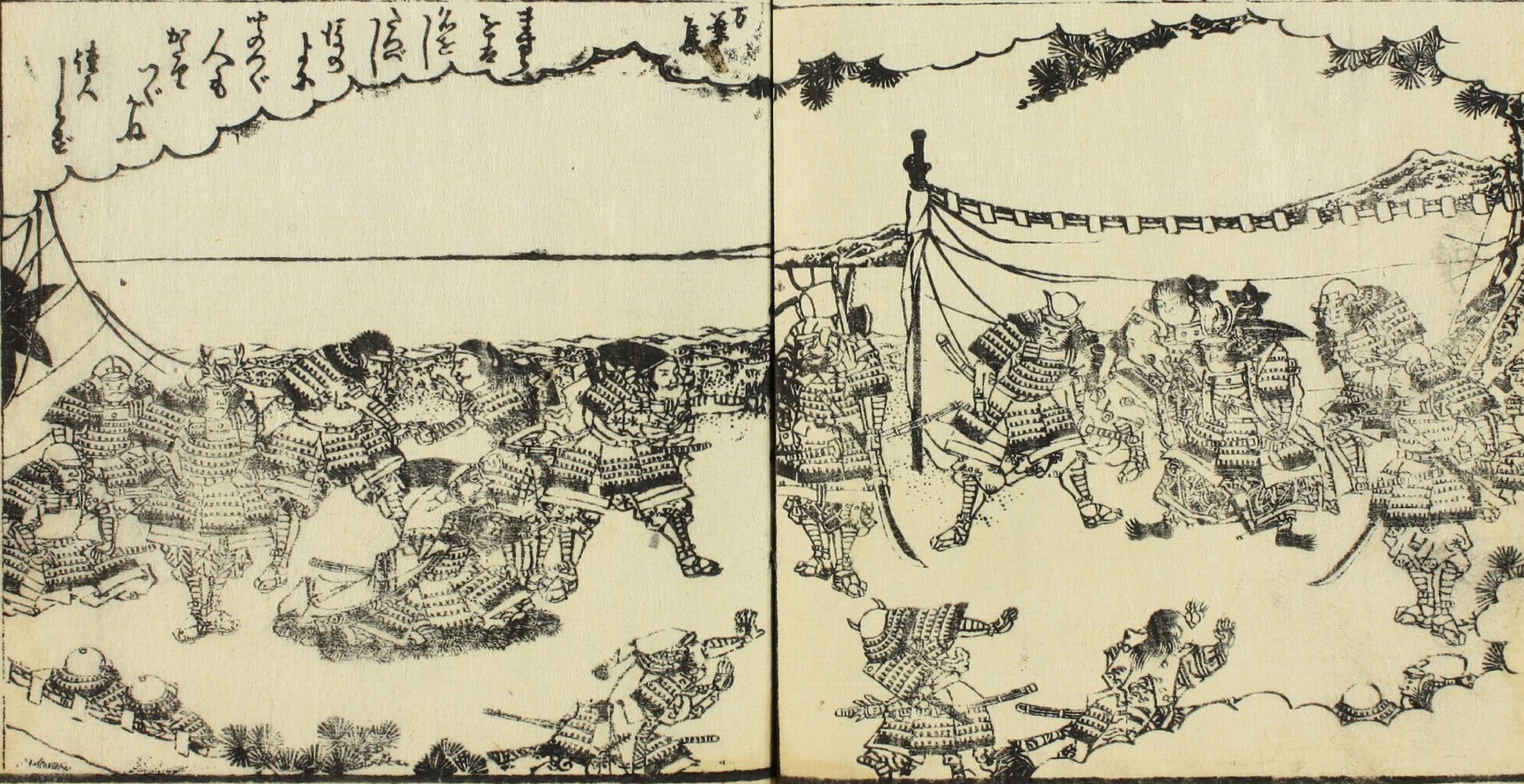
(い)此下の桁へ八くゝ八へおくべし
(ろ)此たなへ三十とかへ二八分
(は)此下を二十かするべし
(に)此たなへ十と下へ四六
へかくし (ほ)此たなへ又十と下
の桁へ六く六又へかくし (へ)此七を
三十かそてかへ又くかくし

○見六
たとへば又貫にて百五十七匁（者とよ入割）九分を
八貫又よ匁重つてし答

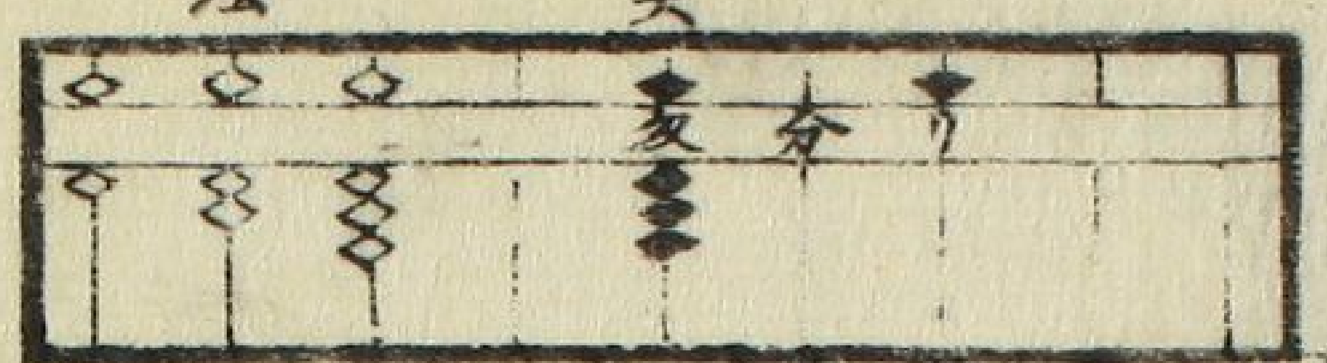


(へ)又八四千引	(ほ)又七三十又割	(は)八八六十九割 (に)作二十二又	(ろ)七又五十六割	(い)六又八十二	うけとりの

(い)此又を分ふ
五々へ三零
(ろ)此内五十と
又十こ引下の
々たへ四く八答 (は)此内六十七
下の桁へそ四ひく (に)此三を
其の又ふ四十へ (ほ)此々たに置
三十とかのたくまて又割
(へ)此桁ふくへ四十割



はかけ算
八貫五百目を
壱匁ニ付八分替
代銀何程ニ成るか

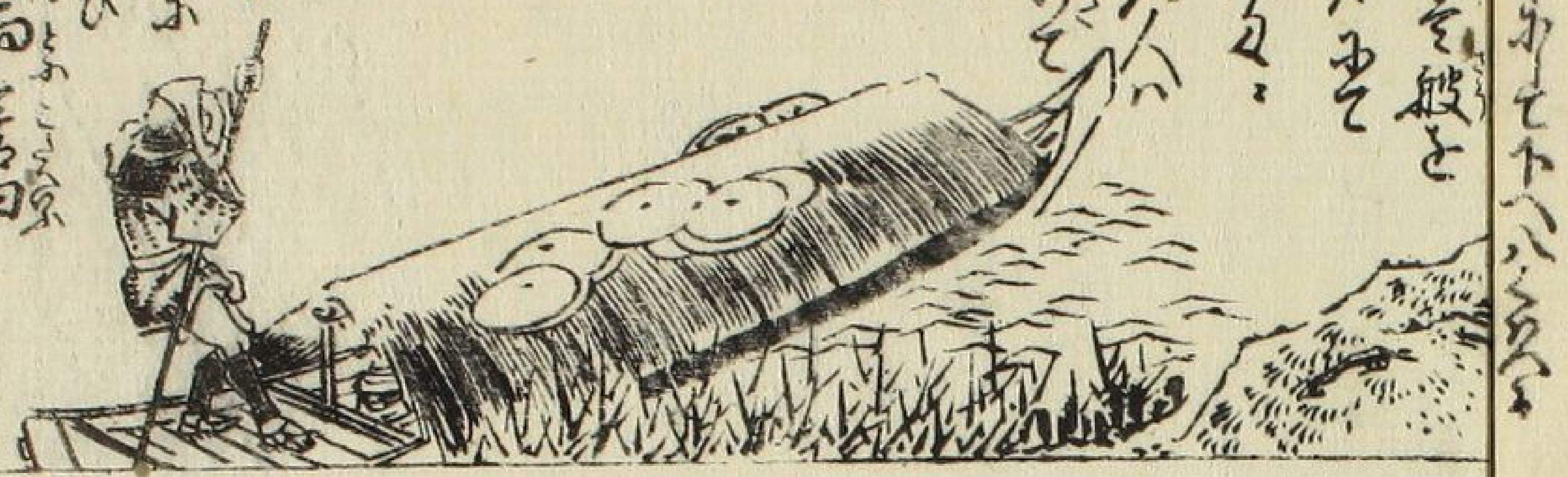


（い）又八匁十
（ろ）又七十三匁
（は）又八十六（に）又八
（ほ）又八匁十六
（へ）六八匁十八

（い）此代銀何程
二匁八分なり
（ろ）此代を十二分
下のはん八分
又八（は）此代を十二分
を八十一の二匁
（に）此代銀八分
ほど（ほ）此代銀八十を
下のはんにて八匁十八（へ）此代
を又にて十八匁

○船壱艘を
二十四人して
銀十八匁に
借切（かりきり）八人ハ
三里行て
上る内
九人ハ
五里
行て
あがる
のこり
七人ハ
八里
行て
上る
此のりちん
割合（わりあひ）いかほど
出銀を問　答曰

三里　八人分
五里　九人分
八里　七人分

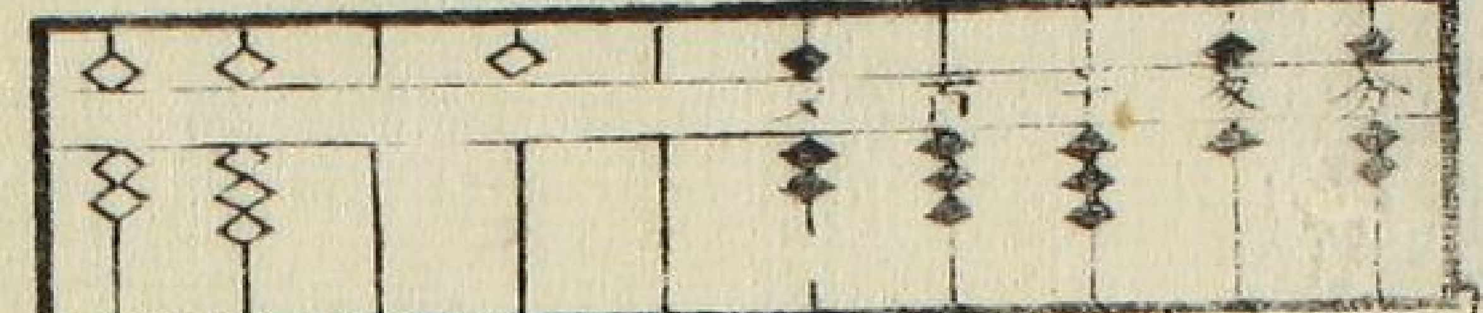


山海之珍物遠路被下忝存候
入来御懇意仕候付御影
無之後章之筆紙難尽候
今日在書中難申述候
猶期後音之時候

御用向之儀者御心易可被仰越候
御返事
貴殿御安全目出度存候
有之時日来祝儀
仕候処文紙御沙汰

○見七

（たしかに）七貫三百二十文　七分を
（七千八百文ツ割）九分四厘にてとかけ

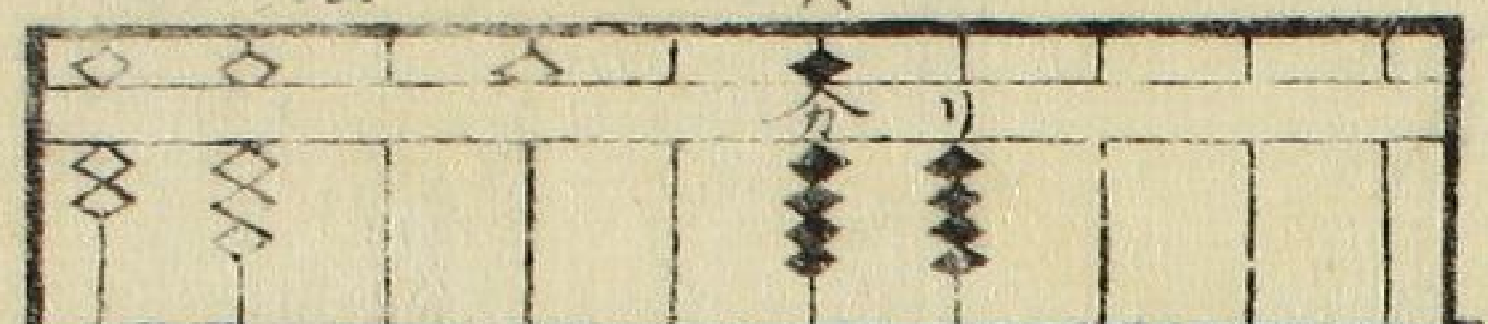


（い）	（は）	（ほ）	（ろ）	（い）
四又二十引	八九四十又引	四八三十二引	八九七十二引（に）四七二十八	作九七

ころとりめ（い）は七を九にて下八九くゝ分（ろ）はさしおきて七十と下にて二引（は）はうち四又引（に）は下の桁で又引（ほ）は桁へ二加分三を四にて又へ二加分（へ）はたまて二千と下にて二引もさしおきて二十ひく

（は）かけさん

（七千八百文ツ割）九分四厘を
七貫三百三十文七分よみ



（い）	（に）	（ろ）	（は）	（へ）
四又二十	又九四十又	四八三十二	四三十八（ほ）八九七十二	七九六十三

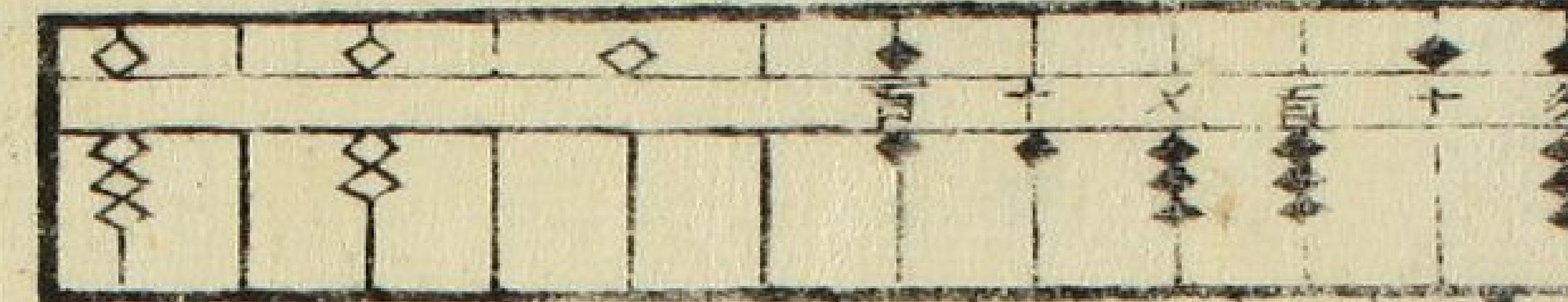
かけそろめ（い）は桁へ三千加る（ろ）はさしおきへ三十下のたまへ二加る（は）は四を二千ふあてて下のたまへ八分のたへ又たまへ（に）はたまへ四十下のたまへ二加る（ほ）はたまへ七十下のたまへ三加る（へ）はたまを三千あてて下へ三加る

抑（そもそも）［illegible］（しやうところ）［illegible］（こんりう）［illegible］（おんて）
［illegible］（すゝき）［illegible］（つきべき）［illegible］（まうす）［illegible］（やのさき）［illegible］（ちやうちやう）
［illegible］（つかまつり）［illegible］（いさゝか）［illegible］（ようもさ）［illegible］（あひまひ）［illegible］（なり）［illegible］（など）
［illegible］（べく）［illegible］（まうりやう）［illegible］（のあひだ）［illegible］（お）［illegible］（とうおへ）［illegible］（ごとう）
［illegible］（ごくふ）［illegible］（くの）［illegible］（ござ）［illegible］（いどやう）［illegible］

不（ふ）参（さん）候状（さうらうじやう）
［illegible］（しかれば）［illegible］（さうらうあひだ）［illegible］（ハ）［illegible］（ご）［illegible］（ちやう）
［illegible］（おんのりよし）［illegible］（じやう）［illegible］（る）［illegible］（り）［illegible］（ぐらい）［illegible］（ある）
［illegible］（これ）［illegible］（おもむき）［illegible］（おぼろ）［illegible］（ごあんない）［illegible］（まかせ）［illegible］（だんぎ）
及（および）［illegible］（いちらんし）［illegible］（さうらうところ）［illegible］（じやうず）［illegible］

○見八

たとへば六百十三貫三百五十目（八百七百五ツ割）を七かけ六分ニして[illegible]



（と）五六三十引

（は）五七三十五引

（へ）六七四十二引

（ろ）七七四十九引（ほ）八進一十

（に）八四天作五

（い）八六七十四

（い）いは六を七十四と下の桁へ[illegible]

（ろ）上のけたの一を去（さり）[illegible]

（は）いは円三十と下のけた[illegible]引く（に）いは四を天の五[illegible]

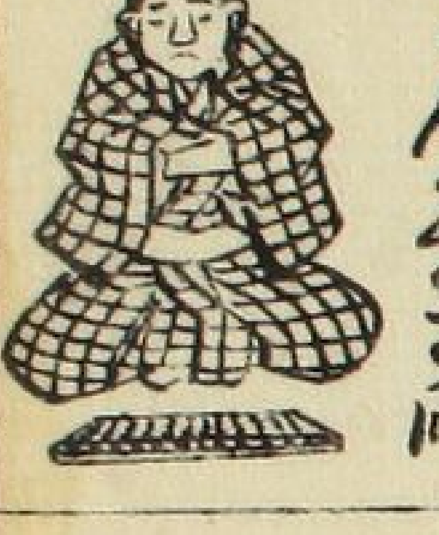
（ほ）いは八を去て上の桁へ一進む（へ）いは桁を四十と下にて二引

（と）いはたって三十引く

○盗人（ぬすびと）布（ぬの）を分（わけ）るを[illegible]七反づつ分れば八反あまり十七反[illegible]不足と云[illegible]とふ布数と人数を問（とふ）

答曰人数十五人

布九十一反



出席之様子承知致候

参上可仕存候処相

[illegible]用向[illegible]御断迄

[illegible]有之[illegible]付[illegible]残念

[illegible]

其御所[illegible]御座候

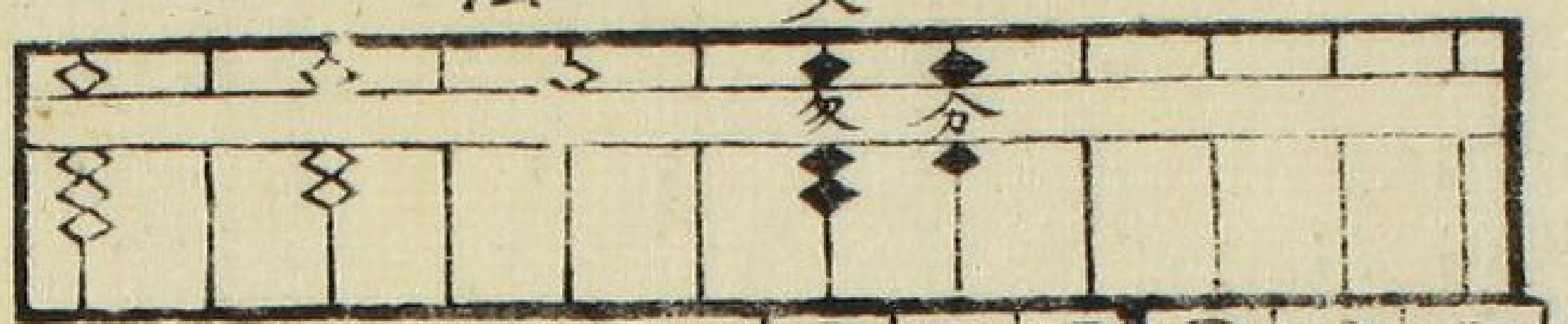
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

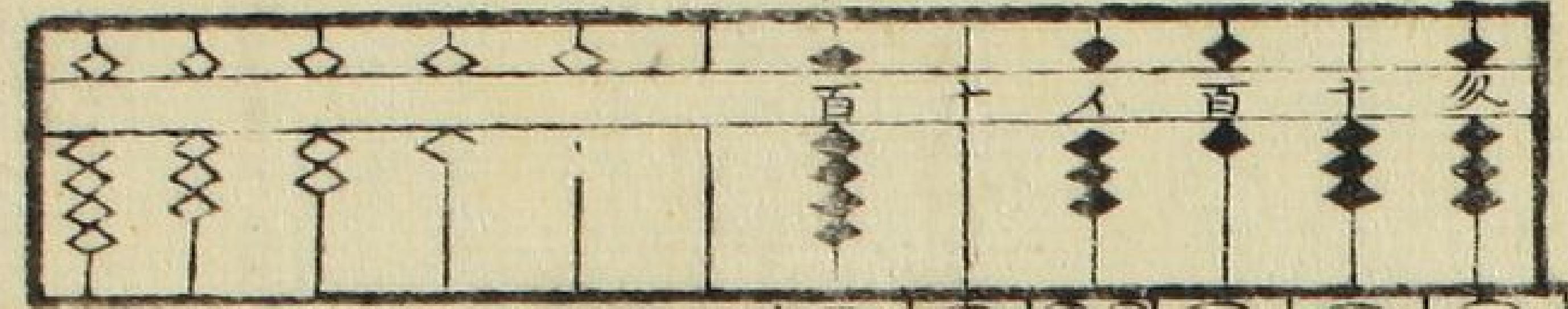
はうけざん
七貫六分を
（八合七百八十八合で）
百十二貫三百五十 [illegible]
[illegible]



㋑八と八三十
㋥八七三十八
㋺六七四十二
㋭七七四十九
㋩六八四十八
㋬七八五十六

㋑は [illegible] 三十 [illegible]
㋺は [illegible] 四十と下へ二つ [illegible]
㋩は [illegible] 四十 [illegible]
[illegible] 八 [illegible]
㋥は桁へ三十 [illegible] と
㋭は [illegible] 八十 [illegible]
九加へる㋬は [illegible] 下 [illegible]

○見九
九百八貫八百二十八分を
（九百八十七百二十八 [illegible]）
九分二分にて [illegible]



㋺二八十引
㋭八九七十二引 ㋦二八十六引
㋥六九五十四引 ㋷二七十四引
㋩七九六十三引 ㋠二六十二引 ㋣九進一十
㋺八九七十二引 ㋬九一下加一
㋑作九九

㋑は先九八を除き
[illegible] て下の桁へ
九加へる㋺は [illegible]
七十と下の [illegible]
おそ三引㋩は
内六十と下のけ
たおく三引㋥二桁上まで
一とまし上のたさへ九くわへ [illegible]

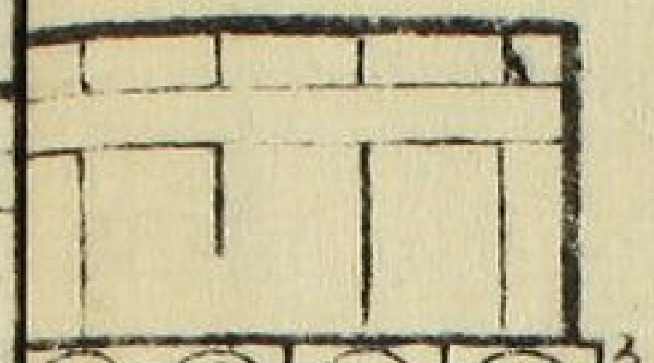
其許 [illegible] 御 [illegible] 御仕舞 [illegible]
[illegible] 御 [illegible]
御文面之趣 [illegible] 御用儀 [illegible]
[illegible] 用 [illegible]
[illegible]

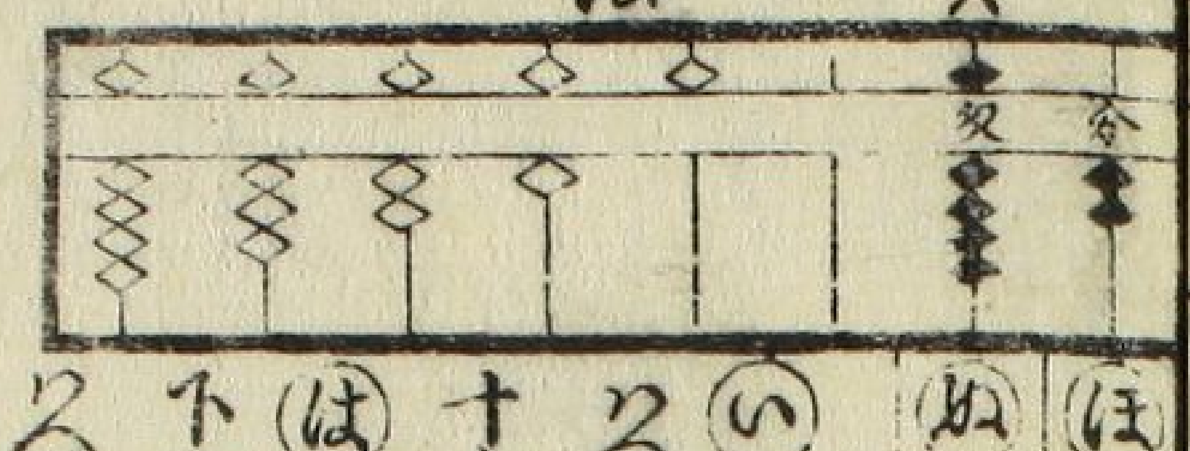
會 [illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

揃へ四と下の玉をへ八六を置
（ほ）は玉をはらひて四十下の玉た
まて又引（へ）は一を基すれ
置とへ一をくはへる（と）は内九
去上へ一加へる（ち）は玉をはらひて
十下の玉をはらひて六引あり
（り）は揃へて十下の玉をはらひて
六引なり（ぬ）は玉をはらひて十
下の玉をはらひて二引なり
（る）はけさはらひて十ひくし

はかけ算（ざん）
たとへバ右の
九貫二分を
九貫文を七和宰又有百
九百八貫六百二十
割となる
ろけんしの

（い）二又十		
（ろ）十二六	（へ）又九	四十六
（は）十二七	（と）六九	五十四
（に）十二八	（ち）七九	六十三
（ほ）十二九	（り）八九	七十二
（ぬ）九九八十一		





（い）は揃へ十く
はらへる（ろ）は揃へ
十と下へ二加へる
（は）はけさへ十と
下のけさへにく
はらへる（に）は揃へ
十と下の玉さへ六くはへるも
（ほ）は二を十払て下の玉へ
八をくはへるなり（へ）は玉をへに
十と下の玉をへ五くはへるなり
（と）は揃へ又十と払ひて玉をへ
にくはへる（ち）は玉をへ八十と
下の玉をへ二加へる（り）は玉をへ
七十と下の玉をへ二くはへる
（ぬ）は九を八十払て下の揃へ
一くはへるし

見一終

之餘（のあまり）及（およ）び銘（めい）其上（そのえ）定（さだ）めて琵琶（びわら）
先存（せんぞん）の儀（ぎ）御（ご）注文（ちうめん）可（べ）く種（ぐさ）
其節（そのせつ）別（べつ）して御（の）念入（ねんらくわの）
返事（へんじ）やうつりまうり御楽（ごらく）しめ可（べ）く為（さざき）
後（こう）ぎ珍（ちん）れいるい続（ぞく）ぶくの美（び）ぎ

御直（おんじく）返答（へんと）の
玉書（ぎよくしよ）其（その）内（うち）つまびらか誠（まことに）
此程（このほど）以後（いご）調進（てうしやう）土産（みやげ）さるさし
風情（ふぜい）悪（あく）是（これ）事（こと）辛労（しんらう）迄（まで）
無礼（むらい）御（お）引（ひき）留（とめ）申（まうし）御迷惑（ごめいわく）

○馬ハ一日ニ十九里行ク也 一日ニ十五里行ク牛ハ馬より十六日先へ出る 馬と牛と追付日かずをとふ
答曰 六十日
術曰 十六日ヲ牛の十五里をかけ 牛馬の差二百四十里を牛馬一日の差四里ニて割之

○廻國ニ赴きし者 二千九里ある寺社参詣 友達これを笑ひを募ひ 八十里四きとく 早ご不及 半九里之壱より追求 まで上の及ののを毀 問答曰 三十六里
術曰 二千九里の内九里引

[illegible]忝拝見仕候[illegible]

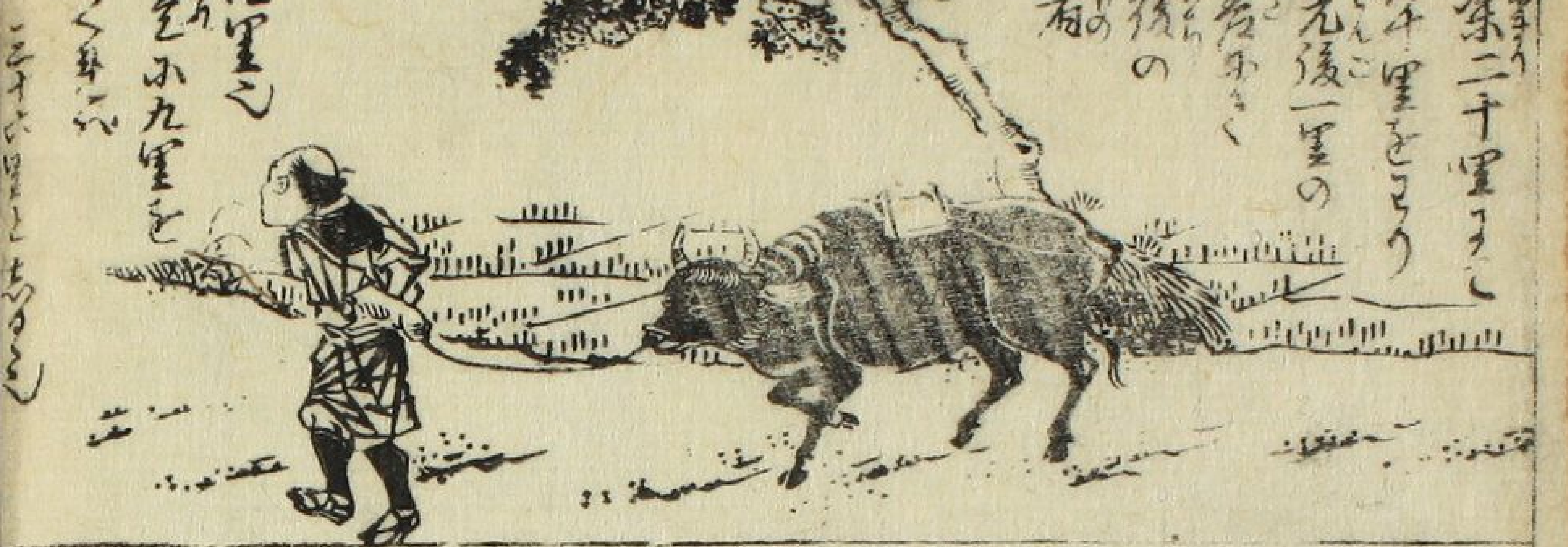
厚御[illegible]入御文

御返却[illegible]申上候

左[illegible]御座候

時候伺旁如此候

一筆奉啓上候 甚暑 厳寒之節御座候得共 殿様益御機嫌能被遊御座恐悦至極奉存候 随而拙者共無異儀御座候


余二十里ありし
以下里をとらう
先後一里の
差ありく
後の者
四里之方
是ハ九里を
ろく歩ニ
二十六里とあるべし

江戸名酒壱樽献上仕候（えどめいしゅひとたるけんじやうつかまつりそうろう）
御序之砌可然御披露（おんついでのみぎりしかるべくごひろう）
奉頼上候恐惶謹言（たのみあげたてまつりそうろうきようこうきんげん）

月日（ぐわつぴ）

梅村五郎三郎（うめむらごろうさぶろう）
名乗（なのり） [illegible]

安田彌左衛門様（やすだやざゑもんさま）

發行
書肆

江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　淺草茅町二丁目　須原屋伊八
同　日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
同所　山城屋佐兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　下谷池之端仲町　岡村庄助
同　淺草廣德寺前　和泉屋庄治郎
同　横山町三丁目　和泉屋金右衛門
同　芝神明前　和泉屋吉兵衛
大坂心齋橋通唐物町　河内屋太助板